

玉名市文化財調査報告 第13集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ

平成13・14年度の調査

平成16年(2004). 3月

玉名市教育委員会

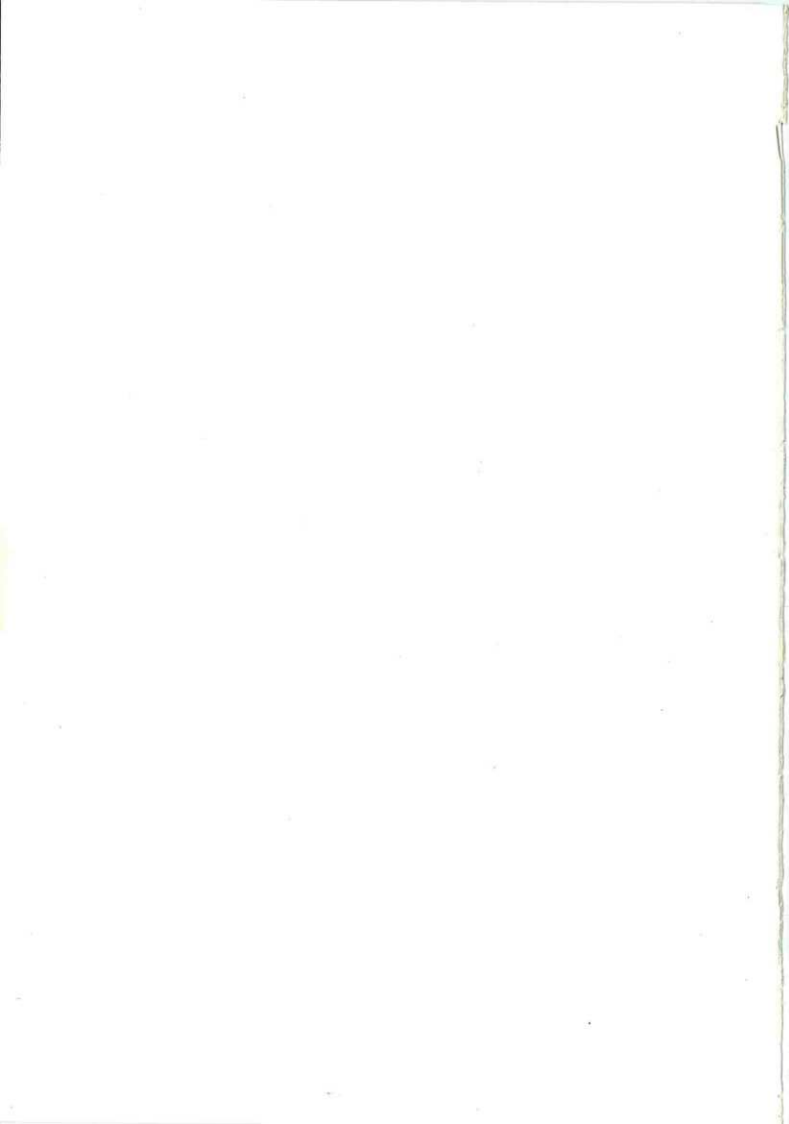
玉名市文化財調査報告 第13集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ

平成13・14年度の調査

平成16年(2004). 3月

玉名市教育委員会



本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

I	調査の概要	1
1	調査の体制	1
2	調査の方法	1
3	調査総括	1
II	平成13年度の調査	5
1	岩崎城跡	7
2	岩崎原遺跡 (A地点)	8
3	古閑遺跡	9
4	高瀬御茶屋跡	12
5	一本松遺跡	15
6	高岡原遺跡	16
7	保田木貝塚・保田木城跡	20
8	稲荷山古墳	22
9	岩崎原遺跡 (B地点)	23
10	玉名平野桑里跡	24
11	永安寺跡・永安寺古塔碑群	25
12	糠峯遺跡	28
13	山田松尾平遺跡	46
14	長福寺跡	47
15	築地市場遺跡	50
16	菊尾遺跡	52
17	伊倉古宮原遺跡	56
18	田嶋遺跡 (A地点)	58
19	大塚・惣萩遺跡 (A地点)	63
20	田嶋遺跡 (B地点)	64
21	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡	65
22	大塚・惣萩遺跡 (B地点)	67
III	平成14年度の調査	71
1	大塚・惣萩遺跡	73
2	青野原遺跡	74
3	稲荷山古墳	76
4	高岡原J遺跡	78
5	五郎丸遺跡 (A地点)	95
6	狐ん路遺跡	96
7	西の山古墳群	103
8	長福寺跡	105
9	高瀬本町通遺跡	109
10	伊倉宮の後遺跡	111
11	亀甲遺跡 (A地点)	113
12	五郎丸遺跡 (B地点)	114
13	蓮華遺跡	115
14	亀甲遺跡 (B地点)	116
15	一本松遺跡	117
16	保田木城跡・光蓮寺跡	118
17	ふれあい広場建設予定地	123
18	中村館跡	125
19	築地東遺跡	130
IV	石橋の調査	135
1	乙宮橋	135
2	石造十六橋	138
3	石貫車橋	141
	付論 近世における「高瀬」の側面と出土陶磁器	143

挿 図 目 次

第1図	玉名市内遺跡分布図	3
第2図	岩崎城跡調査地位置図	7
第3図	岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	7
第4図	岩崎原遺跡A地点調査地位置図	8
第5図	岩崎原遺跡A地点周辺地籍図・トレンチ配置図	8
第6図	岩崎原遺跡A地点トレンチ土層図	8
第7図	古閑遺跡調査地位置図	9
第8図	古閑遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	9
第9図	古閑遺跡トレンチ実測図	10
第10図	古閑遺跡遺物実測図	10
第11図	高瀬御茶屋跡調査地位置図	12
第12図	高瀬御茶屋跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	12
第13図	高瀬御茶屋跡トレンチ実測図	13
第14図	高瀬御茶屋跡遺物実測図	13
第15図	一本松遺跡調査地位置図	15
第16図	一本松遺跡トレンチ配置図	15
第17図	高岡原遺跡調査地位置図	16
第18図	高岡原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	16
第19図	高岡原遺跡トレンチ実測図	17
第20図	高岡原遺跡遺物実測図(1)	18
第21図	高岡原遺跡遺物実測図(2)	19
第22図	保田木貝塚・保田木城跡調査地位置図	20
第23図	保田木貝塚・保田木城跡調査地周辺地籍図	20
第24図	保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層図	21
第25図	保田木貝塚・保田木城跡遺物実測図	21
第26図	稲荷山古墳調査地位置図	22
第27図	稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	22
第28図	稲荷山古墳トレンチ土層図	22
第29図	岩崎原遺跡B地点調査地位置図	23
第30図	岩崎原遺跡B地点地籍図・トレンチ配置図	23
第31図	岩崎原遺跡B地点土層図	23
第32図	玉名平野条里跡調査地位置図	24
第33図	玉名平野条里跡トレンチ配置図・土層図	24
第34図	永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地位置図	25

第35図	永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	25
第36図	永安寺跡・永安寺古塔碑群土層断面図	26
第37図	永安寺跡・永安寺古塔碑群遺物実測図	27
第38図	糠峯遺跡周辺古代～中世主要遺跡分布図	29
第39図	糠峯遺跡調査地位置図	31
第40図	糠峯遺跡調査範囲・確認調査トレンチ配置図	31
第41図	糠峯遺跡確認調査トレンチ実測図	33
第42図	糠峯遺跡遺構実測図	34
第43図	糠峯遺跡甕棺墓実測図	36
第44図	糠峯遺跡甕棺実測図	37
第45図	糠峯遺跡遺物実測図	38
第46図	糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図 (1)	39
第47図	糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図 (2)	40
第48図	糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図 (1)	40
第49図	糠峯遺跡遺構外出土遺物実測図 (2)	41
第50図	松尾平遺跡調査地位置図	46
第51図	松尾平遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	46
第52図	松尾平遺跡トレンチ土層断面図	46
第53図	長福寺跡調査地位置図	47
第54図	長福寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	47
第55図	長福寺跡トレンチ実測図	48
第56図	長福寺跡遺物実測図	48
第57図	築地市場遺跡調査地位置図	50
第58図	築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	50
第59図	築地市場遺跡トレンチ実測図	51
第60図	菊尾遺跡調査地位置図	52
第61図	菊尾遺跡遺構配置図	53
第62図	菊尾遺跡遺構実測図	53
第63図	菊尾遺跡遺物実測図 (1)	54
第64図	菊尾遺跡遺物実測図 (2)	55
第65図	伊倉古宮原遺跡調査地位置図	56
第66図	伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	56
第67図	伊倉古宮原遺跡トレンチ実測図	57
第68図	伊倉古宮原遺跡遺物実測図	57
第69図	田嶋遺跡A地点調査地位置図	58
第70図	田嶋遺跡A地点周辺地籍図・トレンチ配置図	58

第71図	田嶋遺跡A地点トレンチ・遺構配置図	59
第72図	田嶋遺跡A地点遺構・土層実測図	59
第73図	田嶋遺跡A地点トレンチ実測図	60
第74図	田嶋遺跡A地点遺物実測図(1)	61
第75図	田嶋遺跡A地点遺物実測図(2)	62
第76図	大塚・惣萩遺跡A地点調査地位置図	63
第77図	大塚・惣萩遺跡A地点周辺地籍図・トレンチ配置図	63
第78図	田嶋遺跡B地点調査地位置図	64
第79図	田嶋遺跡B地点周辺地籍図・トレンチ配置図	64
第80図	上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡調査地位置図	65
第81図	上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡トレンチ配置図	65
第82図	上小田宮の前遺跡・古屋敷遺跡トレンチ土層図・遺物実測図	66
第83図	大塚・惣萩遺跡B地点調査地位置図	67
第84図	大塚・惣萩遺跡B地点周辺地籍図・トレンチ配置図	67
第85図	大塚・惣萩遺跡調査地位置図	73
第86図	大塚・惣萩遺跡周辺地籍図・トレンチ配置図	73
第87図	大塚・惣萩遺跡トレンチ土層図	73
第88図	青野原遺跡調査地位置図	74
第89図	青野原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	74
第90図	青野原遺跡トレンチ・遺物実測図	75
第91図	稲荷山古墳調査地位置図	76
第92図	稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	76
第93図	稲荷山古墳遺物実測図	76
第94図	玉名市内縄文時代主要遺跡分布図	79
第95図	高岡原J遺跡調査地位置図	80
第96図	高岡原J遺跡調査範囲位置図	80
第97図	高岡原J遺跡確認調査トレンチ土層図	80
第98図	高岡原J遺跡IV層上面遺構配置図	82
第99図	高岡原J遺跡V層上面遺構配置図	83
第100図	高岡原J遺跡遺構平面図(IV層上面)	85
第101図	高岡原J遺跡トレンチ土層図	86
第102図	高岡原J遺跡遺構実測図(V層上面)	87
第103図	高岡原J遺跡遺物実測図	87
第104図	五郎丸遺跡A地点調査地位置図	95
第105図	五郎丸遺跡A地点周辺地籍図・トレンチ配置図	95
第106図	五郎丸遺跡A地点トレンチ土層図	95

第107図	狐ん路遺跡周辺弥生時代主要遺跡分布図	97
第108図	狐ん路遺跡調査地位置図	98
第109図	狐ん路遺跡調査範囲	98
第110図	狐ん路遺跡確認調査トレンチ実測図	98
第111図	狐ん路遺跡遺構実測図	100
第112図	狐ん路遺跡遺物実測図	100
第113図	西の山古墳群調査地位置図	103
第114図	西の山古墳群調査地周辺地籍図トレンチ配置図	103
第115図	西の山古墳群トレンチ土層図	104
第116図	長福寺跡調査地位置図	105
第117図	長福寺跡トレンチ配置図	105
第118図	長福寺跡トレンチ土層図	106
第119図	長福寺跡遺物実測図	107
第120図	高瀬本町通遺跡調査地位置図	109
第121図	高瀬本町通遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	109
第122図	高瀬本町通遺跡トレンチ実測図	110
第123図	高瀬本町通遺跡石列配置図	110
第124図	高瀬本町通遺跡遺物実測図	110
第125図	伊倉宮の後遺跡調査地位置図	111
第126図	伊倉宮の後遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	111
第127図	伊倉宮の後遺跡トレンチ土層図	112
第128図	伊倉宮の後遺跡遺物実測図	112
第129図	亀甲遺跡A地点調査地位置図	113
第130図	亀甲遺跡A地点周辺地籍図・トレンチ配置図	113
第131図	亀甲遺跡A地点トレンチ土層図	113
第132図	亀甲遺跡A地点遺物実測図	113
第133図	五郎丸遺跡B地点調査地位置図	114
第134図	五郎丸遺跡B地点周辺地籍図・トレンチ配置図	114
第135図	蓮華遺跡調査地位置図	115
第136図	蓮華遺跡土層断面位置図	115
第137図	蓮華遺跡土層断面図	115
第138図	亀甲遺跡B地点調査地位置図	116
第139図	亀甲遺跡B地点周辺トレンチ配置図	116
第140図	亀甲遺跡B地点トレンチ実測図	116
第141図	一本松遺跡調査地位置図	117
第142図	一本松遺跡トレンチ配置図	117

第143図	一本松遺跡トレンチ土層図	117
第144図	保田木城跡・光蓮寺跡調査地位置図	118
第145図	保田木城跡・光蓮寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	118
第146図	保田木城跡・光蓮寺跡凝灰岩位置図	119
第147図	保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ土層図	119
第148図	保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(1)	120
第149図	保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(2)	121
第150図	ふれあい広場建設予定地位置図	123
第151図	ふれあい広場建設予定地トレンチ配置図・土層図	123
第152図	中村館跡調査地位置図	125
第153図	中村館跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	125
第154図	中村館跡全体図	126
第155図	中村館跡トレンチ土層図	127
第156図	中村館跡遺物実測図	128
第157図	築地東遺跡調査地位置図	130
第158図	築地東遺跡トレンチ配置図	130
第159図	築地東遺跡トレンチ土層図	131
第160図	築地東遺跡遺物実測図	131
第161図	乙宮橋位置図	135
第162図	乙宮橋実測図	135
第163図	石造十六橋位置図	138
第164図	石造十六橋実測図	139
第165図	石貫車橋位置図	141
第166図	石貫車橋実測図	141

ご挨拶

玉名市は、縄文時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。近年は、国道208号玉名バイパスの建設も進み、九州新幹線の整備も予定されており、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会ではさまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなど、体制の充実に努めてまいりました。今後予想される九州新幹線をはじめとする各事業に対応するため、玉名市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、平成13・14年度に実施した、各種開発に伴う試掘確認調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月31日

玉名市教育委員会
教育長 森 義臣

例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成13年・14年の2カ年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会社会教育課竹田宏司、田中康雄、末永崇、古閑敬士、齧父雅史、大倉千寿が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、齧父が行い、精図は、末永、齧父、早川イツエが行った。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は末永が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図から転記した。座標値は日本測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、年度毎に、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに末永が校正・補足した。編集は末永が担当した。

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成13年度

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 三次昭也
調査総括 教育次長 久多見澄夫
社会教育課長 牧野和明
社会教育課審議員兼文化係長
西田道彦

庶務担当 参事 徳永太郎
主事 東田優子
調査担当 参事 竹田宏司
技師 田中康雄
技師 末永 崇
調査員 藪父雅史

平成14年度

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 三次昭也
調査総括 教育次長 久多見澄夫
社会教育課長 牧野和明
社会教育課審議員兼課長補佐
西田道彦

庶務担当 文化係長 岩永次郎
主事 高田智華
調査担当 参事 竹田宏司
主任 田中康雄
技師 末永 崇
調査員 古閑敬士
調査員 藪父雅史
調査員 大倉千寿

平成15年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 三次昭也（至12月19日）
教育長 森 義臣（自12月22日）
調査総括 教育次長 久多見澄夫
社会教育課長 牧野和明
社会教育課審議員兼課長補佐
西田道彦

庶務担当 文化係長 岩永次郎
主事 清田静香
報告書担当 技師 末永 崇
調査員 藪父雅史

2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7～1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準等定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常は35mmカラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度より、国・県の補助を受けて、各種開発に伴う試掘確認調査等を実施している。平成11年度、12年度はそれぞれ11件と27件の試掘確認調査を実施している。

I 調査の概要

平成13年度、14年度は、それぞれ22件と19件の試掘確認調査を実施した。地域的には、市域で最も住宅が集中している、玉名町校区、築山校区での調査が多い。調査原因は専用住宅、共同住宅に伴う調査が大部分である。

平成13年度の調査概要は次のとおり。

高瀬地区では保田木貝塚、高瀬御茶屋、長福寺跡の確認調査を実施しており、主に近世～近代の遺物が出土している。

築地、山田、立願寺地区では、菊尾遺跡、古閑遺跡、糠峯遺跡、大塚・惣萩遺跡、高岡原遺跡などの調査を実施している。

菊尾遺跡の調査では、古墳時代前期とみられる住居跡が確認されている。平成12年度に実施した確認調査で検出された住居跡からは古墳時代後期の須臾器が出土しており、今後の調査では集落の時期変遷なども考慮する必要がある。

糠峯遺跡では、確認調査後に本調査を実施しており、弥生時代の甕棺墓などが確認されている。その他、縄文時代や古代の遺物が出土している。

高岡原遺跡の調査では、弥生時代後期の住居跡が確認され、過去の調査と併せて集落の様相などの検討が必要であろう。

大塚・惣萩遺跡では、14年度も併せて3件の確認調査を行ったが、隣接する古墳に伴うとみられる遺構などは確認されなかった。調査した地点は既に植林や畑などの造成に伴い削平されており、周溝などの残存の可能性は低いと判断される。

永安寺跡・永安寺古塔碑群の調査では、主に中世の土師器などの遺物が多く出土している。

伊倉古宮原遺跡の調査では、主に弥生時代後期の土器片が検出されており、立地などから調査地点周辺には集落の存在が予想される。

平成14年度の調査概要は次のとおり。

高瀬地区では保田木城跡・光蓮寺跡、長福寺跡、高瀬本町通遺跡の調査を実施しており、13年度と合わせると6件になる。調査では、近世の陶

磁器や、近世又は近代の建物の基礎などが確認されている。

高岡原J遺跡では、確認調査後に本調査を実施し、縄文時代とみられる遺構や、古代とみられる溝状の遺構などが確認された。

狐ん路遺跡でも、確認調査後に本調査を実施し、弥生時代後期の住居跡を検出した。

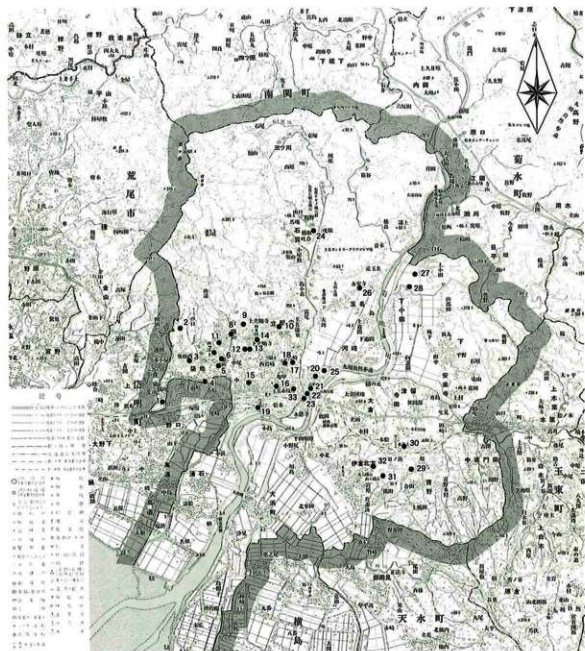
玉名市西側の境川右岸に所在する田嶋遺跡・中村館跡では、13年度と合わせ3件の調査を実施している。調査では、溝状の遺構が検出され、館に伴う堀跡と判断される。その他古代の遺物や竪穴住居跡が確認されている。田嶋遺跡に隣接する春出遺跡では平成12年度に玉名市西部地区土地区画整理事業に伴い確認調査が行われている。

築地東遺跡の調査では、住居跡とみられる遺構が検出され、古墳時代前期の甕などが出土している。

伊倉地区では、一本松遺跡、伊倉宮の後遺跡の調査を実施した。伊倉宮の後遺跡では、縄文時代、弥生時代の遺物が出土した。

また、玉名市教育委員会では平成10年度から玉名市内に所在する石橋の調査を3ヶ所行った。それぞれ乙宮橋、石造十六橋、石貫車橋であり、今回併せて報告している。

I 調査の概要



- | | | |
|------------|----------------|----------------|
| 1 菊尾遺跡 | 12 高岡原遺跡 | 22 長福寺跡 |
| 2 西の山古墳群 | 13 高岡原J遺跡 | 23 高瀬御茶屋跡 |
| 3 狐ん路遺跡 | 14 糠峯遺跡 | 24 石貫車橋 |
| 4 築地市場遺跡 | 15 田嶋遺跡・中村館跡 | 25 乙宮橋 |
| 5 蓮華遺跡 | 16 亀甲遺跡 | 26 永安寺跡・永安古塔碑群 |
| 6 古閑遺跡 | 17 岩崎城跡 | 27 上小田宮の前遺跡 |
| 7 築地東遺跡 | 18 岩崎原遺跡 | 28 上小田古屋敷遺跡 |
| 8 石造十六橋 | 19 玉名平野条里跡 | 29 青野原遺跡 |
| 9 山田松尾平遺跡 | 20 保田木貝塚・保田木城跡 | 30 一本松遺跡 |
| 10 大塚・惣萩遺跡 | 光蓮寺跡 | 31 伊倉古宮原遺跡 |
| 11 五郎丸遺跡 | 21 高瀬本町通遺跡 | 32 伊倉宮の後遺跡 |
| | | 33 稲荷山古墳 |

第1図 玉名市内遺跡分布図 S=1/100,000 ※今回報告分のみ

I 調査の概要

平成13・14年度市内遺跡試掘調査の一覧

年度	番号	遺跡名	所在地	面積(m ²)	種別	発掘時期	調査施設	調査員	担当	用途
13	1	岩崎地蔵	岩崎寺字岩崎660-3	776.00	確認調査	ISJ	公共施設建設	13年4月16日	田中康雄	供養工事
13	2	新南河邊跡 (A地点)	立野寺字新南河邊13-3	881.11	確認調査	ISH	民住宅	13年4月20日	木永 崇	供養工事
13	3	古南河邊	築地2022-1,2016-1,1864-49A11E	6,912.00	試掘調査	KOG	店舗	13年5月14日～5月17日	木永 崇	供養工事
13	4	高瀬原東遺跡	高瀬原33外遺跡	1,635.38	確認調査	TOA	倉庫	13年6月6日	田中康雄	供養工事
13	5	一本松遺跡	伊倉字方2231-1	1,200.00	確認調査	IPM	雑草	13年6月8日	田中康雄	供養工事
13	6	高田原遺跡	山田寺高田原2046-1	692.00	確認調査	TOB	民住宅	13年6月21日	田中康雄	供養工事
13	7	橋田木貫庫・橋田木樋跡	高瀬原340-1	1,016.21	確認調査	HTK-HJK	神社	13年6月26日～6月28日	田中康雄	供養工事
13	8	磐阿山石室	磐阿837-16	71.00	確認調査	IVK	民住宅	13年7月11日	田中康雄	供養工事
13	9	新南河邊跡 (B地点)	新南河邊跡1136	883.69	確認調査	ISH	民住宅	13年8月20日	田中康雄	供養工事
13	10	五名平野系遺跡	六田1-1	6,031.43	確認調査	THJ	事務所	13年8月24日	田中康雄	供養工事
13	11	水家寺跡・水家寺古墳群跡	五名平野水家寺233	685.36	確認調査	EJ-ENG	事務所	13年9月14日	田中康雄	供養工事
13	12	藤家遺跡	立野寺大塚569-1	1,211.00	確認調査	NKM	民住宅	13年9月4日～9月5日	木永 崇	供養工事
13	13	山田山崎平遺跡	山田寺山崎平361-8	466.17	確認調査	YMH	民住宅	13年9月7日	田中康雄	供養工事
13	14	長尾寺跡	高瀬原八日町652	375.59	確認調査	CFJ	民住宅	13年9月10日	竹田敬司	供養工事
13	15	築地市川遺跡	築地市川689,100-1,102-1	1,033.06	確認調査	TJL	店舗	13年11月16日	藤久雅史	供養工事
13	16	築地遺跡	築地42-2	140.14	工事立合	KNO	事務所	13年11月19日～14年7月4日	藤久雅史	供養工事
13	17	伊倉字岩崎遺跡	岩崎寺字岩崎476-5	340.00	確認調査	IFM	事務所	13年12月11日	藤久雅史	供養工事
13	18	田崎遺跡 (A地点)	中宇字田崎1577	526.35	確認調査	TJM	事務所	14年1月8日～1月9日	藤久雅史	供養工事
13	19	大塚・野沢遺跡 (A地点)	立野寺字大塚1050-1	1,665	確認調査	OTH	調査依頼	14年1月21日	藤久雅史	工事立合
13	20	田崎遺跡 (B地点)	中宇字田崎1592-5,1589-7	248.38	確認調査	TJM	事務所	14年2月8日	藤久雅史	供養工事
13	21	上小田原の稲遺跡・上小田原遺跡	上小田原今中712～東上之稻707-1	416.0	確認調査	KOM	遺跡	14年3月12日～3月14日	藤久雅史	供養工事
13	22	大塚・野沢遺跡 (B地点)	立野寺字大塚1055-1,1055-3,1054	1,682	確認調査	OTH	宅造成	14年3月20日	藤久雅史	供養工事
14	1	大塚・野沢遺跡	立野寺字大塚1062-2	1,014.00	確認調査	OTH	調査依頼	14年4月25日	藤久雅史	供養工事
14	2	野野原遺跡	大字野野原字北231-1	1,013.00	確認調査	ANH	送電線跡	14年4月26日	藤久雅史	供養工事
14	3	磐阿山石室	磐阿741,188	1,125.00	確認調査	INY	墓	14年4月16日	藤久雅史	供養工事
14	4	高田原遺跡	山田寺高田原2016-1,2018,2015-1	2,231.14	確認調査	TOJ	事務所	14年5月17日～5月28日	古藤敬士	供養工事
14	5	五所久遺跡 (A地点)	山田寺字五所久538-3	330.00	確認調査	GRM	事務所	14年6月6日～6月12日	古藤敬士	供養工事
14	6	五所久遺跡 (B地点)	高瀬原下流1199-5	396.90	確認調査	KNM	事務所	14年6月21日～6月25日	古藤敬士	供養工事
14	7	高の山古墳群	築地字高の山954-40	1,650.00	確認調査	NYK	事務所	14年7月2日	古藤敬士	供養工事
14	8	長尾寺跡	高瀬原48	662.02	確認調査	CFJ	銀行	14年8月7日～8月9日	藤久雅史	供養工事
14	9	高瀬原河邊遺跡	高瀬原字町5111-3	100.11	確認調査	THJ	店舗事務所	14年8月10日	藤久雅史	供養工事
14	10	伊倉字岩崎の遺跡	伊倉字方字岩崎1,2番2668,2700	744.57	確認調査	IMA	事務所	14年9月10日	藤久雅史	供養工事
14	11	亀甲遺跡 (A地点)	亀甲上土畑167-3	399.55	確認調査	KMK	事務所	14年10月4日	大倉千寿	供養工事
14	12	五所久遺跡 (B地点)	山田寺字五所久533-1	1,156.00	確認調査	GRM	事務所	14年12月25日	古藤敬士	供養工事
14	13	運草遺跡	築地字運草水1243-1	440.46	確認調査	RNG	民住宅	15年1月9日	木永 崇	供養工事
14	14	亀甲遺跡 (B地点)	亀甲上土畑238-1	746.15	確認調査	KMK	事務所	15年2月19日	木永 崇	供養工事
14	15	一本松遺跡	伊倉字方2231	5.60	確認調査	IPM	給食センター	15年3月12日～3月13日	藤久雅史	供養工事
14	16	橋田木貫庫・水運寺跡	高瀬原343-6	639.00	確認調査	MJ-KRJ	民住宅	15年3月17日	藤久雅史	供養工事
14	17	ふれあい広場建設予定地	立野寺中地	3,000.00	試掘調査	-	-	15年3月19日～3月20日	藤久雅史	供養工事
14	18	中村遺跡	中1406-1,1396-1	600.00	確認調査	NMY	稲田遺跡	15年3月25日～3月27日	藤久雅史	供養工事
14	19	築地東遺跡	築地1852,1854-1,1854-3	2,500.00	確認調査	TJH	稲田遺跡	15年3月28日	藤久雅史	供養工事

Ⅱ 平成13年度の調査

岩崎城跡
岩崎原遺跡(A地点)
古閑遺跡
高瀬御茶屋跡
一本松遺跡
高岡原遺跡
保田木貝塚
稲荷山古墳
岩崎原遺跡(B地点)
玉名平野条里跡
永安寺跡・永安寺古塔碑群
糠峯遺跡
山田松尾平遺跡
長福寺跡
菊尾遺跡
築地市場遺跡
伊倉古宮原遺跡
田嶋遺跡(A地点)
大塚・惣萩遺跡(A地点)
田嶋遺跡(B地点)
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡
大塚・惣萩遺跡(B地点)

II 平成13年度の調査

1 岩崎城跡

所在地：岩崎字池田668-3

対象面積：776㎡

調査期間：13年4月18日

担当者：田中康雄

調査地は、繁根木川の右岸、玉名市中心部の低丘陵上に位置し、標高約15mの地点である。岩崎城跡と推定されている菅原神社境内の北側部分であり、神社の南西側には、堀跡と思われるものが一部良好な状態で残存している。

今回は、公民館の建設に伴い確認調査を行った。その後、本調査を実施しており、平成14年度に報告書を作成している。



第2図 岩崎城跡調査地位置図 S=1/5,000



岩崎城跡調査地近景(西から)



第3図 岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎城跡調査状況(西から)



岩崎城跡遺構検出状況

II 平成13年度の調査

2 岩崎原遺跡(A地点)

所在地：立願寺前畑13-3

対象面積：851.11㎡

調査期間：13年4月20日

担当者：末永 崇

調査地は、国道208号線の北側、玉名市中心部の低丘陵上に位置し、標高17.5m程の地点である。周辺は、以前は畑作地であったが、現在は宅地化されている。

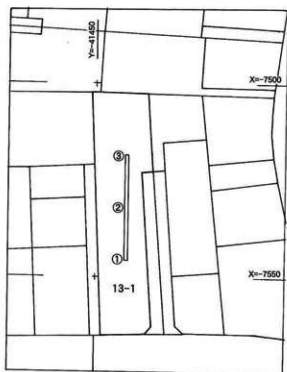
今回の調査では、対象地の中央に1本トレンチを設定し、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

調査の結果、I～VI層までを確認したが、遺構、遺物は確認されなかった。I、II層は現在の表土及び耕作に伴う層である。III、IV層は、暗褐色から黒褐色を呈する層で、周辺の発掘調査などで確認されている遺物包含層に近似しているが、今回調査した範囲において遺物は検出されなかった。V層以下は暗褐色の層で、無遺物層と判断した。

調査後の措置は、慎重工事である。



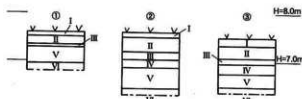
第4図 岩崎原遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第5図 岩崎原遺跡A地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎原遺跡A地点調査状況(南から)



第6図 岩崎原遺跡A地点トレンチ土層図

- I層 表土(0)
 - II層 暗褐色土(7.5YR3/3) 畑耕作土
 - III層 黒褐色土(7.5YR2/1)
 - IV層 暗褐色土(7.5YR3/4)
しまりがあり、やや粘性有す。
II層とは明確には分離できず、部分的にII層の黒褐色土を含む。
 - V層 暗褐色土(7.5YR3/3)
しまりがあり、やや粘性有す。部分的に暗い部分もあり、全体的に潤りがある。
 - VI層 暗土(7.5YR4/3)
しまりがあり、あまり粘性有しない。砂、細かい破片を少量混入する。
- ※遺構、遺物は未検出

II 平成13年度の調査

3 古岡遺跡

所在地：築地2022-1・2016-1外12筆

対象面積：6912㎡

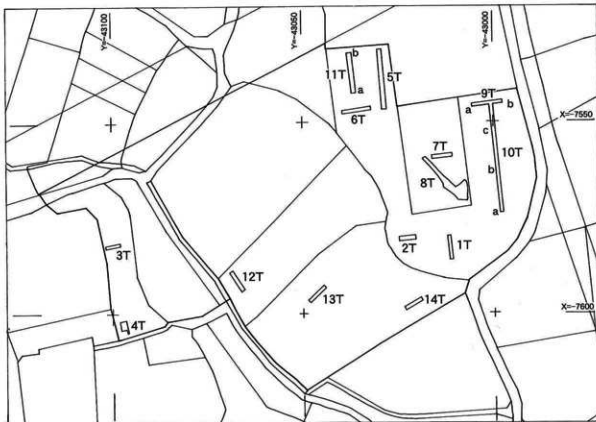
調査期間：13年5月14日～5月17日

担当者：末永 崇

調査地は、小代山から南側に延びる丘陵端部の標高10m～13mの地点である。工事の対象区は、舌状に延びる丘陵の先端部分と、西側の丘陵に挟まれた谷部分にまたがっており、それぞれ丘陵部が畑、谷部分が水田に利用されている。調査地北側50m程の地点にある築山小学校敷地内では甕棺墓が確認されていることから丘陵先端部にかけてもその存在が予想された。北側に隣接する都市計画街路築地立願寺線工事の際には、埋蔵文化財は確認されていない。

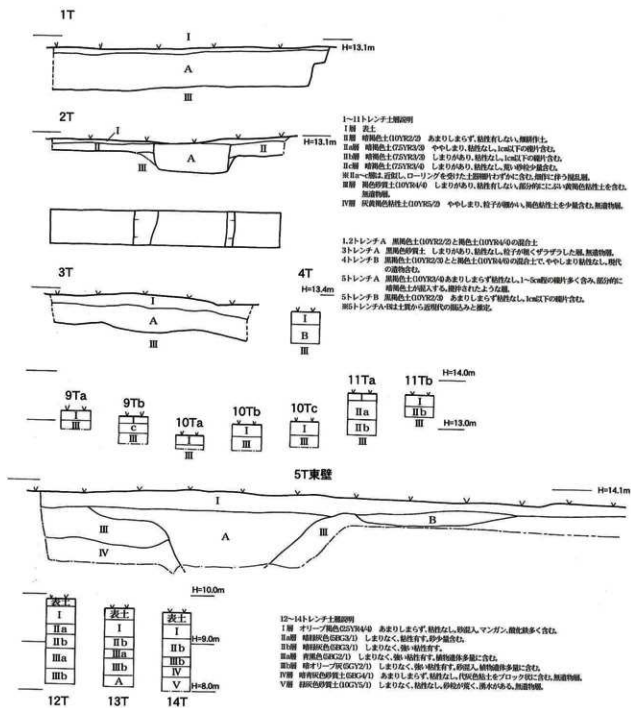


第7図 古岡遺跡調査地位置図 S=1/5,000

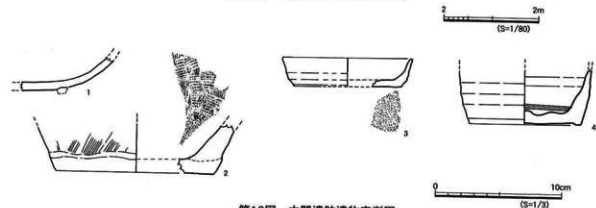


第8図 古岡遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成13年度の調査



第9図 古閑遺跡トレンチ実測図



第10図 古閑遺跡遺物実測図

II 平成13年度の調査

調査では、丘陵部分と水田部分にそれぞれトレンチを計14本設定し、重機及び人力によって掘削し、埋蔵文化財の状況を確認した。

丘陵部分は、畑作が行われており、ほぼ平坦に造成されている。大部分は表土及び耕作に伴う層の直下から無遺物層と判断される層が確認され、部分的に造成の際の盛土と思われる層が堆積している。このうち5トレンチから深さ約2m、逆台形を呈する土坑を確認した。土師質の土器の細片をわずかに含んでいるが、堆積の状況や土質から近代～現代の掘り込みと判断している。その他、耕作土中からも遺物の散布はごく少量であり、遺構は確認されなかった。

水田部分では、3カ所のトレンチを掘り下げてⅠ～Ⅴ層までを確認した。Ⅱ、Ⅲ層から弥生～現代の遺物を検出した。周辺からの流れ込みの遺物と考えられる。Ⅳ層以下から植物遺体が検出されたが、遺構、遺物は確認されなかった。

遺物は中世～近世の遺物（第10図1～4）を图示している。

調査後の措置は、慎重工事である。



古閑遺跡調査前状況(丘陵部分南から)



古閑遺跡調査地近景(西から)



古閑遺跡調査地(水田部分北から)



古閑遺跡調査地近景(水田部分西から)



古閑遺跡 10T 全景(南から)



古閑遺跡 9T 全景(西から)

II 平成13年度の調査

4 高瀬御茶屋跡

所在地：高瀬583外3筆

対象面積：1635.38㎡

調査期間：13年6月6日

担当者：田中康雄

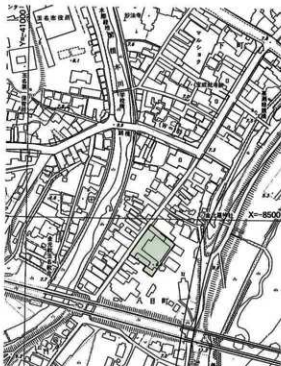
調査地は、JR鹿兒島本線の北側、菊池川右岸の自然堤防上に位置し、標高6.8m前後の地点である。

今回の調査では、建設予定の倉庫基礎掘削部のうち、3ヶ所にトレンチを設定して基礎掘削深度内（設計GL-90cm）について確認を行った。調査結果は以下の通りである。

3ヶ所のトレンチの内、トレンチNo.1ではIV-a～c層・V層・VI層で近代の遺物及び建物の基礎を確認した。トレンチNo.2では、トレンチNo.1のIV-b層・V層相当層、トレンチNo.3ではトレンチNo.1のIV-b層相当層を確認した。しかし基礎掘削深度内では、近世以前の遺構・遺物は確認されなかった。

遺物は主にV層から近代の挿鉢、陶磁器などを検出した。（第14図5～16）

調査後の措置は、慎重工事である。



第11図 高瀬御茶屋跡調査地位置図 S=1/5,000



第12図 高瀬御茶屋跡調査周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

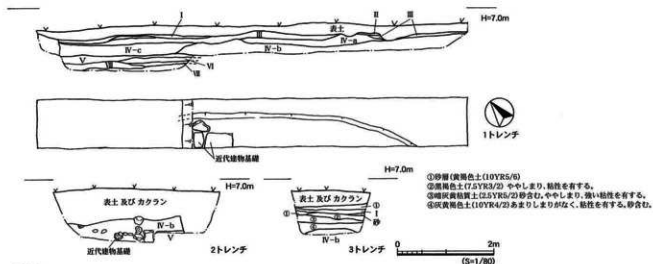


高瀬御茶屋跡 1T全景(西より)



高瀬御茶屋跡調査地近景(北東より)

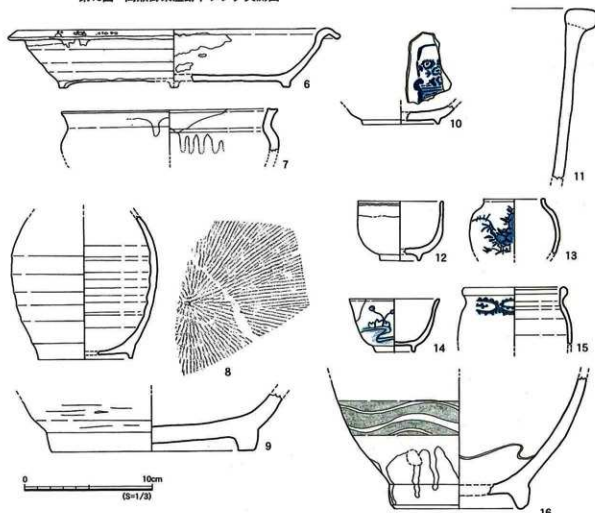
II 平成13年度の調査



土質説明

- I層 濃い赤褐色土(5YR4/4) あまりしりなく、粘性を有する。
 II層 暗赤土(2.5Y3/2) あまりしりなく、粘性を有する。
 III層 褐色砂(10YR4/6) 均砂
 IV層 暗赤土(7.5YR3/2) ややしりがあり、強い粘性を有する。
 V層 暗赤土(2.5YR3/2) 上よりやや暗い、やしりがあり、強い粘性を有する。砂を混入する。
 VI層 暗褐色粘質土(10YR3/2) ややしりがあり、強い粘性を有する。
 VII層 暗褐色粘質土(10YR3/2) しりなく、粘性を有する。
 VIII層 暗褐色粘質土(10YR3/4) ややしりがあり、強い粘性を有する。
 IX層 暗褐色粘質土(10YR4/4) あまりしりなく、粘性を有する。
 X層 暗褐色粘質土(10YR3/2) あまりしりなく、強い粘性を有する。
 XI層 濃い黄褐色粘質土(10YR4/2) あまりしりなく、粘性を有する。
- I~III 近代建物わずかに含む
 IV~IX 近代建物わずかに含む
 V, VI 近代建物多く含む

第13図 高瀬御茶屋跡トレンチ実測図



第14図 高瀬御茶屋跡遺物実測図

II 平成13年度の調査



高瀬御茶屋跡1T遺物検出状況



高瀬御茶屋跡1T上層堆積状況



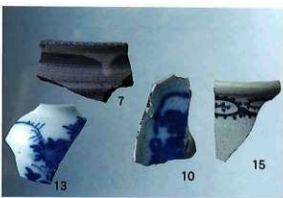
高瀬御茶屋跡2T土層堆積状況



高瀬御茶屋跡3T土層堆積状況



高瀬御茶屋跡出土遺物 6



高瀬御茶屋跡 7.10.13.15



高瀬御茶屋跡出土遺物 16



高瀬御茶屋跡

5 一本松遺跡

所在地：伊倉北方223-1

対象面積：1200㎡

調査期間：13年6月8日

担当者：田中康雄

調査地は、伊倉丘陵性台地上に位置する標高55m程の地点である。敷地は、旧県養鶏試験場跡地で、平成12年度に確認調査を行った養護老人ホーム建設予定地の北側にあたる。今回の調査では、施設建設予定地内にトレンチを4ヶ所設定して確認を行った。

調査の結果、4ヶ所のトレンチすべてで、表土下に旧県養鶏試験場の建設及び解体時の攪乱層が確認され、その下に無遺物層と考えられる層を確認した。遺構、遺物等は確認されなかった。

周辺の状況及び平成12年度の確認調査結果から、当地についても周辺地と同様に、旧県養鶏試験場建設の際の造成で大規模な削平が行われており、遺構遺物等が所在していたとしても、既に削平のため消失しているものと考えられる。

調査後の措置は慎重工事である。



第15図 一本松遺跡調査地位置図 S=1/20,000



第16図 一本松遺跡・トレンチ配置図 S=1/2,500



一本松遺跡トレンチ掘削状況(西から)



一本松遺跡土層堆積状況

6 高岡原遺跡

所在地：山田字高岡原2046-1

対象面積：692㎡

調査期間：13年6月21日

担当者：田中康雄

調査地は、小代山から南に延びる緩やかな丘陵上に位置し、標高25m程の地点である。

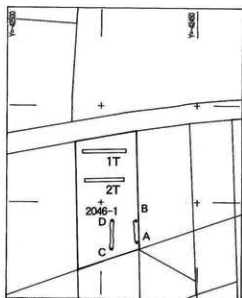
今回の調査では、敷地内の共同住宅建設部分にトレンチを2ヶ所設定して確認を行った。トレンチNo.1では、耕作等による擾乱が激しく、表土（耕作土）直下で弥生時代の遺物包含層及び一部弥生時代の遺構面が確認された。弥生時代の遺物包含層を除去して遺構の確認を行ったところ、ピット1基、土坑1基、住居跡らしきもの1基を確認した。トレンチNo.2では、表土（耕作土）直下で古代のものと考えられるピット、土坑を確認した。その他、中世の土師環などが出土した。

新築建物部分については、基礎掘削が遺物包含層及び遺構面に影響を与えないよう、盛土を行うことになり、調査後の措置は慎重工事となった。また、南側の進入路の拡張部分については、掘削される部分について調査を行い、弥生時代後期の住居とみられる遺構を検出した。

遺物は主に弥生時代の住居内から出土した。（第20・21図17～27）19、20は弥生時代後期に特徴的な脚台を有する甕である。24は高坏で、坏部に段を有するがあまり外側には開かない。28は土師環で底部は糸切りである。



第17図 高岡原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第18図 高岡原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

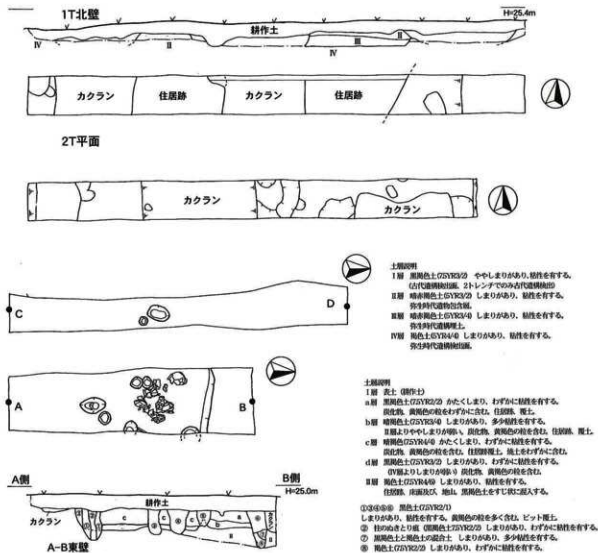


高岡原遺跡調査地近景(南から)



高岡原遺跡調査地近景(北から)

II 平成13年度の調査



第19図 高岡原遺跡トレンチ実測図

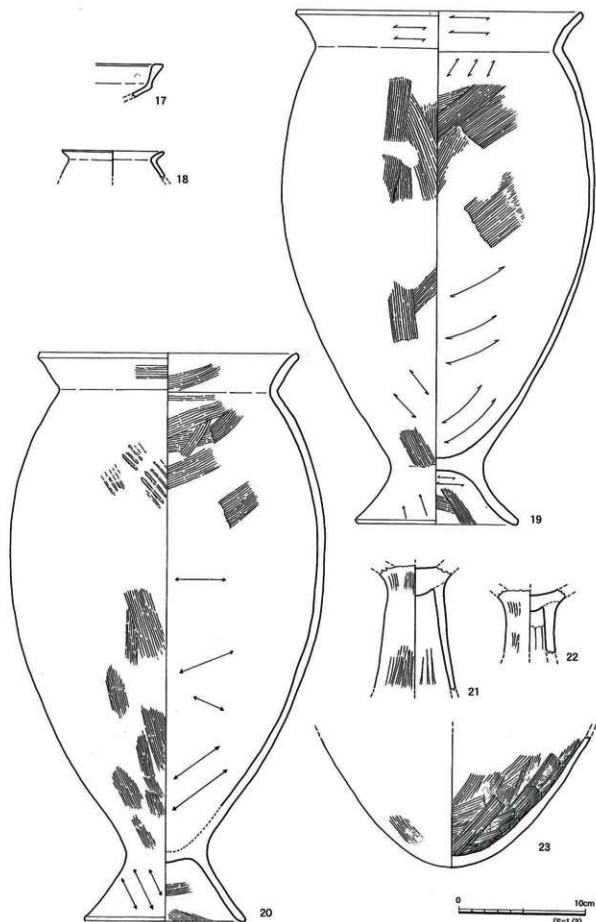


高岡原遺跡2T全景(東から)



高岡原遺跡2T遺構検出状況

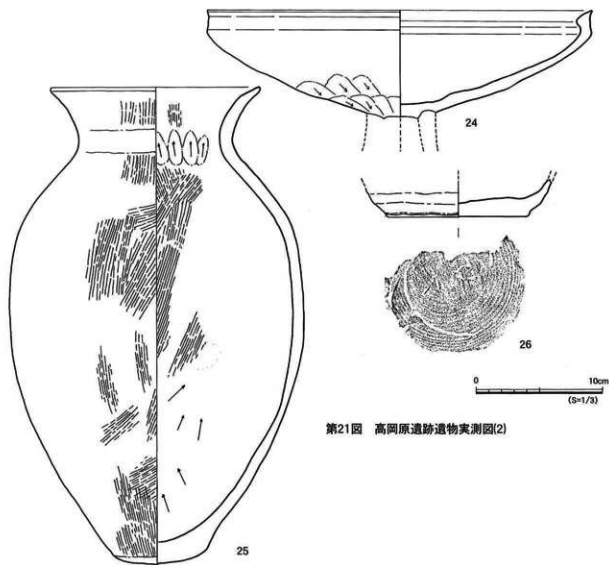
II 平成13年度の調査



第20図 高岡原遺跡遺物実測図(1)

0 10cm
(5=1/3)

II 平成13年度の調査



第21図 高岡原遺跡遺物実測図(2)



19



20

7 保田木貝塚・保田木城跡

所在地：高瀬1,3の一部

対象面積：1016.21㎡

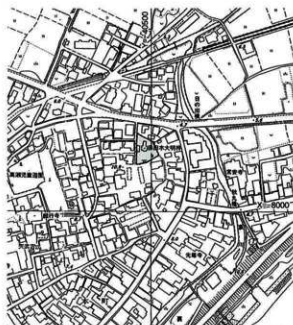
調査期間：13年6月26日～6月28日

担当者：田中康雄

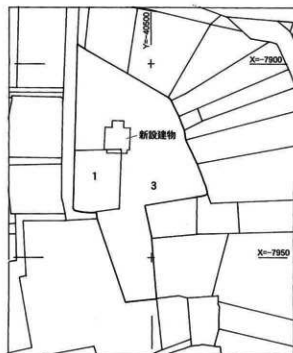
調査地は、玉名平野の南側、菊池川と繁根木川に挟まれた段丘北端部の標高12.5m前後の地点に位置しており、保田木神社の境内部分である。保田木貝塚及び保田木城跡・高瀬町奉行所跡の範囲内であり、また周辺部の発掘調査の結果、遺構面までの深度が浅いため、確認調査を行った。

調査の結果、旧拝殿下部は周辺部より10cm程高く、現況面から約10～20cmで近代の遺物包含層（厚さ約10cm）、約20～30cmで中世の遺物包含層（厚さ約20cm）が確認された。旧拝殿周辺部については、現況面から約10cmで近代の遺物包含層（厚さ約20cm）が確認された。また両者ともトレンチ最下部で、周辺部の調査で貝塚が確認されている層を確認した。

遺物は主に近世の陶磁器（第25図27～34）などを検出した。



第22図 保田木貝塚・保田木城跡調査地位置図 S=1/5,000



第23図 保田木貝塚・保田木城跡周辺地籍図 S=1/1,000



保田木貝塚・保田木城跡調査地近景(南から)

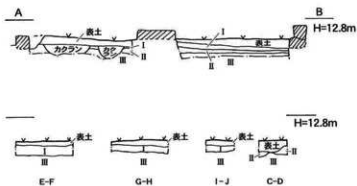
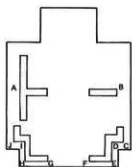


保田木貝塚・保田木城跡調査地(南から)



保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層堆積状況

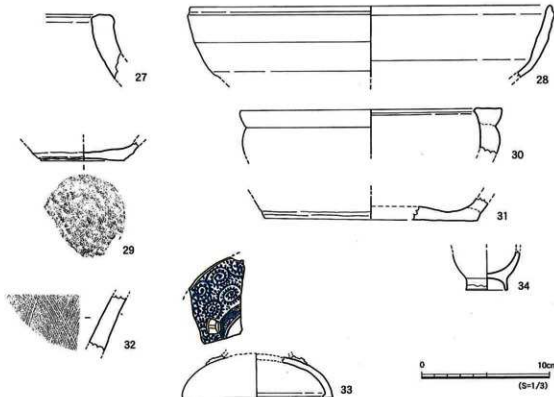
II 平成13年度の調査



層説明

- I層 黒褐色土(0YR3/2) ややしまりがあり、多少粘性を有する。近代~近世、遺物を含むと思われ、貝殻類、窯跡片混入。径2~3cmの小石混入。
 II層 黒褐色土(0YR3/2) あまりしまりがなく、多少粘性を有する。中世遺物を含むと思われ、貝殻類、窯跡片混入。径1cmの小石混入。
 III層 褐色土(5YR3/4) しまりがあり、粘性を有する(おそらく縄文時代貝塚の焼土層になるものと思われる) 2~3cm、こぶし大の石を混入。白色砂粒をわずかに含む。

第24図 保田木貝塚・保田木城跡トレンチ土層図



第25図 保田木貝塚・保田木城跡遺物実測図

8 稲荷山古墳

所在地：繁根木87-16

対象面積：71㎡

調査期間：13年7月11日

担当者：田中康雄

調査地は、繁根木川左岸の低丘陵上に位置し、標高18m前後の地点である。稲荷山古墳範囲に含まれることから確認調査を行った。

現地は東西に細長い敷地であり、古墳前方部と想定されている部分の北側縁辺部にあたることから、ほぼ敷地幅いっぱいに南北方向のトレンチを設定した。今回の工事は駐車場の建設で、現状地盤から最大50cm程切土される。このため切土範囲内での遺構・遺物の確認及確認を行った。

確認調査の結果、I～V層までを確認した。I～IV層までは近世以降の遺物を含んでおり、V層は2cm程の石を含む褐色粘性土で遺物は検出されなかった。今回掘削した範囲については、古墳に伴うと判断される層は確認できなかった。

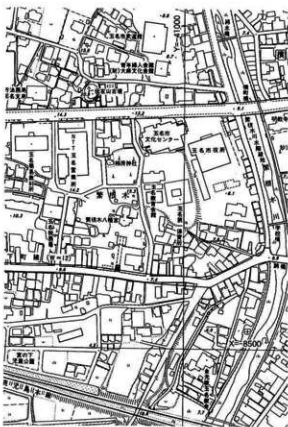
調査後の措置は、慎重工事である。



稲荷山古墳調査前状況(東から)



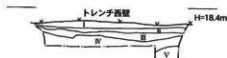
稲荷山古墳調査地土層堆積



第26図 稲荷山古墳調査地位置図 S=1/5,000



第27図 稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



土層説明

- I層 表土 (山砂と砂石の混合土 (腐土))
- II層 暗褐色土 (H1936/2) しまりがあり、腐植を有する。腐植物、焼土を混入する (腐代、腐成土)
- III層 暗褐色土 (H1936/3) しまりがあり、腐植を有する。腐植物、焼土を多少混入する (腐代～近代)
- IV層 褐色土 (H2036/4) 中～しまりがあり、腐植を有する。土中に1cm程度の小石を多く含む。近世遺物わずかに含む。
- V層 褐色土 (H2036/4) しまりがなく、強い腐植を有する。2～3cm程度の石を含む。

第28図 稲荷山古墳トレンチ土層図 S=1/80

9 岩崎原遺跡 (B地点)

所在地：岩崎字南岩原1136

対象面積：883.69㎡

調査期間：13年8月29日

担当者：田中康雄

調査地は、菊池川の右岸、玉名台地第三段丘上に位置する。標高は13m前後で現況は畑地である。

今回の調査では、建物基礎部周辺にトレンチをL字形に設定して確認を行った。調査の結果、I層が耕作土、II層が畑の床土、III層が遺物包含層に相当すると思われる暗褐色土、IV層が遺構検出面に相当すると思われる褐色土であった。しかしIII層中からは、土器小片がわずかに確認されたのみで、IV層でも小穴を3基検出したが、底面が不整形であることから樹木の根穴の可能性が高いと思われる。その他、明確な遺構及び遺物包含層は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



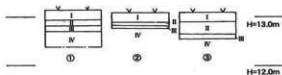
第29図 岩崎原遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



第30図 岩崎原遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎原遺跡B地点トレンチ全景



土層説明

I層 耕作土

II層 暗褐色土(0YR2/3) 非常に固くしまり、粘着性なし、白色砂粒を多数に含む。何らかの腐敗を受けていると思われる。粒子がやや粗い。畑の床土の可能性あり。

III層 褐色土(7.5YR5/6) しまりがあり、わずかに粘着性有する。白色砂粒を混入する。調査地点ごとに異なると思われる。土器小片をわずかに含む。

IV層 褐色土(7.5YR4/6) しまりがあり、多少粘着性有する。白色砂粒をわずかに含む。

第31図 岩崎原遺跡B地点トレンチ土層図 S=1/80

II 平成13年度の調査

10 五名平野条里跡

所在地：六田7-1

対象面積：6031.83㎡

調査期間：13年8月24日

担当者：田中康雄

調査地は、JR玉名駅の南側、菊池川の右岸平野部に位置し、標高は4m前後である。

今回の調査では、条里跡の範囲内であることから畦畔等の存在を想定して、基礎の予定部分に、東西42m、南北22mのL字型のトレンチと、長さ2mのトレンチを設定し確認を行った。調査の結果、I、II層は客土及び旧表土で、III層からV層にかけては、酸化した鉄分やマンガンが含まれることから水田耕作が行われていたのではないかと考えられるが、畦畔等は確認されなかった。遺物に関しては、III層で中世の遺物、V層で古代の遺物をわずかに検出した。

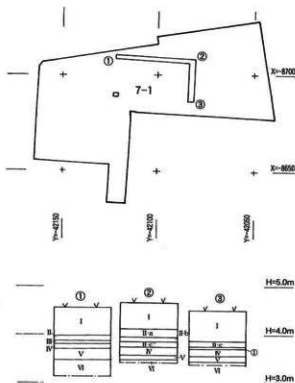
調査後の措置は、慎重工事である。



五名平野条里跡現況(南から)



第32図 五名平野条里跡調査地位置図 S=1/5,000



土層説明

I層 客土及び旧表層

II層 オリーブ風土(5Y3/2) ややしまり、粘性有しない、旧表土(中世代遺物含む)

III層 褐色土(7.5Y6/4)

しまりがあり、粘性有しない、白色砂粒、雲母片を含む、マンガンを粒状に多少含む(中世代遺物わずかに含む)

IV層 黒褐色土(2.5Y3/2) ややしまりがあり、粘性有する、酸化した鉄分を塊状に含む、マンガンを粒状に多少含む

V層 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)

しまりがなく、強い粘性有する、酸化した鉄分を塊状に含む、マンガンの粒を多少含む(古代遺物わずかに含む)

VI層 オリーブ粘質砂層(5Y5/4) しまりがなく、粘性有する、粘質土と砂の混合物、全体的に表面がゴツゴツしている、

畦畔が存在するならば、おそらくこの層で検出されると想われる。

① V層の2次堆積

第33図 五名平野条里跡トレンチ配置図・土層図 S=1/80

II 平成13年度の調査

11 永安寺跡・永安寺古塔碑群

所在地：永安寺3233

対象面積：635.36㎡

調査期間：13年9月14日

担当者：田中康雄

調査地は、玉名平野北側に広がる丘陵裾部の標高12m前後の地点で、永安寺西古墳の南側隣接地にあたる。

今回の調査では、建物基礎部の外周に沿ってトレンチを設定し確認を行った。

調査の結果北側のトレンチで現況面から約10cm程度で地山を確認したが、そこから南に急激に落ち込んでおり、その地形に沿って中世の土器小片を多量に含む層を確認した。また、建物南東側の合併浄化槽部分のトレンチを2m程掘り下げたところ、同様の遺物包含層が現況面から約1.2～1.3m前後で確認された。

遺物は瓦器の底部（43・44）、須恵器（45～48）、土師器（35～42）などが出土した。土師器は皿、杯とも底部は糸切りである。



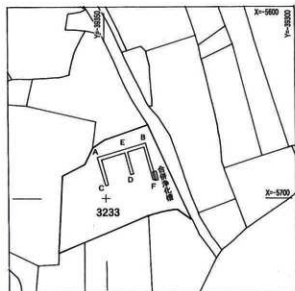
永安寺跡・永安寺古塔碑群遠景(南から)



永安寺跡・永安寺古塔碑群調査状況(北から)



第34図 永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地位位置図 S=1/5,000

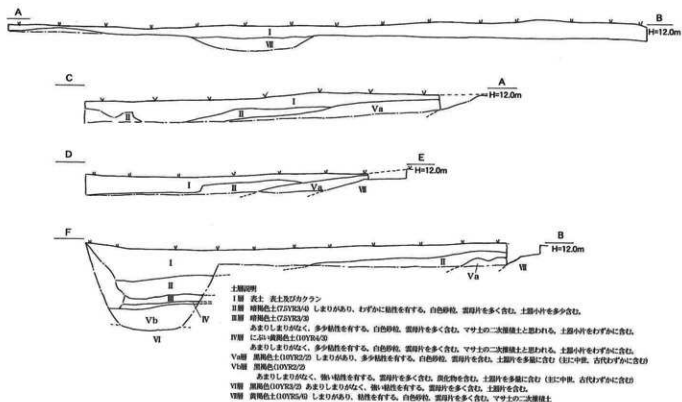


第35図 永安寺跡・永安寺古塔碑群調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



永安寺跡・永安寺古塔碑群トレンチ全景(北東から)

II 平成13年度の調査



第36図 永安寺跡・永安寺古塔碑群トレンチ土層図

0 2m
(S=1/80)



永安寺跡・永安寺古塔碑群B-F(南から)



永安寺跡・永安寺古塔碑群浄化槽部分遺物出土状況

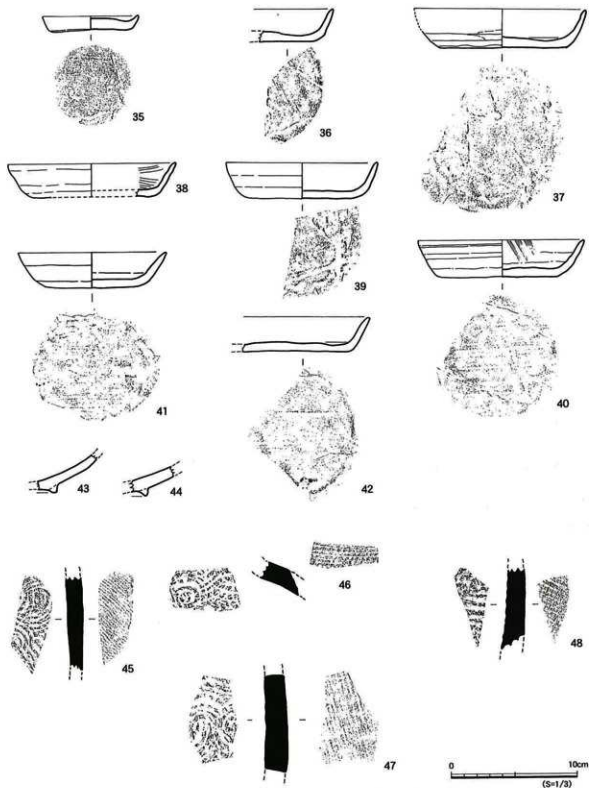


永安寺跡・永安寺古塔碑群F部分土層堆積状況



永安寺跡・永安寺古塔碑群A-B(東から)

II 平成13年度の調査



第37図 永安寺跡・永安寺古塔碑群遺物実測図

II 平成13年度の調査

1.2 糠峯遺跡

(1) 調査に至る経緯

玉名市立願寺字六地藏858-1において、共同住宅建設工事が計画された。しかし、当地を含む一帯は糠峯遺跡の範囲内に含まれていることから、平成13年8月8日付で文化財保護法第57条の2による届出がなされた。その後、9月4日から9月5日にかけて確認調査を実施し、その結果、敷地内に甕棺などの埋蔵文化財の存在が確認された。このため取り扱いについての協議を行い、建物部分については基礎掘削が埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、一部工事設計を変更することで現状保存できることとなった。しかし、進入路部分や擁壁部分などで掘削される部分については、発掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の体制

発掘調査（平成13年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼文化係長

西田道彦

調査事務 参事 徳永太一郎

主事 東田優子

調査担当 技師 末永崇（確認調査）

調査員 巖父雅史（本調査）

発掘作業員 品川タカ子 吉本スエ子

坂本弘子 北睦美 藤好貴彦 古賀武子

大西ミツ子 西川弘子 荒谷邦雄 橋口功

小崎美子

整理作業（平成15年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也（至12月19日）

教育長 森 義臣（自12月22日）

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐

西田道彦

調査事務 文化係長 岩永次郎

主事 清田静香

報告書担当 技師 末永崇

調査員 巖父雅史

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 平野輝代 古賀武子

(3) 遺跡の位置及び歴史的環境

糠峯遺跡は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置し、標高20～30m程である。遺跡の所在する丘陵は、西は境川、東は繁根木川に挟まれており、緩やかに南に傾斜している。遺跡は昭和50年前後に建設された糠峯団地などで大部分は宅地化されており、近年は共同住宅の建設なども多い。

遺跡は、熊本県遺跡地図では糠峯団地を含む一体で中世の遺跡として周知されている。付近住民の話によると、団地の造成時には大量の土師皿が出土したということである。

玉名市の旧石器時代の遺跡については、小代山麓などに3ヶ所ほど周知されており、石器の採集も伝えられている。しかし本格的な発掘調査は今のところ行われていない。

縄文時代については、玉名市内の丘陵上に貝塚が点在する。また、同じく丘陵上に縄文時代の遺跡が周知されている。近年は、柳町遺跡や、上小田宮の前遺跡などの低湿地に所在する遺跡の調査で、縄文時代の遺物が確認されている。

弥生時代については、縄文時代と同じように丘陵上を中心として集落が営まれているようで、発掘調査で住居跡、甕棺などが調査されている。

II 平成13年度の調査



1. 坂人跡遺跡
2. 今泉交差点
3. 藤原遺跡
4. 平町遺跡
5. 伊予守屋遺跡
6. 山田山古墳跡
7. 山田神社土門遺跡
8. 山田中心遺跡
9. 山田遺跡
10. 平地遺跡
11. 赤カブヤカタ
12. 原田遺跡
13. 春日遺跡
14. 中村遺跡
15. 藤原遺跡
16. 玉名遺跡
17. 三浦寺遺跡
18. 玉名郡古跡記念地
19. 山田村庭
20. 宮内遺跡
21. 南出遺跡
22. 角中遺跡
23. 伊賀寺跡
24. 野の山古墳跡
25. 原日本遺跡
26. 高瀬山古墳跡
27. 玉成遺跡
28. 法皇寺跡
29. 大内山古墳跡
30. 玉名平野古墳跡

第358回 調査遺跡分布図 S=1/20,000
(「熊本県遺跡地図」及び「新池川下流域詳細遺跡分布図」より転載)

玉名市築地に所在する東南大門遺跡では、平成6年に調査が行われ、甕棺墓が42基ほど確認されている。甕棺の内容は、北部九州系の須玖式と在地系の黒髪式が混在している状況であり、時期は弥生時代中期前葉から中期中葉と考えられている。糠峯遺跡周辺でも甕棺の出土が伝えられている。

古代については、玉名郡の郡司は日置氏であったとみられ、現在の疋野神社周辺が「疋石野（ひきいしの）」と呼ばれる一帯で、日置氏の拠点的な地域として伝えられている。同時に立願寺廃寺や玉名郡倉跡推定地、玉名郡家跡などの遺跡が所在する地域でもある。糠峯遺跡は、それらの遺跡とほぼ同じ丘陵上に所在し、調査地も立願寺廃寺の西側400mほどの地点である。さらに現在の玉名駅周辺にあったとされる大湊から、玉名郡家跡まで直線的に延びる道が想定されているが、調査地点はほぼその道沿いに位置する。調査地周辺は、玉名郡衙関連の遺跡群の辺縁部として位置付けられる。糠峯遺跡としては、部分的な確認調査は数回行われていて具体的な遺跡の内容は明らかではない。

平安時代については、律令体制の変質と荘園の発達の中で、日置氏は次第に勢力を失っていったようである。立願寺廃寺の存続期間は、出土遺物などから白鳳時代～奈良時代末と推定されており、玉名郡倉は文献上、9世紀後半までは存在が確認できる。

近年の工藤敬一氏の研究では、玉名郡内において10世紀末から11世紀前半の段階で、郡内の税の収納体制の変化に伴い、のちに野原荘となる現荒尾市・長洲町の地域、中心部の玉名東郷・西郷、菊池川以南の山北郷と伊倉郷という3ないし4つへの地域分化が進んだのではないかとされている。さらに律令体制下の玉名郡司であった日置氏はこの時点で伊倉郷を中心とする地域の一員郡司となったのではないかとされている。そして玉名西郷の

郡司となったのは紀姓大野氏であり、13世紀の史料ではあるが、「郡司紀」や、「政所紀」とみられることから、古代から中世にかけて玉名西郷の郡司として大野別符などの成立に関わったとみられている。

前述した日置氏は11世紀に伊倉の私領を手放してしまい、中世には立願寺も大野別符に含まれる。紀氏は郡司として玉名西郷を中心に活動し、大野別符の経営に携わる一方、鎌倉幕府が成立すると御家人化して、菊池氏とも連携し、菊池川下流域を中心に勢力を拡大していったようである。

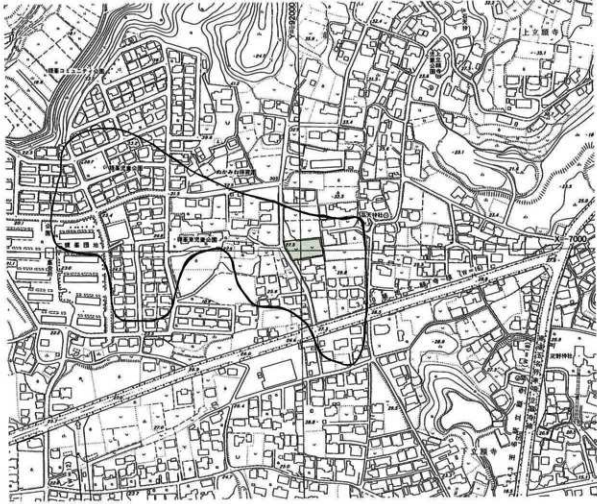
鎌倉時代後期の元寇の際には玉名地方から防衛に参加した大野別符関係者は、大野小次郎国隆や大野岩崎太郎などである。「紀宗善大野家由緒書上」には、大野家の由緒が記されており、16世紀の史料でそのまま当時の実態を示すかどうかかわからないが、中世の段階で大野別符内各所に一族が居していた状況であると思われる。岱明町を含んだ境川兩岸の丘陵上には、高岡屋敷跡、中村館跡、築地館跡などの大野一族の各氏の居館に比定されている遺跡が多く所在し、大野別符の拠点的な地域と考えられる。

このようにして、平安時代後半頃には、玉名郡内では社会体制・支配体制が変化し、糠峯遺跡の所在する丘陵一帯では、これまでの拠点的な地域が、玉名郡司の日置氏の勢力下であった玉名郡衙を含む立願寺一帯から、岱明町を含む境川流域（築地、山田、中地区など）に移っていった様子が窺える。（参考文献）工藤敬一1998「肥後玉名群の荘園公領と在地領主」『文学部論叢』第61号熊本大学文学会（4）確認調査（第40-41図）

確認調査では、敷地内の4ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。調査では、I～V層までを確認した。各層の内容は以下のとおりである。

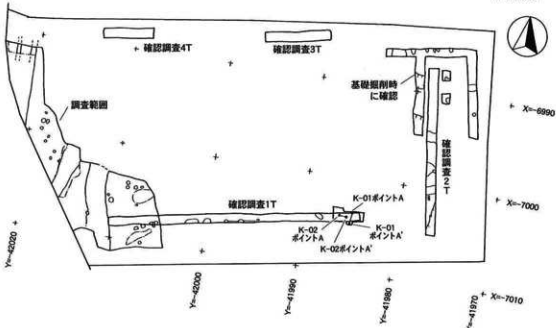
I層 耕作土

II 平成13年度の調査



第39図 標峯遺跡調査地位位置図

0 200m
(S=1/5,000)



第40図 標峯遺跡調査範囲・確認調査トレンチ配置図

0 10m
(S=1/400)

II 平成13年度の調査

II層 暗褐色土(7.5YR3/3)

しまりなく、あまり粘性有しない。粒が細かい砂がわずかに混入する。

III層 暗褐色土(7.5YR3/4)

ややしまり、あまり粘性有しない。砂、レキ片がわずかに混入する。

IVa層 黒褐色土(7.5YR3/1)

しまりがあり、やや粘性有す。暗褐色土を粒状に含む。弥生中期～古代の遺物含む。

IVb層 黒褐色土(7.5YR2/2)

非常にしまり、やや粘性有す。暗褐色土を粒状にわずかに含む。弥生中期～古代の遺物含む。

V層 褐色土(7.5YR4/4)

しまりがあり、やや粘性有す。無遺物層と判断。

遺物は主にIV層から出土しており、確認調査時に確認した遺物7点を図示している。(第45図54～60)

敷地内においての層位の状況は、西側がI～V層まで存在し、東側にかけてはI層の直下にV層を確認した。このうち、V層上面で甕棺墓などの遺構を検出した。調査区周辺は、本来は西に向けての傾斜地であり、周辺の状況などからII・III層については畑を平坦にするための造成に伴う層と判断した。東側を切土し、西側にかけて盛土したとみられる。敷地内の東側で検出した甕棺も上部が削平されており、畑の造成時に削られたと思われる。

(5) 調査の経緯及び方法

工事関係者との協議により、発掘調査範囲は、道路と接する敷地の西側約96㎡となった。また、西側にかけては工事の設計変更により現状保存できるようにしたが、確認調査で検出した甕棺に

ついては、今後の資料などにするため調査を行った。

調査はまずI～III層までを重機により掘削した。IV層以下を人力で掘削し、V層上面で遺構を検出した。遺構はそれぞれ番号を付けて掘り下げた。各遺構の実測は、甕棺墓は1/10スケール、その他の遺構は1/40スケールで行った。調査時の写真撮影は、35mmのカラーリバーサル及びモノクロフィルムで行った。

(6) 遺構と遺物

1号溝 (SD-01)

調査区南側で検出した溝状の遺構で、幅約2.0m、深さ約80cmで箱形に掘削されている。底部はほぼ平坦で緩やかに南に傾斜する。方向はほぼ南北に延び、約85mを検出した。覆土は5層に区分される。遺物は縄文～弥生時代の遺物が出土した。

2号溝 (SD-02)

調査区中央付近で検出した溝状の遺構で、幅約1.3～2.0m、深さ約20cmを図る。方向はほぼ南北に延びる。底面で硬化面を検出したため、道路遺構の可能性も考えられる。

SD-03

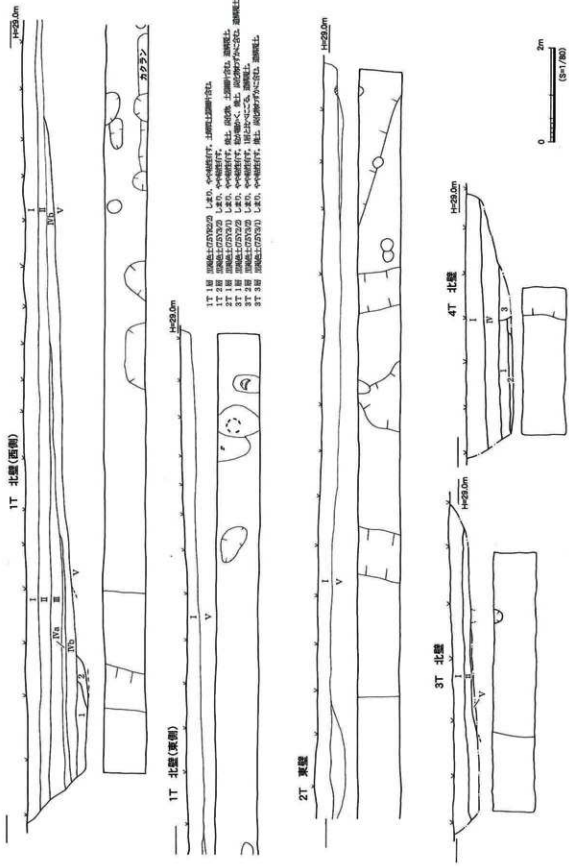
調査区北西側で検出した。現在の道路に沿って延びている遺構で、調査区北端のトレンチ部分のみ掘削した。幅約3.0m以上、深さは現在の道路面から最深部で約1.6mを測り、テラス状に段掘りされている。覆土は4層に区分される。

1号甕棺墓 (k-01)

確認調査1トレンチ東側で検出した。上部は大きく後世の削平により破壊されている。残存している墓壇の平面形状は、ほぼ楕円形を呈し、長軸約162cm、短軸102cm、検出面からの深さ最大で約56cmを測る。鉢形土器の土棺と、甕形土器の下棺の合口棺である。

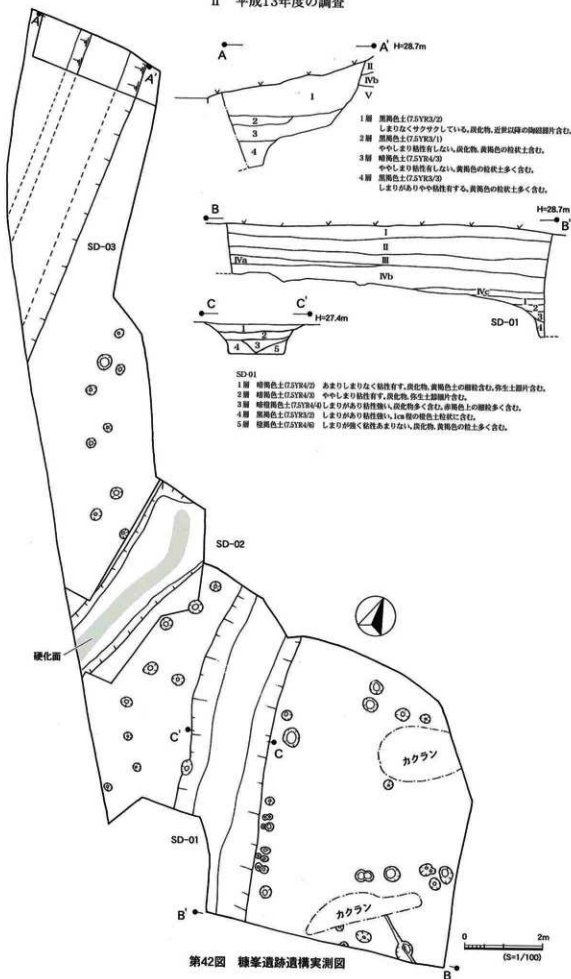
49は鉢形土器で口縁部を欠損する。底部は平底

II 平成13年度の調査



第41回 機軸遺跡確認調査トレンチ実測図

II 平成13年度の調査



第42図 糠峯遺跡遺構実測図

で、胴部は緩やかに内湾しながら開く。外面の調整は、縦方向と横方向のナデ調整される。50は甕形土器で底部はやや上底で厚みがあり裾がわずかに開く。胴部の最大径は中位よりやや上部で、口縁部は丸みを帯びた台形状を呈し内側に張り出す。
2号甕棺墓 (k-02)

確認調査1トレンチで検出した。上部は大きく後世の削平により破壊されている。残存している墓壇の平面形状は円形を呈し、長軸約136cm、短軸約128cm、検出面からの深さ最大で約53cmを測る。下棺が壺形土器(53)の合口棺であったとみられるが、上棺は削平により破壊されていた。51、52のどちらか又は両方の組み合わせの甕棺墓であったと思われる。遺物取上げの時点では、53ともう一個体分として想定し調査しており、整理の段階で51と52の2個体分と判明したため、それぞれの出土状況は明確ではない。

51は口縁部と底部が欠損するが、高坏の坏部分の形状を呈する土器である。52は壺形土器で胴部下位を欠損する。口演部はラッパ状に開き、頸部に突帯を1条巡らす。53は下棺に使用された壺で、口縁部を欠損する。算盤玉の形の胴部で底部はやや上げ底ぎみになる。頸部に突帯を1条巡らす。

外面は横方向に丁寧に調整される。

(7) まとめ

今回の調査で検出した遺構は、甕棺墓2基と溝状の遺構3基、ピット群などである。甕棺墓に使用されている甕棺は、1号甕棺墓の下棺は在地系の黒髪式の甕である。甕棺墓は2基とも上部は削平されており、畑の造成の際に破壊されたようである。したがって周辺にはさらに甕棺墓群が広がっていたとみられるが、すでに消滅したのもあるとみられる。

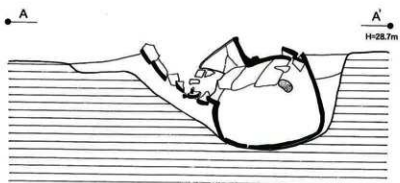
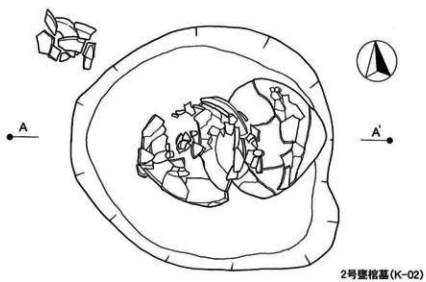
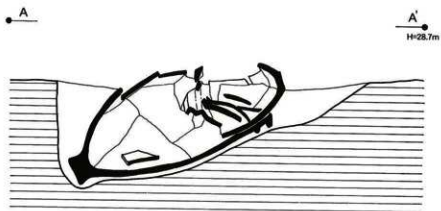
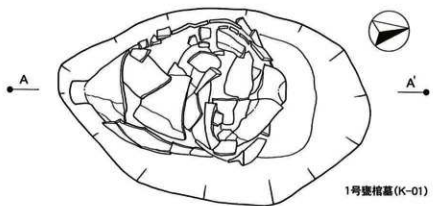
1号溝については、時期は出土した遺物から弥生時代と判断される。また、縄文時代の遺物も多く出土しており、遺構が埋没していった段階で縄文時代の遺構はすでに破壊されたことも考えられる。その他の遺構は遺物の出土もなく時期の特定は困難である。

また、今回の調査で旧石器時代とみられる石器が1点出土している。1号溝からの出土で、層に伴うものではなかったが、調査地周辺は旧石器時代の遺跡の存在についても注意が必要である。



糖峯遺跡調査前状況 (西から)

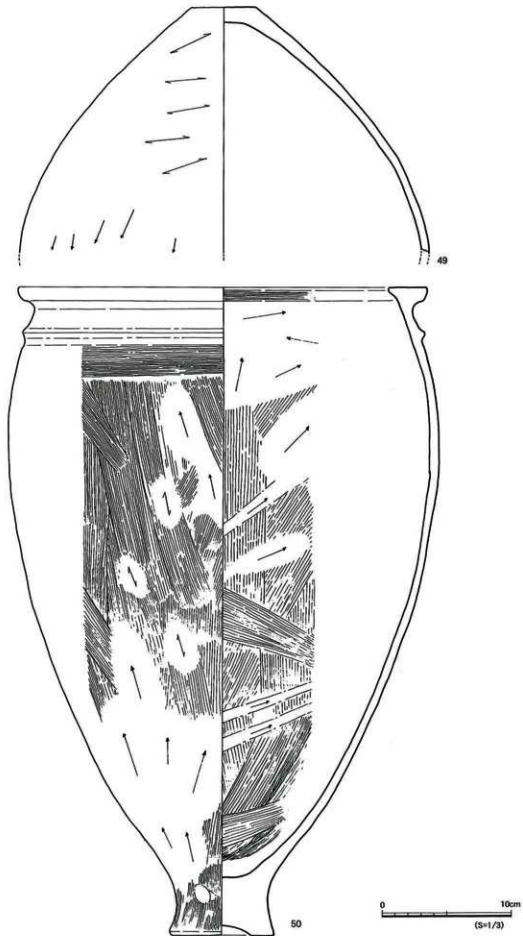
II 平成13年度の調査



第43図 糠峯遺跡壘棺墓実測図

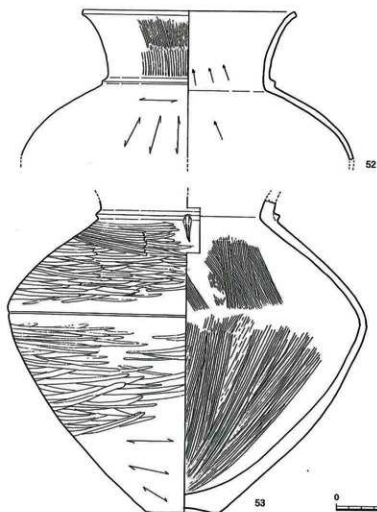
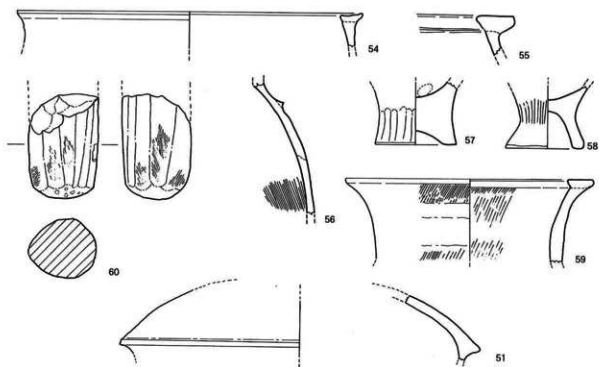
0 50cm
(S=1/20)

II 平成13年度の調査



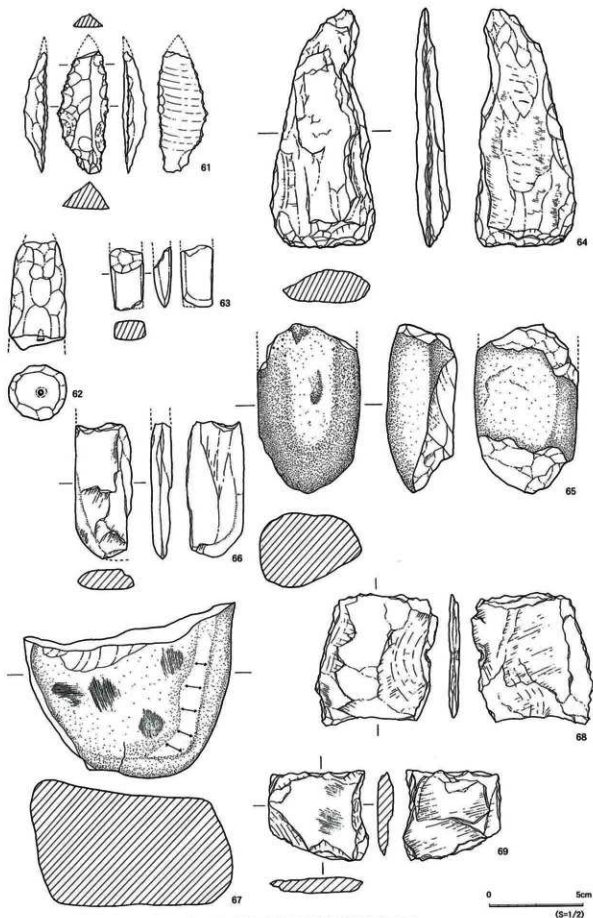
第44図 鎌峯遺跡雙棺実測図

II 平成13年度の調査



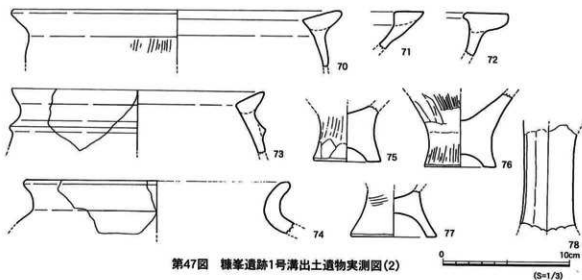
第45図 糖峯遺跡遺物実測図

II 平成13年度の調査

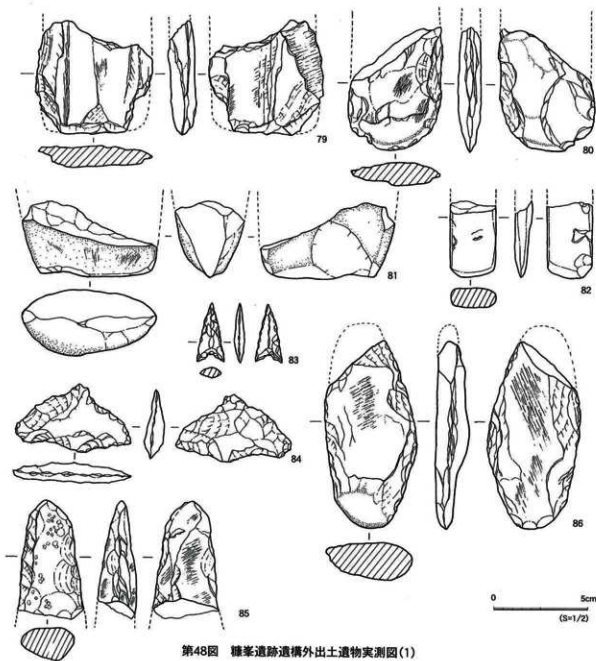


第46図 糠峯遺跡1号溝出土遺物実測図(1)

II 平成13年度の調査

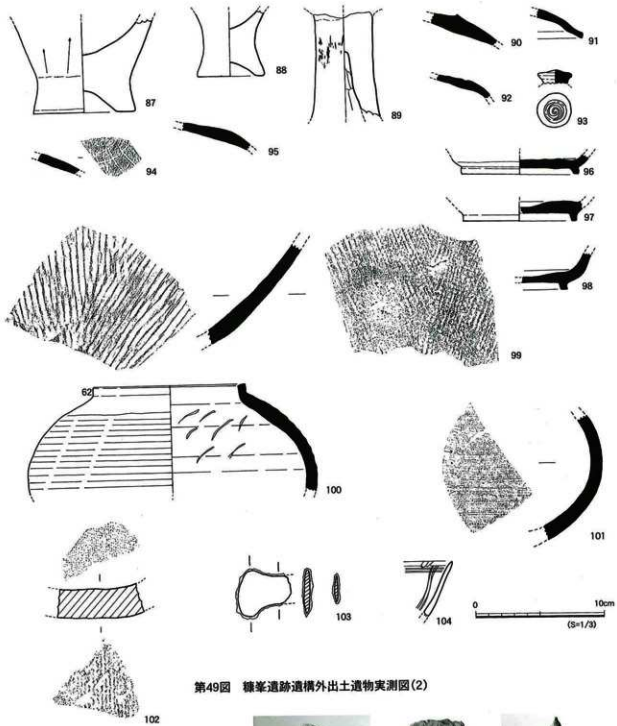


第47図 糖峯遺跡1号溝出土遺物実測図(2)

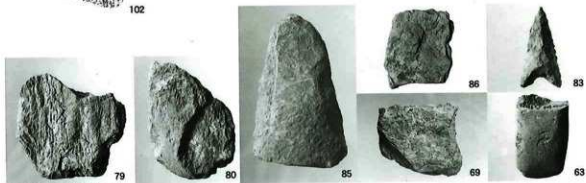


第48図 糖峯遺跡遺構外出土遺物実測図(1)

II 平成13年度の調査



第49図 糖峯遺跡遺構外出土遺物実測図(2)



糖峯遺跡出土遺物(2)

II 平成13年度の調査



糖峯遺跡調査区
調査前状況(北から)



糖峯遺跡
確認調査状況(西から)



糖峯遺跡
墓棺墓検出状況(西から)

II 平成13年度の調査



糖峯遺跡2号壙棺墓

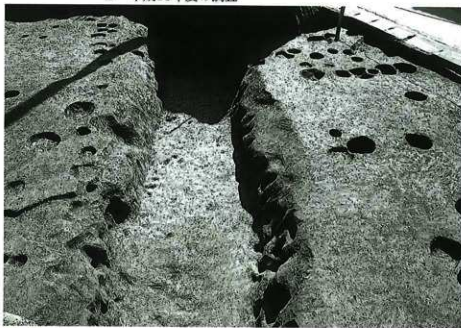


糖峯遺跡1号壙棺墓



糖峯遺跡1号壙棺墓

II 平成13年度の調査



糠峯遺跡
1号溝完掘状況(北から)



糠峯遺跡
調査区完掘状況(北から)



糠峯遺跡
調査区完掘状況(東から)

II 平成13年度の調査



糠峯遺跡1号塚棺墓下棺50



糠峯遺跡1号塚棺墓上棺49



糠峯遺跡2号塚棺53



61



64



66



65



86



63



67



81



84

糠峯遺跡出土遺物(1)

II 平成13年度の調査

13 山田松尾平遺跡

所在地：山田字松尾平1361-8

対象面積：496.17㎡

調査期間：13年9月7日

担当者：田中康雄

調査地は、蛇ヶ谷公園の南西側、小代山南麓の標高約30m～40mの地点に位置し、西側で開析谷に面した丘陵の縁辺部にあたる。工事予定地は、畑地であった所を宅地化しており、北側で広域農道、東側で市道と接している。

今回の工事は専用住宅の新築であるが、基礎掘削が約1.2mと深いため、確認調査を実施した。調査結果は以下のとおりである。

建物基礎部分にトレンチを2カ所設定して確認を行ったところ、約10～20cmの表土下に約30～50cmの旧耕作土がみられ、その下に無遺物層であると考えられる褐色土を確認したが、遺構、遺物とも確認されなかった。土層の状況から、畑地化及び宅地化の際に、それぞれ造成が行われていると考えられ、畑地化の際の削平で遺跡が消失した可能性も考えられるが、耕作土中に遺物がまったく混入しないことから、もともと遺跡が存在していない可能性も考えられる。

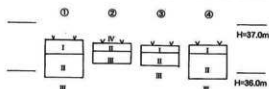
調査後の措置は、慎重工事である。



第50図 山田松尾平遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第51図 山田松尾平遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



土層説明

I層 表土 宅地造成時のならした土と思われる。

II層 暗褐色土のZYR670 旧耕作土 ややしまりがあり、多少松材を有する。茎腐片、自然砂粒を含む。

III層 褐色土のZYR4470 しまりがあり、多少松材を有する。遺構検出部に混入すると思われる。

第52図 山田松尾平遺跡トレンチ土層図 S=1/80



山田松尾平遺跡調査地周辺(北西から)

14 長福寺跡

所在地：高瀬八日町552

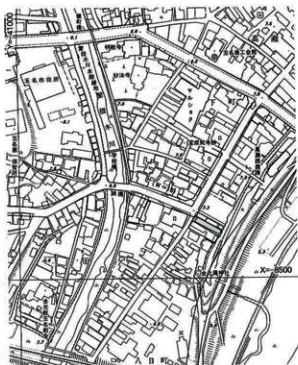
対象面積：375.29㎡

調査期間：13年9月10日

担当者：竹田宏司

調査地は、旧高瀬町の中心部からやや南、高瀬下町と八日町の境に位置し、東側は裏川に面する、標高7.5m前後の地点である。現況は宅地であり、鉄骨造の店舗兼用住宅が建っていたが、調査の時点では、解体・整地されていた。『肥後国誌』や『八日町筋左右軒並系図書』により、調査地周辺が長福寺跡と推定されている。

調査では、敷地内の2ヶ所トレンチを設定して重機により掘り下げた。両トレンチとも、基本的な層序は、ほぼ一致している。I層は明治以降現代に至る建築材を多量に含む層である。II層は、多量の焼土・炭化物、2次焼成を受けた瓦などから成っており、近代の磁器類を含まないことから、西南戦争により被災した痕跡の可能性が強く、III層上面が1877年時の生活面とみられる。III層は、多量の瓦等の他、19世紀代の磁器を含んでいる。IV層はIII層に比べ極端に遺物が少なくなるが、やはり19世紀代の磁器を含んでおり、数十年単位の間形成されたものとみられる。IVb層はしまりが極端に弱く、還元しており、灰色に近い色調を呈する。IVa～IVc層全般に砂粒を多く含んでおり、洪水による堆積の可能性がある。2TではIVc層に覆われた状態で、南北方向の石列を検出している。石列の東側では、しまりの強い粘質土により整地された痕跡がみられる。V層は、IV層同様軟弱な層である。瓦などの混入物は少ないが、18世紀中頃以降とみられる磁器片を出土している。1TではV層上面において東西方向の石列が検出されている。



第53回 長福寺跡調査地位置図 S=1/5,000

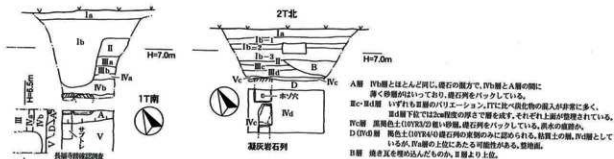


第54回 長福寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

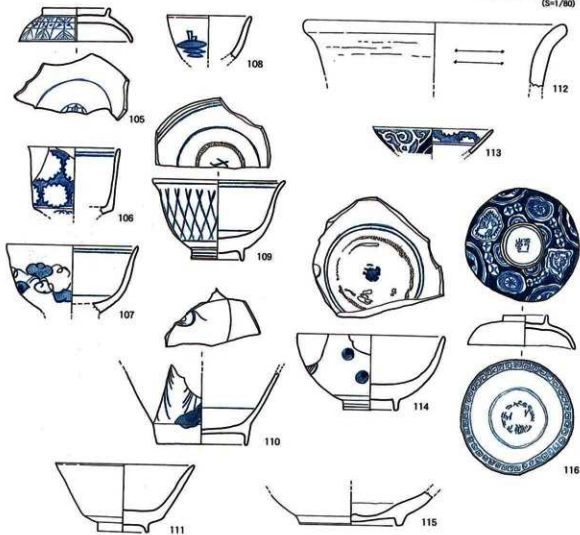
以上のように、1Tでは2m近く掘り下げていにもかかわらず、中世の層には達しておらず、18世紀以降に形成された層である。

調査後の措置は、慎重工事である。

II 平成13年度の調査



第55図 長福寺跡トレンチ実測図



第56図 長福寺跡遺物実測図

II 平成13年度の調査



長福寺跡調査状況(西から)



長福寺跡1T



長福寺跡2T



長福寺跡2T石検出状況



105



107



116



113



114



106



116

長福寺跡出土遺物

II 平成13年度の調査

15 築地市場遺跡

所在地：築地 642-2

対象面積：140.14㎡

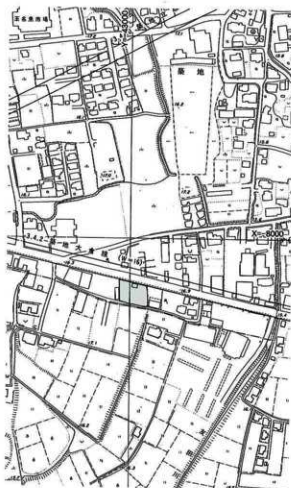
調査期間：13年11月9日

担当者：齋父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置し、標高16.5m程の地点である。国道208号線の南側隣接地で、周辺は水田や畑などであったが、近年は店舗や住宅が建設されている部分も多い。

敷地内の4ヶ所にトレンチを設定し、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I～IV層までを確認した。I、II層は現代の整地層である。III層は黒褐色を呈する層で、弥生土器の細片がわずかに出土した。IV層は橙褐色を呈する層で、無遺物層と判断した。4トレンチのIV層上面で遺構を検出した。

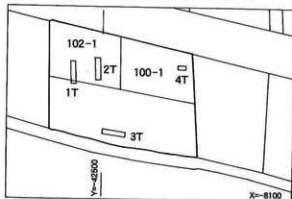
調査後の措置は、慎重工事である。



第57図 築地市場遺跡調査位置図 S=1/5,000



築地市場遺跡調査状況(南から)



第58図 築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

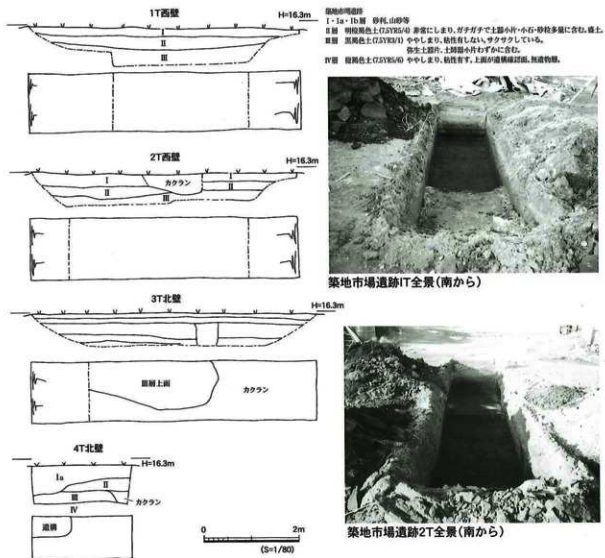


築地市場遺跡調査状況(北から)



築地市場遺跡調査状況(南から)

II 平成13年度の調査



第59図 築地市場遺跡トレンチ実測図



築地市場遺跡3T全景(西から)



築地市場遺跡4T全景(東から)

16 菊尾遺跡

所在地：築地642-2

対象面積：140.14㎡

調査期間：13年11月9日

担当者：齋父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置する、標高16m程の地点である。南側は旧河道が東西に延び、それに沿ってJ Rの路線が敷設されている。

専用住宅の建設に伴い確認を行ったが、建物部分については掘削も浅く、埋蔵文化財は現状保存されるが、擁壁工事と合併浄化槽部分で一部掘削される。それらの部分については掘削部分が狭小であったため、工事立会とし、遺構が検出された場合には可能な限り記録保存に努めた。

調査では、南側の擁壁部分で住居跡とみられる遺構を1基検出した。確認した部分は、平面で5mほどの範囲のみであり、深さは検出面から約40cmを測る。覆土は2層に区分される。遺構の一部分しか確認できなかったため、全体の内容は不明である。

遺構内から、主に古墳時代前期の遺物が出土した。117はミニチュア土器で、指での整形痕が残る。118～121は鉢形の土器で、118のみ口縁部が外側にわずかに張り出す。127・128は丸形の胴部の甕で、いずれも外面はハケ目、内面はヘラケズリされる。



第60図 菊尾遺跡調査地位置図 S=1/5,000



菊尾遺跡調査地南側工事状況(東から)

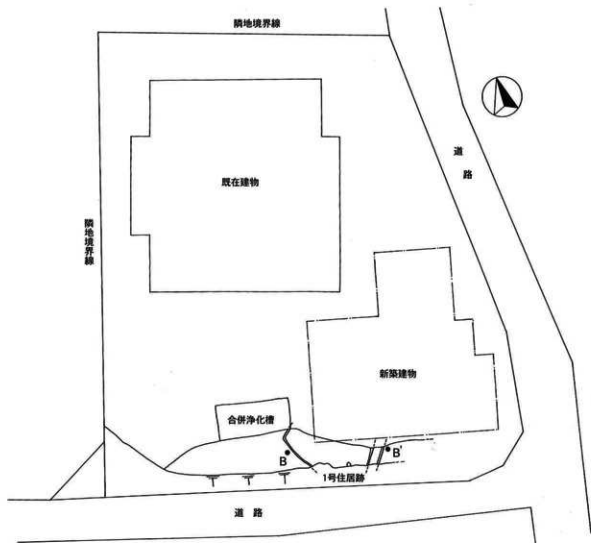


菊尾遺跡調査前状況(北から)



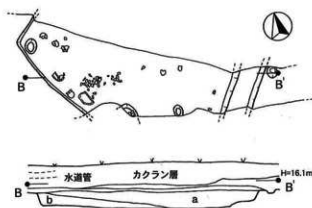
菊尾遺跡調査地南側完掘状況(東から)

II 平成13年度の調査



第61図 菊尾遺跡遺構配置図

0 10m
(S=1/200)

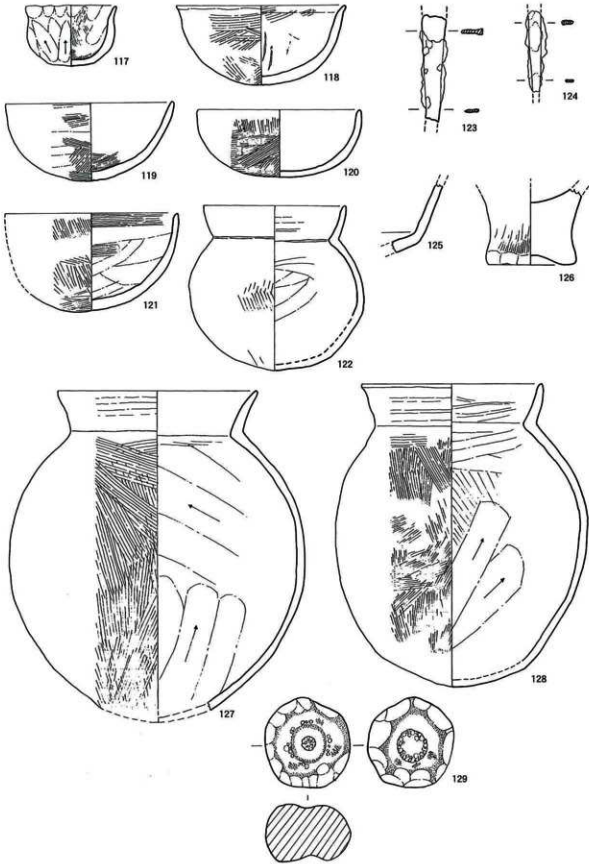


- 遺構内層土
- a層 黒色土(CSYR2/F)
全体的にしまりが強く、軽度も強い炭化物が少量含む。
部分的に黄褐色土の塊(3cm角)が含まれる。赤褐色土を粒状に多く含む。
 - b層 灰褐色土(CSYR4/G)
a層よりしまりが強く、やや粘性がある。炭砂粒多く含む。赤褐色土を粒状に少量含む。

0 2m
(S=1/80)

第62図 菊尾遺跡1号住居跡実測図

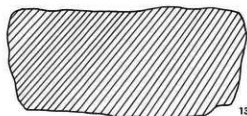
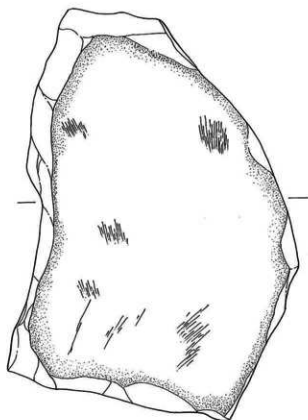
II 平成13年度の調査



第63図 菊尾遺跡遺物実測図(1)

0 10cm
(5=1/3)

II 平成13年度の調査



第64図 菊尾遺跡遺物実測図(2)



菊尾遺跡出土遺物122



菊尾遺跡出土遺物128



菊尾遺跡出土遺物118



菊尾遺跡出土遺物120



菊尾遺跡出土遺物127

II 平成13年度の調査

17 伊倉古宮原遺跡

所在地：宮原字宮川476-5

対象面積：340.00㎡

調査期間：13年12月11日

担当者：齋父雅史

調査地は、菊池川左岸、伊倉丘陵性台地上の標高33mの付近に位置し、伊倉八幡宮の西300mの所にある。周辺は現在、ミカン畑になっており、地形は西側の谷に向かって傾斜している。現地確認の時点では、届出地を含めてすでに造成されており、地表を削って傾斜地を均し整地してあった。そのため、掘削を受けた部分があると予想された。

トレンチは、建物建設地に東西3本設定したが、いずれも表土を5cm前後剥いだ所で、遺構を確認することができた。1トレンチの西側では、ピットの上で弥生後期の土器片が集中して出土した。この遺構確認面は、全体的に明黄褐色で非常に締まり、粘性の強い土壌であるが、土器が出土したピット周辺は、黒色を帯びており、明確なプランではないが住居跡になる可能性がある。その他のトレンチでは遺物はほとんど出土しなかったが、遺構は、ピット10数基、土坑4基、そして、3トレンチでも、住居跡と思われる遺構が1基検出された。

遺物は弥生時代中期～後期の土器片など（第68図131～138）を検出した。

調査後に協議した結果、保護盛土を行い、埋蔵文化財へ影響を与えないよう処置がなされた。



伊倉古宮原遺跡調査前(東から)



第65図 伊倉古宮原遺跡調査地位置図 S=1/5,000

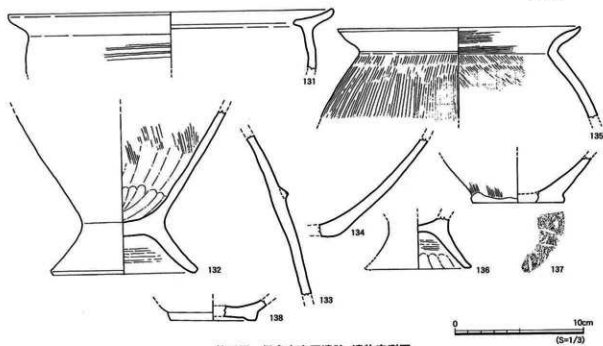
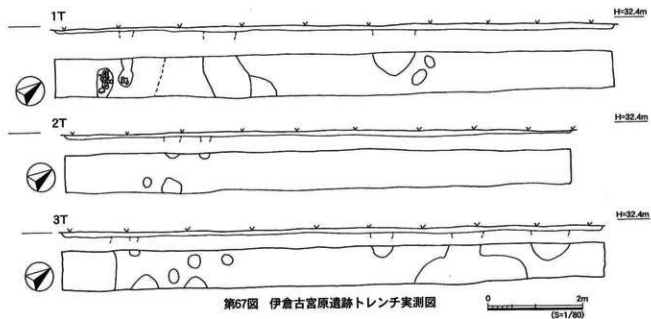


第66図 伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



伊倉古宮原遺跡調査前状況(東から)

II 平成13年度の調査



伊倉古宮原遺跡調査状況



遺跡古宮原遺跡1T(西から)

II 平成13年度の調査

18 田嶋遺跡(A地点)

所在地:中宇寺畑1577

対象面積:526.35㎡

調査期間:14年1月8日～1月9日

担当者:董父雅史

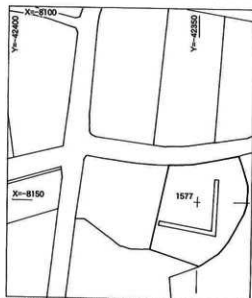
調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置する、標高約16mの地点である。紫根木八幡宮の旧社地と推定されている春日神社の北側部分である。現国道208号線が遺跡の南側を通り、市街地となつて周辺は宅地が広がっている。

敷地内は業者によると40cmほど削平されており、すでに整地してあった。また、東側断面に土層が露出していたので確認したところ、岱明層の上にローム層が80cmほど堆積し、その上には遺構らしき掘込みがみられた。

調査ではトレンチをL字状に設定し、表土を剥いだところ、約15cmの深さでローム層と遺構が確認された。南北トレンチでは、北側に住居跡(南北幅4m)を1基検出した。その他、ピット2基、土坑2基を検出した。東西トレンチでは、西側に住居跡とみられる遺構を1基検出した。また、建物部分の表土掘削時に遺構検出を行い、住居跡とみられる遺構を検出した。遺構は掘り下げず、建物の下に現状保存されている。遺物は、古墳時代の土器片や、攪乱部分より古代の瓦片が出土した。(第74・75図)



第69図 田嶋遺跡A地点 調査地位置図 S=1/5,000



第70図 田嶋遺跡A地点 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

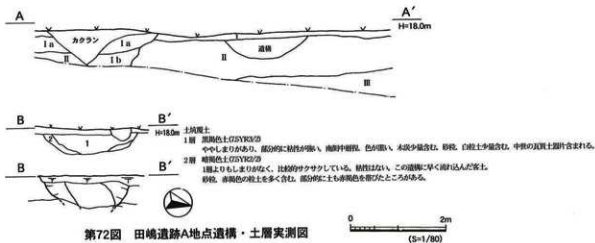
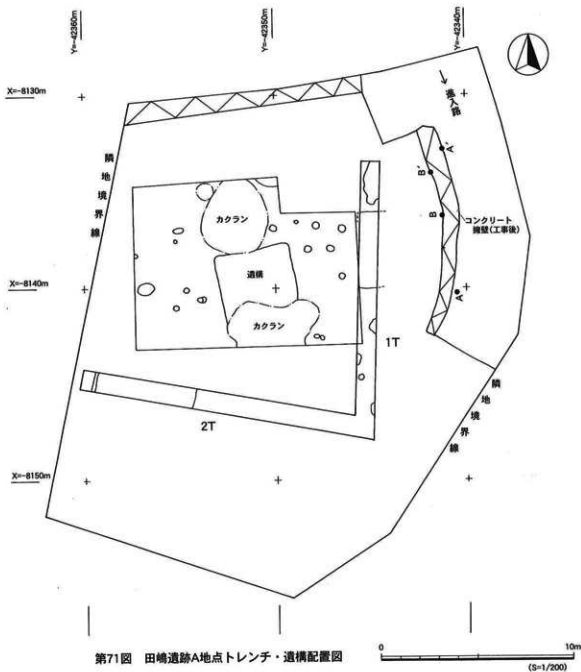


田嶋遺跡A地点西側道路部分(北から)

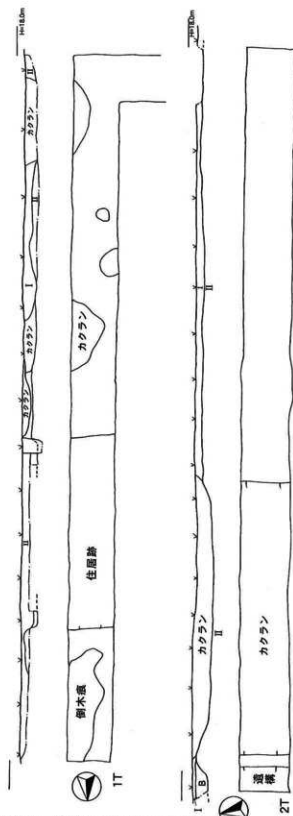


田嶋遺跡A地点調査状況(北から)

II 平成13年度の調査



II 平成13年度の調査



第73図 田嶋遺跡A地点トレンチ実測図

土曜説明

- 1 田 正土(田嶋)氏宅出土したもので、ウツクシイ。水戸や宇都宮に多い。
- 1a 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1b 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1c 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1d 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1e 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1f 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1g 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1h 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1i 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1j 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1k 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1l 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1m 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1n 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1o 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1p 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1q 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1r 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1s 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1t 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1u 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1v 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1w 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1x 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1y 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。
- 1z 田 正土氏宅出土。田嶋遺跡A地点に多い。田嶋遺跡A地点に多い。



田嶋遺跡A地点IT全景(南から)

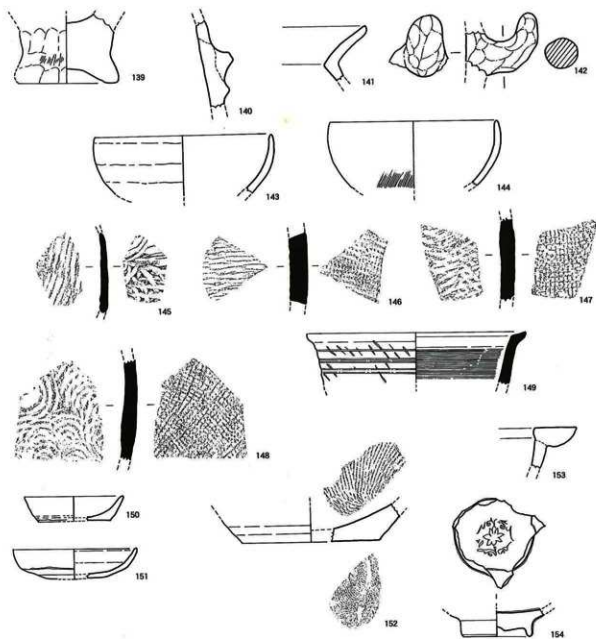


田嶋遺跡A地点IT遺構検出状況(南から)



田嶋遺跡A地点2T(東から)

II 平成13年度の調査



第74図 田嶋遺跡A地点遺物実測図(1)

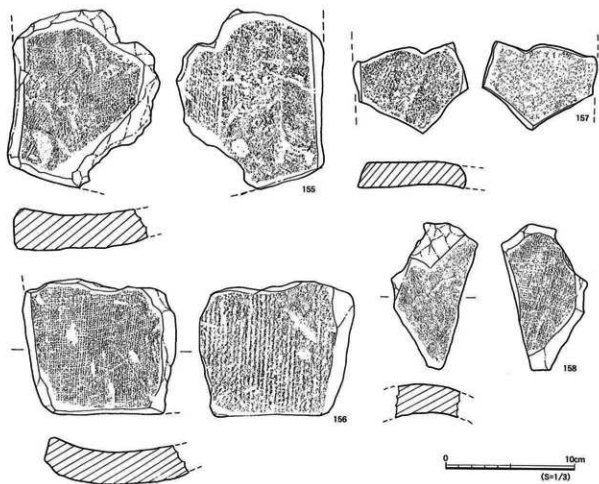


田嶋遺跡A地点遺構検出状況(南から)



田嶋遺跡A地点遺構検出状況(東から)

II 平成13年度の調査



第75図 田嶋遺跡A地点遺物実測図(2)



田嶋遺跡A地点進入跡西側



田嶋遺跡A地点北側擁壁工事状況

II 平成13年度の調査

19 大塚・惣萩遺跡 (A地点)

所在地：立願寺1050-1

対象面積：1655㎡

調査期間：14年1月21日

担当者：齋父雅史

調査地は、小代山から南へ延びる丘陵上に位置し、標高35m前後の地点である。南側に開く小支谷の谷頭に近い部分で、業者開取りで5年ほど前に谷を埋めためて造成し、かなり転圧したとのことである。

現況は、届出地の南側は5mほどの段差が認められ、盛土であるとみられる。西側も、現在の畑地より1mほどの段差が認められる。

調査では、2ヶ所にトレンチを設定して掘り下げたが、やはり客土を転圧したとみられる締まりの強い土で、掘削が困難であったため、現地表面から50cm下までしか掘削を行っていない。

以上のような状況であり、50cmの深さまでは埋蔵文化財は確認されていない。また、全体に盛土が行われているとみられるが、旧地形は谷の部分であり、埋蔵文化財が存在している可能性は低いものとみられる。



大塚・惣萩遺跡A地点調査後状況(東から)



大塚・惣萩遺跡A地点(北から)



第76図 大塚・惣萩遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



第77図 大塚・惣萩遺跡A地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



大塚・惣萩遺跡A地点調査状況

II 平成13年度の調査

20 田嶋遺跡 (B地点)

所在地：中字寺畑1592-5,1589-7

対象面積：248.38㎡

調査期間：14年2月8日

担当者：蘆父雅史

調査地は、玉名市西側の低丘陵上に位置し、標高約15mの地点である。平成14年1月8日に調査した場所より約100m南東であり、遺跡範囲の東端に位置している。

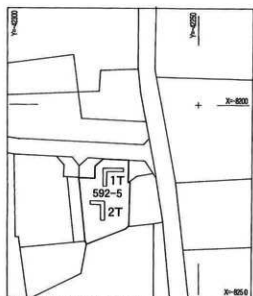
現在は周辺には宅地が広がっており、届出地も以前は民家があったが解体され更地となっていた。東側の隣接地には小さな塚があり石祠が祀られている。

敷地内の北側と南側にそれぞれL字状のトレンチを2カ所設定し、人力による掘削をおこなった。その結果、5～15cm表土を剥いだところで無遺物層と判断されるローム層を確認した。ローム層上面で遺構の検出を行ったが、検出されなかった。遺構を含め、上位の土層に関しては、すでに削平されたものと判断される。遺物は、表土中より弥生土器の小片が出土している。

調査後の措置は、慎重工事である



第78図 田嶋遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



第79図 田嶋遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



田嶋遺跡B地点調査地(北西から)



田嶋遺跡B地点調査状況

II 平成13年度の調査

21 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡

所在地：上小田字今寺712～字上の前787-1

対象面積：4160㎡

調査期間：14年3月12日～3月14日

担当者：藤父雅史

当地は、菊池川左岸の平野部北側に位置し、標高約7～8mの地点である。昭和38年に農業構造改善事業により、一帯は区画整理が行われ、旧地形は改変されている。造成される以前は、桑畑が広がり、かなり高低差があったことが、古地図などからうかがえる。

今回の工事は、小田小学校から北へ延びる道路西側の拡幅である。既存道路部分を除く工事対象地に13ヶ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、土層は全体的に粘性土層からなり、1～5トレンチまでは、ほぼ同じだが、6～13トレンチにかけて砂質層が混じり、特にマンガンを多量に含む層が9トレンチからある。また、5、9、11トレンチの3ヶ所を除いて、遺物を確認した。遺物はいずれも、縄文～中世の土器と須恵器の小片のみで、1～8層の間で出土した。検出した土器片はローリングを受けているので、整地に伴い押し流されたものと判断される。2～4トレンチのみに現水田面より160cmでピット数基をそれぞれ確認した。しかし、ピットも根穴の可能性があり柱穴かどうかは明確ではない。その他、遺構は確認できなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡現状(北から)

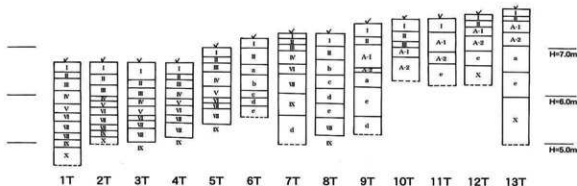


第80図 上小田宮の前・古屋敷遺跡調査地位置図 S=1/20,000



第81図 上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地周辺トレンチ配置図 S=1/5,000

II 平成13年度の調査



土層説明

1層 耕作土、周辺の水田耕土

2層 黄褐色砂質土層(Ⅰ)5YR4/2 粘性はなく、しまりは非常に強い、全体的に砂質で、鉄分のサビ、マンガン含む。

3層 褐色粘質土層(Ⅱ)5YR4/3 あまり粘性はない、しまりは非常に強い、黒褐色の粒子をわずかに含む、中層の土層も含む。

4層 褐色粘質土層(Ⅲ)5YR4/4 やや粘性があり、しまりは非常に強い、茶褐色の粒子をわずかに含む。

5層 にごり・硝子色の粘質土層(Ⅳ)5YR5/3 粘性が強く、しまりは強い、赤褐色の粒子をわずかに含む、小石粒が含まれる、部分的に灰褐色のシミあり。

6層 にごり・褐色の質粘土層(Ⅴ)5YR5/3 粘性強く、しまりも強い、水分はあまり含まない。

7層 黄褐色粘質土層(Ⅵ)5YR5/3 粘性が強く、しまりが非常に強い、黒褐色の粒子を多く含む、赤褐色の粒子を多く含む。

8層 暗灰褐色砂質粘土層(Ⅶ)5YR4/2 やや粘性がある、しまりは強い、あまり水分含まない、赤褐色の粒子を多く含む。

9層 黄褐色粘質土層(Ⅷ)5YR5/4 粘性は強い、ややしまりがある、赤褐色の粒と黒褐色の粒とを多く含む。

10層 暗褐色粘質土層(Ⅷ)5YR5/4 粘性強く、水分をやや含む、黄から4、黒褐色の粒と多く含む、部分的に灰褐色のシミあり、しまりはない。

6-13 トレンチフェース土層説明

a層 黄褐色粘質土(Ⅰ)5YR5/2 粘性もなく、しまりはない。

b層 暗灰褐色粘土(Ⅱ)5YR5/2 粘性もなく、しまりもない、細砂粒多量に含む。

c層 にごり・褐色粘質土(Ⅲ)5YR4/4 粘性もなく、しまりもない、黒褐色の粒と多く含む。

d層 オリーブ褐色粘土(Ⅳ)5YR4/4 粘性もなく、しまりもない、黒褐色、茶褐色の粒と多く含む。

e層 暗灰褐色粘土(Ⅴ)5YR4/2 粘性は強いが、しまりはない。

A-1層 黄褐色土(Ⅰ)5YR5/4に二酸化マンガン多量に含む、粘性強くしまりはない。

A-2層 にごり・褐色粘土(Ⅱ)5YR5/3に二酸化マンガン含む。



第82図 上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡トレンチ土層図・遺物実測図



上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地(北から)



上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地(南から)



上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査状況(2T)



上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査状況(13T)

2 2 大塚・惣萩遺跡(B地点)

所在地:立願寺字大塚1065-1, 1068-3, 1064

対象面積:1682㎡

調査期間:14年3月20日

担当者:蜷久雅史

調査地は、小代山から南に広がる丘陵上に位置し、標高34m前後の地点である。西側高所には小塚古墳が位置している。周辺は以前より斜面を開墾した痕跡がみられ、現状では杉林となっていた。

確認調査では、届出のあった3筆の範囲内の3ヶ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削した。その結果、いずれのトレンチでも表土の下には無遺物層と判断される暗褐色ローム層を確認した。古墳に伴うとみられる填丘や周溝は確認されず、その他の遺構・遺物などは検出されなかった。周辺の状況から、付近は大きく削平されているとみられる。

調査後の措置は慎重工事である。



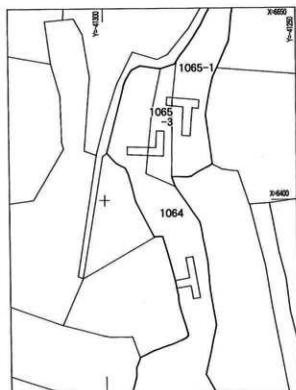
大塚・惣萩遺跡B地点調査状況(南から)



大塚・惣萩遺跡B地点土層堆積状況



第83回 大塚・惣萩遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



第84回 大塚・惣萩遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

遺物観察表(13年度の調査)

図号	遺跡名	出土地点	種類	状態	部位	口径	底径	高さ	調整(外)	調整(内)	色(外)	色(内)	酸土	焼成	図番	備考
1	高瀬遺跡	12T	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(8.4)	(2.8)	黒(7.5/82/7)	黒(7.5/82/7)	黒(7.5/82/7)	灰白(5/96/7)	良好	0		
2	高瀬遺跡	8T	瓦筒	口一部	口一部	(10.2)	(8.4)	(3.7)	灰白(5/96/7)	灰白(5/96/7)	灰白(5/96/7)	灰白(5/96/7)	良好	1		
3	高瀬遺跡	8T	瓦筒	口一部	口一部	(8.7)	(2.2)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	2		
4	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(8.1)	(2.2)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	3		
5	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(8.1)	(2.2)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	4		
6	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(11.0)	(14.3)	(3.2)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	5		
7	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(11.0)	(14.3)	(3.2)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	6		
8	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(15.8)	(4.2)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	7		
9	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(6.0)	(1.5)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	8		
10	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(6.6)	(3.1)	4.6	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	9		
11	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(4.8)	(4.3)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	10		
12	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(3.1)	(3.2)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	11		
13	高瀬遺跡	4T	瓦筒	不明	口一部	(8.1)	(4.5)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	12		
14	高瀬遺跡	3T	瓦筒	不明	口一部	(10.1)	(10.4)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	13		
15	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(2.8)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	14		
16	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(10.0)	(2.0)	不明	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	黒(5.82/3)	良好	15		
17	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(22.3)	(25.5)	(3.5)	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	良好	16		
18	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	20.0	12.5	44.0	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	灰白(5/96/6)	良好	17		
19	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(9.4)	(9.4)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	18		
20	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(5.0)	(5.0)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	19		
21	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(26.8)	(8.4)	(7.4)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	20		
22	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(16.2)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	21		
23	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	22		
24	高瀬遺跡	17	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	23		
25	高瀬遺跡	2T	瓦筒	不明	口一部	(26.4)	(5.5)	(5.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	24		
26	高瀬遺跡	2T	瓦筒	不明	口一部	(20.5)	(3.5)	(3.2)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	25		
27	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(15.7)	(4.7)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	26		
28	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	27		
29	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	28		
30	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	29		
31	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	30		
32	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(10.8)	(3.3)	(2.3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	31		
33	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	32		
34	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	33		
35	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	34		
36	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	35		
37	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	36		
38	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	37		
39	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	38		
40	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	39		
41	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	40		
42	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	41		
43	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	42		
44	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	43		
45	高瀬遺跡	11層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	44		
46	高瀬遺跡	V層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	45		
47	高瀬遺跡	V層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	46		
48	高瀬遺跡	V層	瓦筒	不明	口一部	(7.5)	(3.2)	不明	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	黒(7.5/98/3)	良好	47		
49	高瀬遺跡	1層	瓦筒	不明	口一部	(5.0)	(1.8)	不明	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	48		
50	高瀬遺跡	2層	瓦筒	不明	口一部	31.8	(3.3)	(8.3)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	49		
51	高瀬遺跡	2層	瓦筒	不明	口一部	(4.3)	(1.4)	不明	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	50		
52	高瀬遺跡	2層	瓦筒	不明	口一部	16.8	(1.1)	不明	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	51		
53	高瀬遺跡	2層	瓦筒	不明	口一部	6.0	(2.4)	不明	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	52		
54	高瀬遺跡	2層	瓦筒	不明	口一部	(2.4)	(2.4)	不明	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	黒(7.5/98/6)	良好	53		

II 平成13年度の調査

図説番号	遺跡名	出土地点	種類	種類	部位	口径	底径	高さ	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
107	伊賀名原遺跡	11(I-II層)	灰片	口縁部	10.5	-	(6.3)	-	-	-	(輪)青灰(5B7/I)	(輪)青灰(5C6/I)	-	良好	花腹文、斑
108	伊賀名原遺跡	11(I-II層)	口縁部	口縁部	6.8	-	(3.4)	-	-	-	(輪)青灰(5B7/I)	(輪)青灰(5C6/I)	黒色胎土を多少含む。	良好	花腹文、斑
109	伊賀名原遺跡	11(I-II層)	底径部	底径部	10.7	4.2	8.3	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	良好	唐草文、法線目録
110	伊賀名原遺跡	11(I-II層)	口縁部	口縁部	11.1	4.1	6.1	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	良好	法線目録、斑
111	伊賀名原遺跡	11(I-II層)	底径部	底径部	20.6	-	(6.5)	(5.0)	ヨコナテ	ヨコナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	小径15mm程度の卵形窪みあり。	良好	唐草文、法線目録
112	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ヨコナテ	ヨコナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	良好	唐草文、法線目録
113	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.7	4.3	6.0	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	良好	唐草文、法線目録
114	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	8.5	3.6	2.4	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	良好	唐草文、法線目録
115	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.0	-	4.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	-	普通	唐草文、法線目録
116	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	13.3	-	6.3	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
117	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	12.8	-	5.3	5.3	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
118	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.6	-	7.8	7.8	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
119	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
120	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
121	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
122	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
123	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.0	13.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
124	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.4	1.0	0.4	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
125	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.8	-	6.8	6.8	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
126	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	15.8	-	15.8	15.8	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
127	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	14.2	-	23.9	23.9	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	良好	唐草文、法線目録
128	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.2	8.7	4.5	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	普通	唐草文、法線目録
129	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	32.0	22.5	8.5	-	-	-	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	151	唐草文、法線目録
130	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	25.5	-	4.6	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	69	唐草文、法線目録
131	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.1	12.5	4.5	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	72	唐草文、法線目録
132	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.7	-	7.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	72	唐草文、法線目録
133	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	11.2	-	13.2	13.2	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	71	唐草文、法線目録
134	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	8.0	-	8.0	8.0	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	73	唐草文、法線目録
135	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	8.4	-	8.4	8.4	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	70	唐草文、法線目録
136	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.1	3.5	4.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	75	唐草文、法線目録
137	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.7	1.5	6.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	77	唐草文、法線目録
138	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.8	5.2	7.8	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	80	唐草文、法線目録
139	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.2	-	4.2	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	87	唐草文、法線目録
140	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.7	-	4.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	87	唐草文、法線目録
141	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	13.8	-	13.8	13.8	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	84	唐草文、法線目録
142	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	13.1	-	13.1	13.1	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	94	唐草文、法線目録
143	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.5	-	6.5	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	98	唐草文、法線目録
144	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.8	-	7.8	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	91	唐草文、法線目録
145	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.2	-	4.2	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	102	唐草文、法線目録
146	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	13.1	-	13.1	13.1	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	83	唐草文、法線目録
147	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.5	-	6.5	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	98	唐草文、法線目録
148	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	7.8	-	7.8	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	99	唐草文、法線目録
149	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.0	-	4.0	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	81	唐草文、法線目録
150	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	17.1	-	17.1	17.1	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	88	唐草文、法線目録
151	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	16.7	-	16.7	16.7	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	83	唐草文、法線目録
152	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	10.7	2.3	10.7	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	85	唐草文、法線目録
153	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	5.2	-	5.2	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	78	唐草文、法線目録
154	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	5.2	-	5.2	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	88	唐草文、法線目録
155	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.0	-	4.0	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	81	唐草文、法線目録
156	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.5	-	6.5	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	85	唐草文、法線目録
157	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.5	-	6.5	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	83	唐草文、法線目録
158	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	4.0	-	4.0	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	78	唐草文、法線目録
159	伊賀名原遺跡	11(IV層)	底径部	口縁部	6.4	-	6.4	-	ナテ	ナテ	(輪)明灰(7A26/I)	(輪)明灰(7A26/I)	白色胎土少量含む。	103	唐草文、法線目録

Ⅲ 平成14年度の調査

Ⅲ 平成14年度の調査

大塚・惣萩遺跡
青野原遺跡
稲荷山古墳
高岡原J遺跡
五郎丸遺跡(A地点)
狐ん路遺跡
西の山古墳群
長福寺跡
高瀬本町通遺跡
伊倉宮の後遺跡
亀甲遺跡(A地点)
五郎丸遺跡(B地点)
蓮華遺跡
亀甲遺跡(B地点)
一本松遺跡
保田木城跡・光蓮寺跡
ふれあい広場建設予定地
中村館跡
築地東遺跡

Ⅲ 平成14年度の調査

1 大塚・惣萩遺跡

所在地：立願寺字大塚1065-2

対象面積：1,014.00㎡

調査期間：14年4月25日

担当者：藪父雅史

調査地は、小代山より南へ延びる丘陵上に位置し、標高44m程の地点である。西側の台地上に小塚古墳が存在する。周辺は以前より斜面を開墾した痕跡がみられ、現状では杉林となっていたが、調査地の杉は既に伐採されていた。

調査では、2カ所のトレンチを斜面に沿って東西方向に設定し、重機及び人力による掘削を行った。その結果、1トレンチでは無遺物層とみられるローム層まで切土が行われており、その後斜面に、黒褐色土が堆積していた。その層に遺物は含まれていなかった。2トレンチでは、約50cm下にローム層がみられ、従来の切り土がその高さであったと思われる。その他、古墳の周溝などの遺構は検出されなかった。

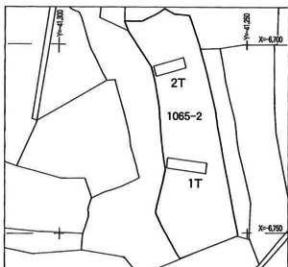
調査後の措置は、慎重工事である。



大塚・惣萩遺跡調査地(北から)



第85図 大塚・惣萩遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第86図 大塚・惣萩遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第87図 大塚・惣萩遺跡トレンチ土層図

Ⅲ 平成14年度の調査

2 青野原遺跡

所在地：大字青野字北原231-1

対象面積：1,013.00㎡

調査期間：14年4月26日

担当者：齋父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約30mの斜面に位置し、現在、ミカン畑となっている。

調査では、高圧送電線鉄塔の移設予定地を中心に、3ヵ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、東端の1トレンチで、地表下約80cmに溝状の遺構を確認した。幅は1.5m以上あり、深さは約60cmで、底面近くから近世以降と思われる皿が1点出土し、完掘してないがその他の遺物はほとんど出土しなかった。溝は斜面に沿って、南北方向に延び、上段の畑の畦道と方向が一致するため、かつての里道の跡と判断される。その他のトレンチでは遺構、遺物は検出されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



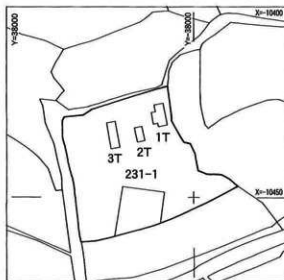
青野原遺跡調査遠景(東から)



青野原遺跡調査遠景(西から)



第88図 青野原遺跡調査地位置図 S=1/5,000

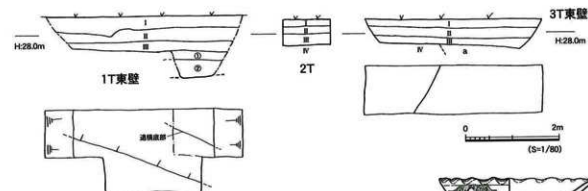


第89図 青野原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

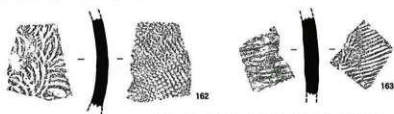


青野原遺跡調査遠景(北から)

Ⅲ 平成14年度の調査



- 1層 表土 耕作土
 2層 黒褐色土(SYR4)② しまりまく、やや粘りあり、小石、砂粒を含む。本炭をわずかに含む。黄褐色粒土少量含む。
 3層 黒色土(SYR4)② しまりが強く、粘りあり、本炭をわずかに含む。灰褐色の粒土含む。
 4層 黒色土(SYR4)④ あまりしまらず、粘り強い、水分を含む。赤褐色の粒土含む。黒遺物群と平断。
 5層 黒色土(SYR4)④ あまりしまらず、粘り強い、水分を含む。近郊(S)層の粒土含む。遺物はほとんど含まれず。
 6層 灰褐色土(SYR4)③ あまりしまらず、粘り強い、水分を含む。近郊(S)層の粒土含む。混入物はあまりない。黒褐色の粒土含む。粗込みの埋土。
 a層 ややしきりがあり、粘り強い。黒褐色土、黄褐色、赤褐色の粒土多量に含む。本炭をわずかに含む。土層は含む。柱間割の溝の可視部あり。



第90図 青野原遺跡トレンチ・遺物実測図



青野原遺跡 1T土層堆積状況



青野原遺跡 1T



青野原遺跡 2T



青野原遺跡 3T

3 稲荷山古墳

所在地：繁根木74,188

対象面積：1,125.00㎡

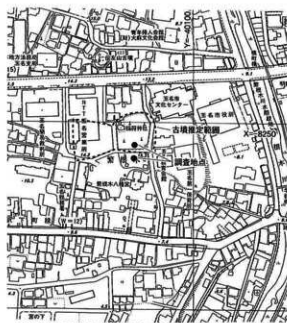
調査期間：14年4月16日

担当者：董父雅史

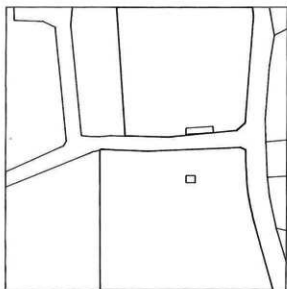
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置し、標高15～16m程の地点である。

稲荷山古墳の墳丘部分と考えられる墓地と、南側に隣接する道路とは約2mの高低差がある。道路から墓地への進入用階段を設置するための工事で、墓地の壁面が一部掘削されるため、その部分で土層を観察した。その結果、近世の陶磁器細片を含む層の直下に無遺物層とみられるローム層を確認したが、古墳に伴う層は確認されなかった。

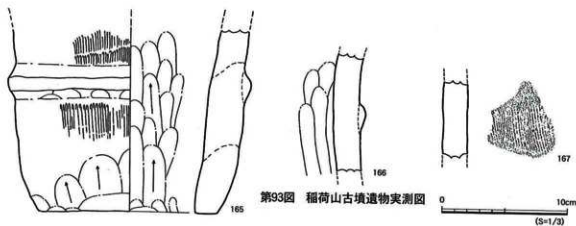
また、道路南側に隣接する繁根木八幡宮の敷地内で、ゴミ捨て用の穴が掘削されており、その部分を観察した。敷地内は以前より重機などにより掘り返されており、近世また近代の陶磁器細片に混じて円筒埴輪の破片が出土した。古墳に伴う周溝などの遺構は確認できず、今回調査した範囲は後世に掘削された部分と判断される。



第91図 稲荷山古墳調査地位位置図 S=1/5,000



第92図 稲荷山古墳調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第93図 稲荷山古墳遺物実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



稲荷山古墳現況(西から)



稲荷山古墳調査地工事前(東から)



稲荷山古墳調査地土層堆積状況



稲荷山古墳調査地工事後(東から)



稲荷山古墳南側トレンチ掘削状況



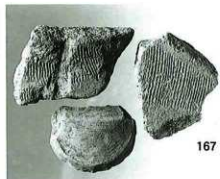
稲荷山古墳出土遺物(1)



稲荷山古墳出土遺物(2)



166



167

Ⅲ 平成14年度の調査

4 高岡原J遺跡

(1) 調査に至る経緯

玉名市山田字高岡原2016-1,2018,2015-1において、診療所の増築工事が計画された。しかし当地を含む周辺は、高岡原J遺跡に含まれることから、平成14年4月30日付けで文化財保護法第57条の2による届出が提出された。これを受け、玉名市教育委員会が5月17日に確認調査を行い、土坑状の遺構や土器片を検出した。このため、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、基礎掘削が埋蔵文化財に及ぶ部分について発掘調査を実施することになった。

(2) 調査の体制

発掘調査(平成14年度)

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 三次昭也
調査総括	教育次長 久多見澄夫 社会教育課長 牧野和明 社会教育課審議員兼課長補佐 西田道亘
調査事務	文化係長 岩永次郎 主事 高田智華
調査担当	調査員 古閑敬士 (確認調査、本調査) 調査員 齋父雅史(確認調査) 技師 末永 崇(本調査) 参事 竹田宏司(本調査) 技師 田中康雄(本調査) 調査員 大倉千寿(本調査)
発掘作業員	平嶋千代子 西川美智子 北睦美 藤好貴彦 古賀武子
平野輝代	本山千代子 西嶋美玲 竹内伴英
整理作業	(平成15年度)
調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 三次昭也(至12月19日) 教育長 森 義臣(自12月22日)

調査総括	教育次長 久多見澄夫 社会教育課長 牧野和明 社会教育課審議員兼課長補佐 西田道亘
調査事務	文化係長 岩永次郎 主事 高田智華
報告書担当	技師 末永崇 調査員 齋父雅史
整理作業員	坂崎郷子 五野富美子 早川イツエ 平野輝代 古賀武子

(3) 遺跡の概要

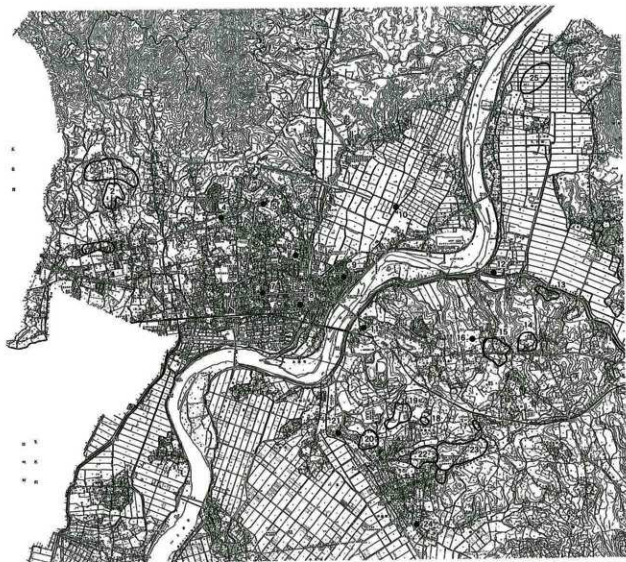
高岡原J遺跡は、小代山から南に延びる丘陵上に位置する、標高25mほどの地点である。当遺跡周辺は、縄文時代の土器片散布地として周知されており、西側に存在する弥生時代の住居跡などが確認された高岡原遺跡と区別するため、平成11年度に高岡原J遺跡とした。

玉名市内の縄文時代の遺跡については、市内の丘陵上に貝塚が点在する。また、同じく丘陵上に縄文時代の土器片が散布する遺跡が周知されている。近年は、柳町遺跡や上小田宮の前遺跡などの低湿地に所在する遺跡の調査で縄文時代の遺物が確認されている。(第94図) 現在周知されている縄文時代の遺跡は、本格的な調査の機会がないことや、既に宅地化されているなどで、貝塚以外は遺跡の具体的な内容が判明するところは少ない。住居跡としての調査例も今のところないようである。

調査地の西側150mほどの地点では、高岡いっちょう畑石棺が所在し、石材数点が現在も確認される。

調査地の南側は、東西に延びる中世の道路跡と接している。明治時代前期の玉名郡村園の立願寺村絵図には「山田村道」と記載され、一部は現在も市道として使用されている。道路は中尾の集落北側から立願寺方面に延びて

Ⅲ 平成14年度の調査



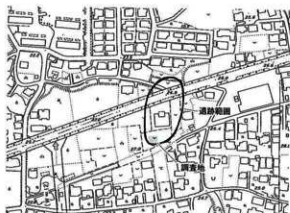
- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. 西田遺跡 | 10. 柳町遺跡 | 19. 銅遺跡 |
| 2. 四十九遺跡 | 11. 桃田貝塚 | 20. 中北遺跡 |
| 3. 狐ん路遺跡 | 12. 津留中林遺跡 | 21. 城が崎貝塚 |
| 4. 高岡原J遺跡 | 13. 上津留遺跡 | 22. 本村遺跡 |
| 5. 下立願寺遺跡 | 14. 寺田久保遺跡 | 23. 伊倉宮の後遺跡 |
| 6. 岩崎B遺跡 | 15. 吉丸西遺跡 | 24. 方諏訪遺跡 |
| 7. 亀甲遺跡 | 16. 吉丸前遺跡 | 25. 上小田宮の前遺跡 |
| 8. 繁根木貝塚 | 17. 年の神遺跡 | |
| 9. 保田木貝塚 | 18. 岩井口遺跡 | |

第94図 高岡原J遺跡周辺縄文時代主要遺跡分布図 S=1/20,000
 (「熊本県遺跡地図」及び「菊池川下流域詳細分布図」より転載)

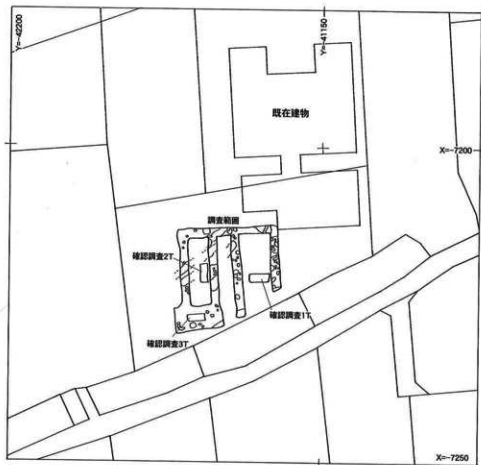
III 平成14年度の調査



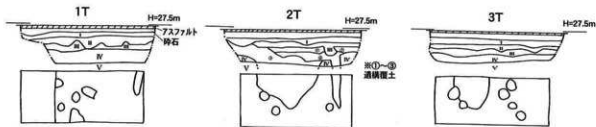
高岡原J遺跡現況(西から)



第95図 高岡原J遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第96図 調査範囲位置図及び周辺地籍図



第97図 確認調査トレンチ土層断面図



おり、玉名郡倉跡推定地付近を経てさらに北東に延びているようである。また、調査地から西側に100mほどの地点で、南側に分かれて高瀬方面に延びる道路がもう一本存在する。さらにそれらの道路は玉名郡銜へ続くと想定されている道路とも交差している。山田村道は、近世においては道沿いの畑から立願寺温泉への道としても利用されていたようであり、その起源は明らかではないが、古代又は中世に遡る場合も十分考えられる。

(4) 確認調査

調査対象部分は、診療所の駐車場として利用されている敷地であり、確認調査では、工事予定範囲に3ヶ所トレンチを設定し、重機より掘削し埋蔵文化財の状況を確認した。確認した層位は下記のとおりである。

- I 層 黒褐色土(2.5Y3/1)
粘性なくよく締まる。造成の際の盛土。
- II 層 褐色土(7.5YR4/4)
粘性なくよく締まる。旧耕作土。
- III 層 黒褐色土(10YR3/2)
やや粘性を有しやや締まる。遺物包含層であり、1~5mの砂粒含む。
- IV 層 褐色土(7.5YR4/6)
粘性有し、やや締まる。遺物包含層であり、黒い土と赤い土が混ざりきっていない。

(5) 調査の方法及び経緯

確認調査後、発掘調査が必要な範囲は建物増築部分となったが、その部分の掘削は基礎と地中梁の部分のみであり、建物全体ではないことから、発掘調査の方法はトレンチ調査を行うことになった。調査では、トレンチごとにI~VI区とし、I、II層を重機により掘削した。III、IV、V層上面で遺構検出を行い、III層以下の掘削は人力で行った。検出した遺

構はそれぞれ番号を付して掘り下げた。各遺構の実測は、トレンチごとに1/20スケールで行った。写真撮影は35mmのモノクロ及びリバーサルフィルムで行った。

(6) 遺構と遺物

1号溝 (S-07) ・ 2号溝 (S-09)

III、IV、VI区で検出した溝状の遺構で、S-07が幅約1.3m、検出面からの深さ最大約50cm、長さ7.5m以上を測る。S-09が幅約1.1m、検出面からの深さ最大約50cm、長さ3m以上を測る。1号溝と2号溝はそれぞれ別に検出したが、方向や規模、覆土の状況などから一連の溝状の遺構で、調査区外にかけてさらに延びていると判断される。

3号溝 (S-08)

II、III、IV区で検出した溝状の遺構で、幅約1.8m、検出面からの深さ最大約55cm、長さ11.3m以上を測る。IV区の東壁面A-A'で3号溝と1号溝が別の遺構(層位①~⑤)を切っているのを確認したが、平面では確認できなかった。覆土上位で、箱式石棺であったとみられる板状の石材を検出した。石材の一部に赤色顔料が確認された。遺構が埋まる段階で廃棄されたものとみられる。

1号土坑 (S-10)

III区IV層上面で検出した。長軸2.5m以上、短軸1.2m以上、検出面からの深さ約30cmを測る。土坑状の遺構とみられる。

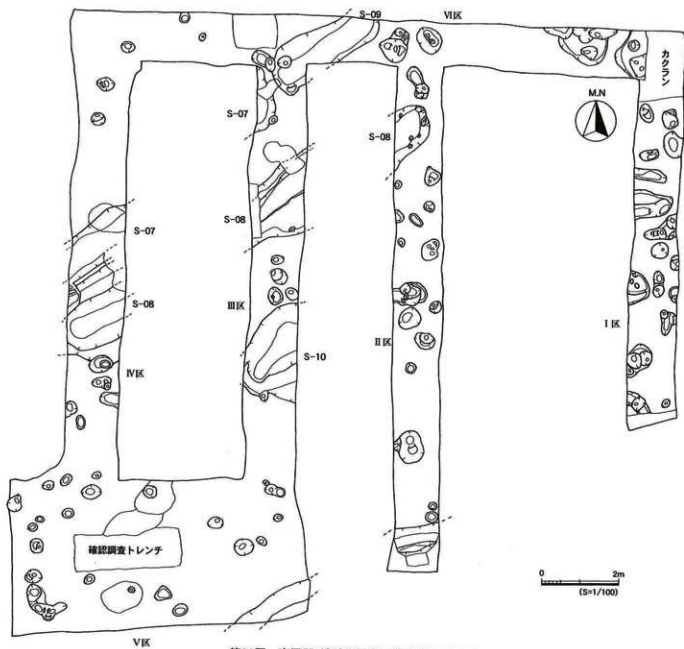
2号土坑 (P-98)

VI区V層上面で検出した。長軸約1.9m、短軸1.15m、検出面からの深さ最大約40cmを測る。西側の一部はテラス状に段掘りされる。炭化物の集中部分を検出した。

3号土坑 (P-104)

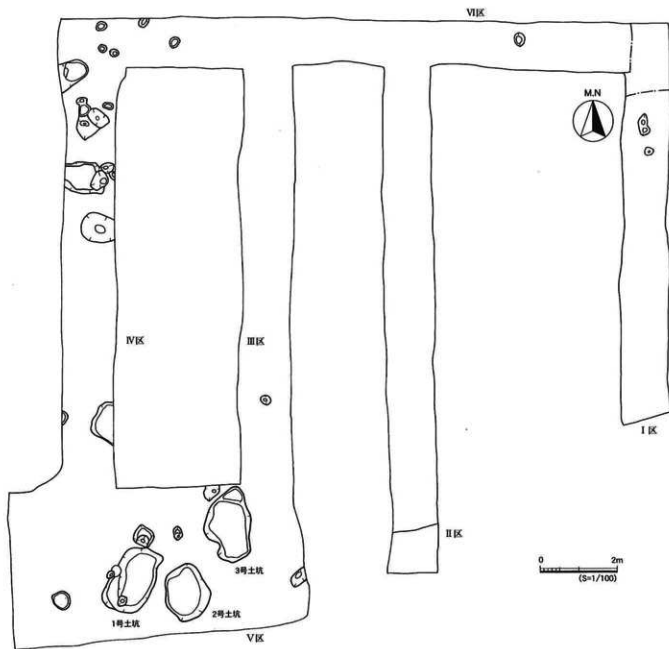
VI区V層上面で検出した。長軸約1.5m、短軸約1.2m、検出面からの深さ最大約20cmを測る。

Ⅲ 平成14年度の調査



第98図 高岡原J遺跡IV層上面検出遺構配置図

Ⅲ 平成14年度の調査



第99図 高岡原J遺跡V層上面検出遺構配置図

4号土坑 (P103)

Ⅵ区Ⅴ層上面で検出した。長軸約1.9m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約30cmを測る。北側の一部がテラス状に段掘りされている。その他の遺構

調査区全体で、Ⅳ層上面で多数のビットを検出した。大部分は形状などから根穴などの可能性が高いと判断している。

(7) まとめ

今回の調査で確認された遺構は、主に溝状の遺構2本と、土坑数基である。出土した遺物の総量はコンテナ1箱と板状の石材数点である。溝状遺構は、調査地南側の道路と平行して延びていることも考えられる。遺構内からは時期を判断できるような遺物は検出できなかったが、Ⅲ層から出土した遺物が古代の須恵器を含むことから、溝の時期は古代又はそれ以前と推察される。遺構の性格等についての検討は、調査区南側の道路とも併せて行う必要があろう。

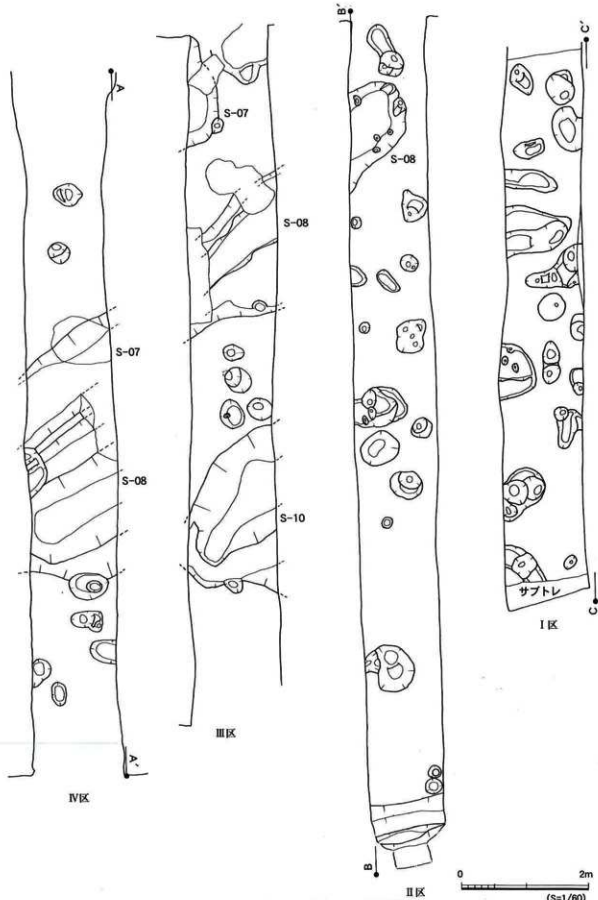
Ⅳ層の遺物の出土状況は、土器片がわずかに検出された。明確に時期特定できる遺物はなかったが、層位の状況などから、Ⅳ層は縄文時代の堆積層であり、Ⅴ層上面で検出した土坑などは縄文時代の遺構であると想定される。

遺跡の範囲については、周辺の踏査と今回の調査結果のみでは判断に限界があるが、範囲が広がる可能性は十分に考えられる。また、15年度に行った東側隣接地の確認調査では、縄文時代の埋設土器が1基確認された。上部は削平されており、その後須恵器片などを含む黒褐色を呈する層が堆積しており、今回の調査のⅢ層に相当すると判断される。このことから、調査地周辺は古代以前の段階で縄文時代の層まで削平されるような造成が行われていることも考えられ、今後の調査での検討課題としたい。



高岡原J遺跡調査風景

Ⅲ 平成14年度の調査



第100図 高岡原J遺跡トレンチ平面図

III 平成14年度の調査



IV区東部土層断面

IV区東部土層断面

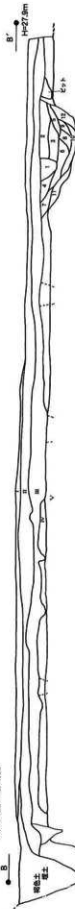
- 1層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 2層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 3層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 4層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。

明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。

- 5層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 6層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 7層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 8層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 9層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 10層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。

- 508 土層断面
- 1層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 2層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 3層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 4層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 5層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 6層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 7層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 8層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 9層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 10層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。

II区西部土層断面

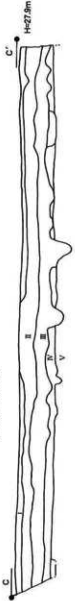


II区西部土層断面

- 1層 砂土(II202) しまり層状、砂土を基質に少量含む。
- 2層 砂土(II202) しまり層状、砂土を基質に少量含む。
- 3層 砂土(II202) しまり層状、砂土を基質に少量含む。
- 4層 砂土(II204) しまり層状、砂土を基質に少量含む。
- 5層 砂土(II204) しまり層状、砂土を基質に少量含む。
- 6層 砂土(II202) しまり層状、砂土を基質に少量含む。

- 7層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 8層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 9層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 10層 明礬土(IV202) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 11層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。
- 12層 明礬土(IV204) しまり層状、明礬土を基質に少量含む。

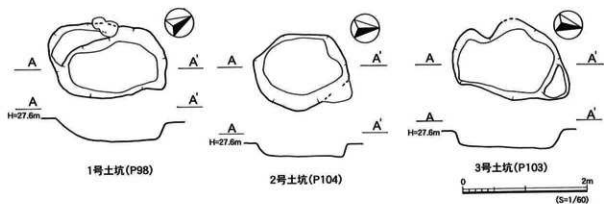
I区東部土層断面



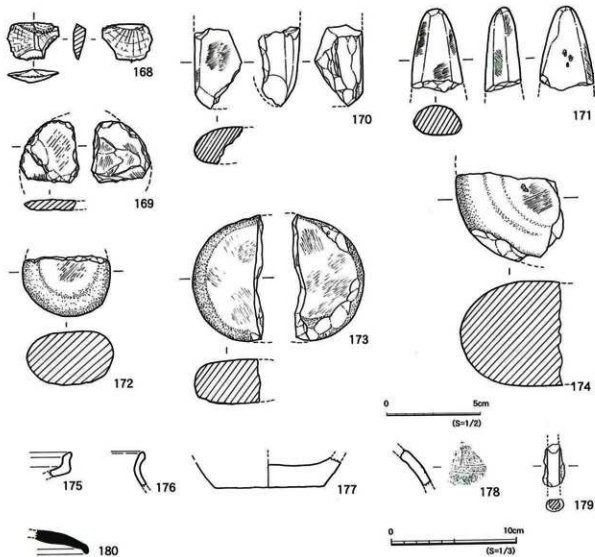
I区東部土層断面



Ⅲ 平成14年度の調査



第102図 高岡原J 遺跡遺構実測図



第103図 高岡原J 遺跡遺物実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原J遺跡
調査前(南から)



高岡原J遺跡
調査前(西から)



高岡原J遺跡
調査前(東から)

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原J遺跡調査
状況(北東から)



高岡原J遺跡V区IV層
上面完掘状況(西から)



高岡原J遺跡I区
完掘状況(北から)

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原J遺跡Ⅱ区
完掘状況(北から)



高岡原J遺跡Ⅲ区
完掘状況(北から)



高岡原J遺跡Ⅳ区
完掘状況(北から)

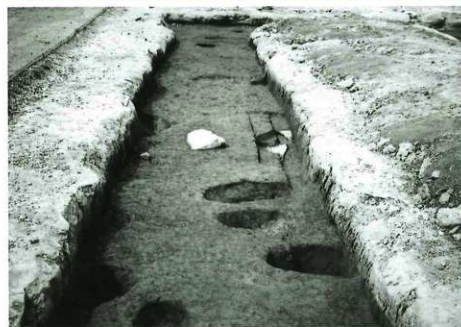
Ⅲ 平成14年度の調査



高阿原 J 遺跡V区
完掘状況(西から)



高阿原 J 遺跡VI区
完掘状況(西から)



高阿原 J 遺跡IV区IV層上面
遺構検出状況(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原 J 遺跡IV区S-07
掘り下げ状況(南西から)



高岡原 J 遺跡IV区S-07
・08完掘状況(南西から)



高岡原 J 遺跡IV区
S-08石材出状況

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原 J 遺跡Ⅲ区東壁
S-08土層堆積状況



高岡原 J 遺跡Ⅱ区
S-08完備状況

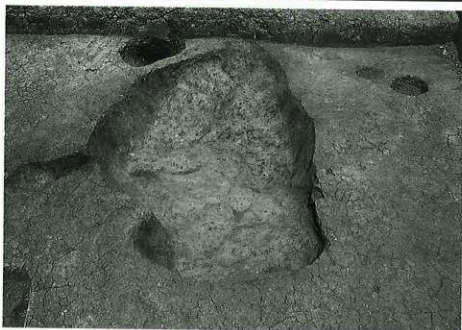


高岡原 J 遺跡Ⅵ区S-09
完備状況(北から)

Ⅲ 平成14年度の調査



高岡原J遺跡V区1号
土坑完掘状況(南から)



高岡原J遺跡V区2号
土坑完掘状況(南から)



高岡原J遺跡V区3号
土坑完掘状況(東から)

5 五郎丸遺跡(A地点)

所在地：山田字白石538-3

対象面積：330.00㎡

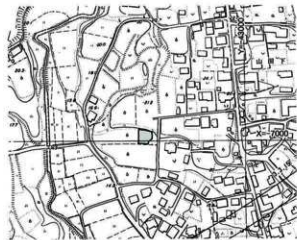
調査期間：14年6月6日～6月12日

担当者：古閑敬士

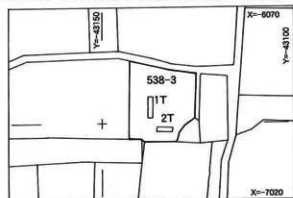
調査地は山田神社一帯の丘陵南西部分で、標高19m前後の地点に位置する。南隣の2地点はそれぞれ平成12年6月と10月に調査を行っている。この調査では弥生時代中期・後期の住居跡や土器、古代の遺物などが確認されている。

調査では、敷地内で2ヶ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、1トレンチでは約40cm下、2トレンチでは約60cm下で中世の遺物包含層(Ⅲa層)を確認し、その下位に包含層と見られるⅢb層を確認した。遺構は確認できなかった。遺物は、弥生時代や古代・中世の土器が出土している。

調査後の措置は、慎重工事である。



第104図 五郎丸遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



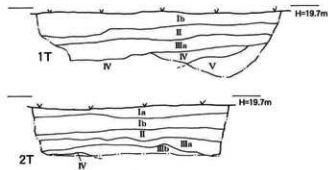
第105図 五郎丸遺跡A地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



五郎丸遺跡A地点調査前状況(南から)



五郎丸遺跡A地点1T土層堆積状況



- 土層説明
- I a-b層 客土
 - Ⅰ層 粉黄土 灰褐色土(75YR4/2) しまりあり、粘性強、炭化物・土器断片を少量含む、黄-灰白色レキ(1~2cm)を多く含む、粉黄土と見られる。
 - Ⅱ層 遺物包含層 黒褐色土(75YR3/2) ややしまる、粘性強、炭化物、遺物断片を少量含む、中世の包含層と見られる。2cmほどのレキ(黄-白色)をやや多く、5mm程度のレキを多量に含む。
 - Ⅲa層 包含層 暗褐色土(75YR3/2) ややしまり、粘性がある、炭化物・遺物断片を含む、時代等不明、Ⅲ層よりレキの混じる量が少ない。
 - Ⅲb層 暗褐色土(75YR4/0) よくしまる、粘性強い、Ⅲ層への漸移層と見られる。2~3cm、黄白色レキを多量に含む(Ⅲa層より多い)。
 - Ⅳ層 暗褐色土(75YR3/0) しまる、粘性強い、3~5cm程度の黄白色レキがかなり大量に入る、これより細かいレキも大量に入っている。
- Ⅲ a・Ⅳ層から遺物は出土していない。Ⅲ層のあるいはⅢb層時代は明確ではないが、山田神社前遺跡の包含層と位置付けるべきか。



第106図 五郎丸遺跡A地点トレンチ土層図

Ⅲ 平成14年度の調査

6 狐ん路遺跡

(1) 調査に至る経緯

玉名市築地字池下1199-5において、専用住宅建設工事が計画された。しかし、工事予定地を含む周辺は、狐ん路遺跡の範囲に含まれることから、平成14年6月4日付けで文化財保護法第57条の2による届出がなされた。これを受け、玉名市教育委員会が6月21日から25日にかけて確認調査を実施したところ、弥生時代の住居跡などが検出された。このため取り扱いについての協議を行い、建物部分については基礎掘削が埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、一部工事設計を変更することで現状保存できることとなった。しかし、車庫部分などで掘削される部分については、発掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の体制

発掘調査（平成14年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐

西田道彦

調査事務 文化係長 岩永次郎

主事 高田智華

調査担当 技師 田中康雄（本調査）

調査員 古閑敏士（確認調査）

発掘作業員 北陸美 藤好貴彦 古賀武子

大西ミツ子 西川弘子 小崎美子

整理作業（平成15年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也（至12月19日）

教育長 森 義臣（自12月22日）

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐

西田道彦

調査事務 文化係長 岩永次郎

主事 清田静香

報告書担当 技師 末永 崇

調査員 齋父雅史

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 平野輝代 古賀武子

(3) 遺跡の位置及び歴史的環境

調査地は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置する、標高22m程の地点である。遺跡周辺は全体的に緩やかな南への傾斜地であったとみられる。今回の調査地を含んだ、現在の集落を形成している部分が遺跡範囲であり、周辺の水田部分より地形的に高く、島状を呈す。遺跡の南側は特に低いようで、湿地帯が広がっている。

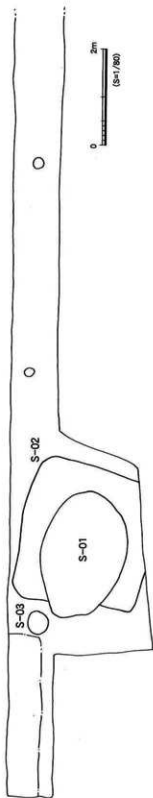
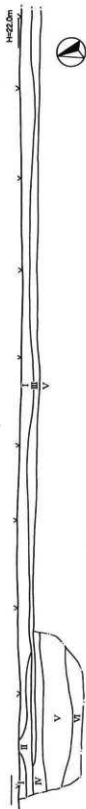
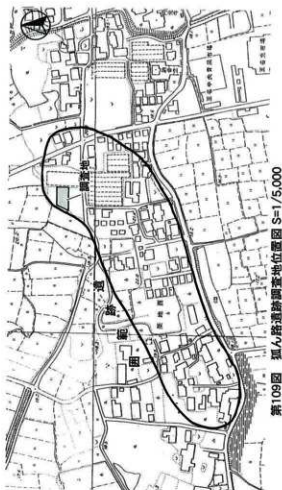
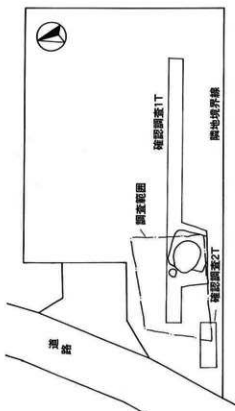
遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺物散布地として周知されている。小代山南麓の低丘陵上には、弥生時代後期の集落が広範囲に存在していたようで、発掘調査での住居跡の検出例も多い。また、遺跡から南へ300mほどの地点に所在する今見堂遺跡では、都市計画街路の建設に伴う発掘調査で、弥生時代の遺構、遺物が検出されたため、現在の水田部分についても遺跡の広がりが予想される。

遺跡内は現在ほとんど宅地と畑に利用されているが、一部に土塁状の部分が確認される。遺跡の東側には中世居館跡の築地館跡が所在し、館に伴うとみられる土塁や堀も確認されている。築地館跡と狐ん路遺跡は同じ低丘陵上で隣接し、一連の景観を成しており、中世の段階では築地館との関連も考慮が必要であろう。



1. 西田遺跡
2. 狐小路遺跡
3. 菊尾遺跡
4. 五郎丸遺跡
5. 古閑遺跡
6. 築地東遺跡
7. 浄光寺蓮華院境内遺跡
8. 東南大門遺跡
9. 築地市場遺跡
10. 松尾遺跡
11. 高岡原遺跡
12. 花水遺跡
13. 春出遺跡
14. 下立願寺遺跡
15. 玉名高校々庭遺跡
16. 岩崎原遺跡
17. 紫根木遺跡群

第107図 狐小路遺跡周辺跡生跡代主要遺跡分布図 S=1/20,000
 (熊本県遺跡地図及び新池川下流城遺跡群分布図より転載)



第110図 孤人路通訪確認調査トレンチ実測図

(6) 遺構と遺物

1号土坑 (S-01)

調査区北側にてIV層上面で検出した。平面は楕円形を呈し、1号住居跡を切る。長軸約2.5m、短軸約2.0m、検出面からの深さ約20cmを測る。覆土は黒褐色を呈し強く締まる。遺物は弥生時代の土器片が検出されたが、覆土の状況などから新しい掘り込みの可能性もある。

1号住居跡 (S-02)

調査区北側にてIV層上面で検出した。一辺が約2.9mの正方形を呈する住居跡で、検出面からの深さ約25cmを測る。覆土の上位は1号土坑に切られる。西南の一辺に深さ30cmほどの掘り込みと、中央に炉とみられる浅い掘り込みを検出した。覆土中から弥生時代後期の土器が出土した。(第112図)

2号土坑 (S-03)

調査区中央付近にてIV層上面で検出した。直径約60cmのほぼ円形を呈し、検出面からの深さ70cmほどである。覆土は3層に区分される。柱穴とみられる。

(7) まとめ

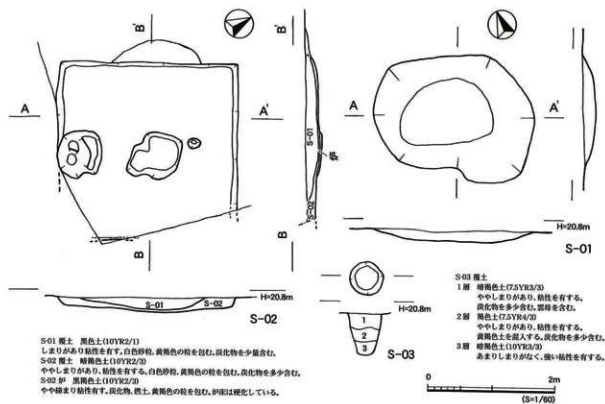
今回の調査では、弥生時代後期とみられる住居跡などを検出した。住居自体については、中央に炉を置き、一辺には土坑を配置する、弥生時代後期の住居の特徴を示す要素があるが、規模などを考慮すると、対面する二辺にはベッド状遺構があった可能性も指摘できる。周辺や層位の状況などから、住居のベッド状遺構の部分まで既に削平されているとも考えられる。

遺跡の内容については、以前より縄文時代から中世にかけての遺跡として把握されてきており、今回の調査により、住居跡が確認されたことで弥生時代後期には集落が存在することが指摘できるようになった。また、遺跡内の低丘陵部分にはさらに集落が広がっていることが予想される。

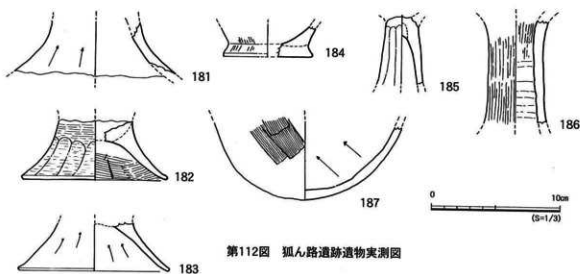


孤人路遺跡遠景(西から)

Ⅲ 平成14年度の調査



第111図 狐ん路遺跡遺構実測図



第112図 狐ん路遺跡遺物実測図

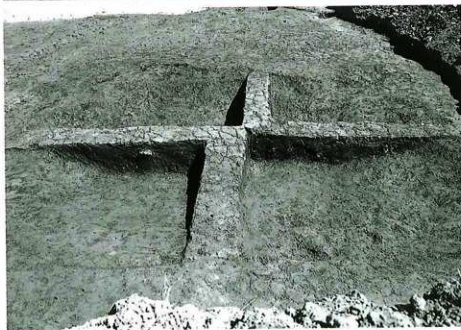
Ⅲ 平成14年度の調査



狐ん路遺跡調査地
周辺(工事後西から)



狐ん路遺跡調査
前状況(西から)

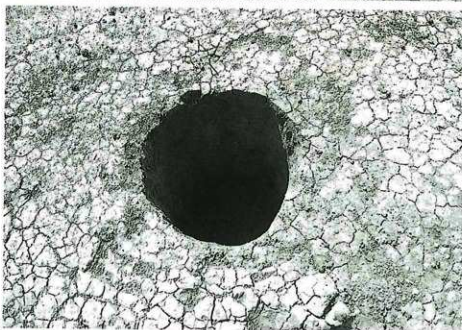


狐ん路遺跡S-01掘り
下げ状況(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



狐ん路遺跡S-02
完掘状況(東から)



狐ん路遺跡S-03
完掘状況(東から)



狐ん路遺跡調査区
完掘状況(東から)

Ⅲ 平成14年度の調査

7 西の山古墳群

所在地：築地字西山954-40

対象面積：1,650.00㎡

調査期間：14年7月2日

担当者：古閑敬士

調査地は、小代山から南に延びる丘陵上に位置する、標高44m程の地点である。

調査では、敷地内に南北33mのトレンチを1本と東西方向に13mと9mのトレンチ2本を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、掘削した範囲においては遺構・遺物などは確認されなかった。

旧地形は東へのややきつい斜面で、敷地南西側の高さに合わせて盛土されていた。

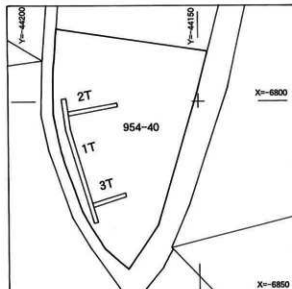
調査後の措置は、慎重工事である。



第113図 西の山古墳群調査地位置図 S=1/5,000



西の山古墳群調査地(北東から)



第114図 西の山古墳群調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

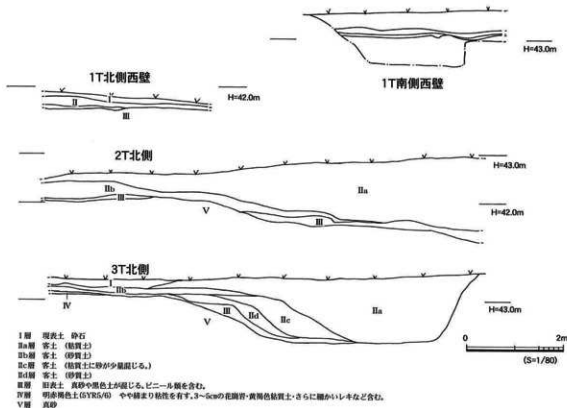


西の山古墳群調査地(西から)



西の山古墳群調査地(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



第115図 西の山古墳群トレンチ土層図



西の山古墳群 1T(北から)



西の山古墳群 2T(東から)



西の山古墳群 3T(西から)



西の山古墳群 3T土層堆積状況

8 長福寺跡

所在地：高瀬548

対象面積：862.02㎡

調査期間：14年8月7日～8月9日

担当者：蟹父雅史

調査地は、菊池川と繁根木川に挟まれた旧高瀬町のやや南、標高約8mの地点に位置している。現況は、肥後銀行の駐車場であり、アスファルト舗装されていた。

調査では、駐車場のほぼ中央に南北方向1本のトレンチを設定し、調査を行ったが、地表面より約80cm下までは、山砂の盛土や以前の建造物のコンクリート基礎が入り、掘削が困難であった。そのため、さらに掘削が可能な場所3カ所を深掘りして確認した。

その結果、約1m下に焼土層があり、その上層が平均して、建築材などの瓦礫層であった。明治10年の西南戦争に伴う家屋などが倒壊した層の可能性が高い。一カ所は、3m下まで掘削したが、焼土層の下は、川砂と粘質土層がほぼ交互に堆積しており、川の氾濫、洪水が繰り返し堆積したものと考えられる。その堆積層には、摩耗した瓦器片や近世陶磁器が含まれる。今回、確認できた最深部の遺物は、2.5m下からの近世陶磁器片であり、少なくとも近世以前の当地は、かなり低かったと思われる。

調査後の措置は、慎重工事である。



第116図 長福寺跡調査地位図 S=1/5,000



第117図 長福寺跡調査地・トレンチ配置図 S=1/1,000

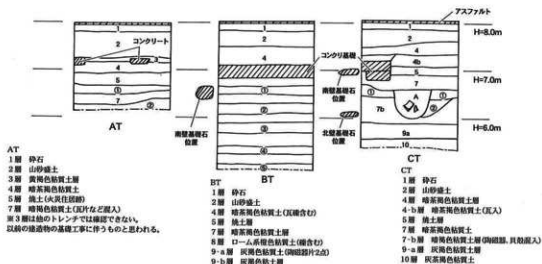


長福寺跡調査前状況(北から)



長福寺跡調査前状況(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



- ※1-CTの6層の焼土は、他の焼土層と異なる。黄褐色をしており、火災の受け方が違ったとみられる。木炭の層も入らない。
 ※ATの4層は土色・土質は異なるが、火災住居に伴うもので、焼土と判別した層に類似した層に混在しているものと判断される。
 ※BTの4層は、以前の建造物(コンクリート基礎)に伴うもので、火災住居(5層)のものと判別が難しく、瓦礫を含むが、類似の新しい物である。
 ※②～④層はすべて砂層で、ほぼ同じ特徴をもっている。川の氾濫に伴う埋積と思われる。中に建物も混入している。何層か雨水が降り溢しているらしい。
 ※9-a層に含まれる陶器破片が、今回確認できた最古のものとなる。
 ※BTで中世の瓦質土層片を確認したが、かなり劣化しており、本来で読まれたものと思われる。
 ※7-b層は、大塚埋立によるものと思われる。全体的に埋積されている。陶器破片、瓦礫など生活のごみが、埋積されている部分もある。
 ※3層から掘り込まれたのは、漆喰原料が大量に入り、瓦片が混入している。
 ※部分的に基礎工物の基礎石が、埋込まれたところがある。
 ※10層は他のトレンチでは見られない。かなりしりが狭く、遺物も混入しないので、假地表面、もしくは旧川床と考えられる。

第118図 長福寺跡トレンチ土層図



長福寺跡調査状況(北から)



長福寺跡 AT

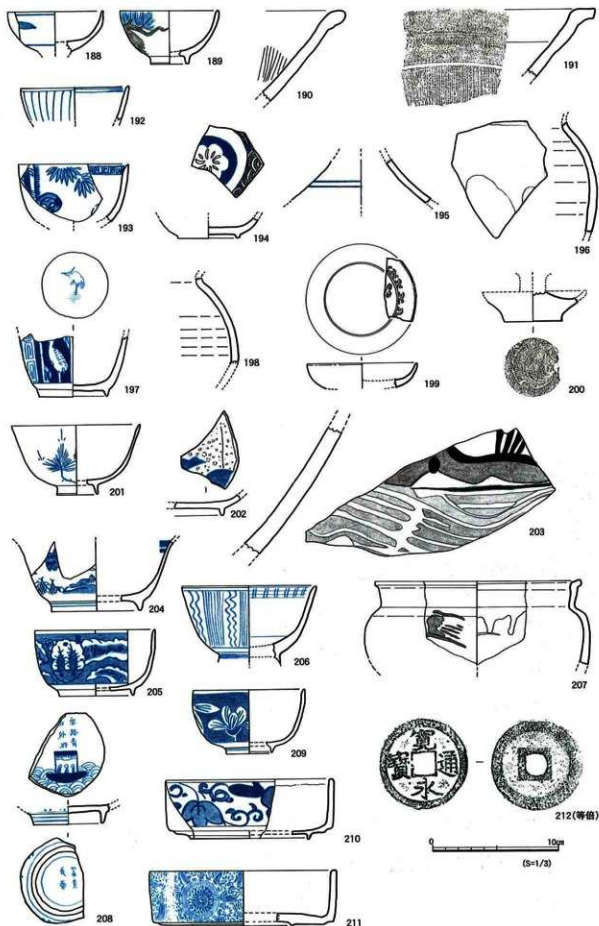


長福寺跡 BT



長福寺跡 CT

Ⅲ 平成14年度の調査



第119図 長福寺跡遺物実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



203



209



205



211



208



189



206



208



196



207

長福寺跡出土遺物

9 高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬字下町511-3

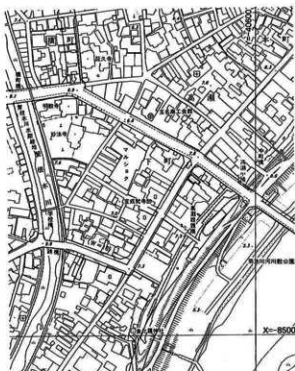
対象面積：100.11㎡

調査期間：14年8月12日

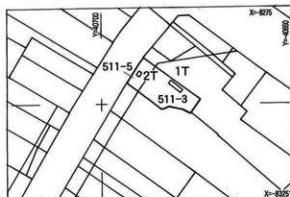
担当者：蘆父雅史

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置し、標高約7mの地点である。現況は、建物を解体後、整地されていた。

届出地に、1ヶ所のトレンチ（東西1m×4m）を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、1・2層は現代の整地層であり、約30cm下の3層で、明治10年の西南戦争による焼失家屋の跡とみられる部分を確認した。多量の焼土と二次焼成を受けた瓦が出土した。『事変西南之役』（県立図書館蔵）に詳細な調査が残っており、当地が火災を受けたことが記録されている。また、焼土層の下位には、凝灰岩を加工した礎石列があった。今回、時代が特定できる明確な遺物は出土しなかったが、近世に建造された家屋が、明治10年に焼失したと考えられる。さらに礎石の直下には、約40～70cm四方の安山岩自然石が標高約6.4mのレベルにはほぼ頭面をそろえて敷き詰めてあった。この敷石の下層は川の氾濫によるとみられる砂質層であり、地盤沈下防止のための根石と判断される。この根石は、黄褐色のローム土（客土）を約15cm固めた上に置かれていた。また、基礎工事時に立会を行い、さらに石列の一部を確認している。



第120図 高瀬本町通遺跡調査地位置図 S=1/5,000

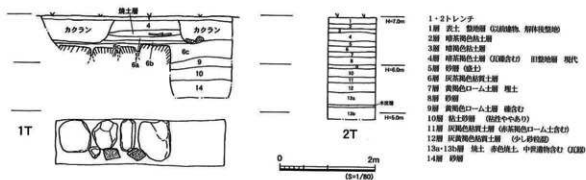


第121図 高瀬本町通遺跡調査地周辺地籍図-トレンチ配置図 S=1/1,000

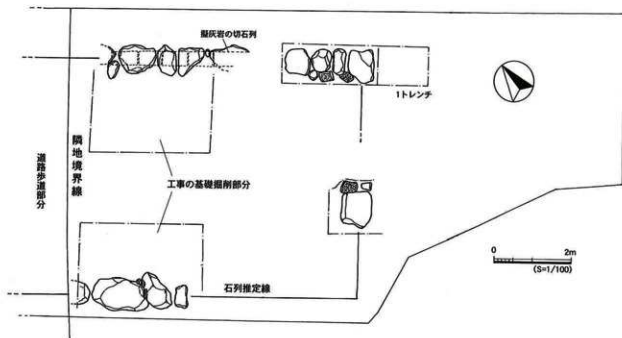


高瀬本町通遺跡調査前状況(西から)

Ⅲ 平成14年度の調査



第122図 高瀬本町通遺跡トレンチ実測図



第123図 高瀬本町通遺跡石列配置図



第124図 高瀬本町通遺跡遺物実測図



高瀬本町通遺跡 1T石列検出状況



高瀬本町通遺跡 1T土層堆積状況

Ⅲ 平成14年度の調査

10 伊倉宮の後遺跡

所在地：伊倉北方字宮の後2668,2700内

対象面積：744.57㎡

調査期間：14年9月10日

担当者：大倉千寿

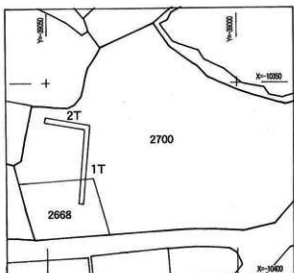
調査地は、伊倉丘陵性台地第1段丘の標高約34m付近に位置する。周辺の地形は若干の起伏があるが、当地の北側は緩やかに傾斜している斜面を果樹園として利用しており、わずかに土師片が散布していた。

調査では、既に宅地造成されている届出地にL字状にトレンチを設定して埋蔵文化財の確認を行った。その結果、I層は宅地造成の際の整地層を含む表土、II層はそれ以前の旧耕作土、III層は部分的に堆積しており、畑地造成の際の整地層であると考えられるが、わずかに中世の土師片が出土した。IV層は褐色のローム層で無遺物層と判断される。1トレンチの南側部分の、地表面から40cm程下のIV層上面で溝状の遺構を確認した。覆土の上層はII層と酷似しており、畑地として造成される直前まで溝として機能していたと考えられるが、遺物がほとんどなく、時期の特定は困難であった。また、この溝状遺構は1トレンチに直交するように検出されたため、ほぼ東西方向に延びていることが予想されるが、1トレンチの南端、地表面から1m程下に水道管が布設されており、これ以上のトレンチ掘削は不可能で、方向や規模は確認できなかった。遺物は縄文～弥生時代の石器や土器などを検出した。(第128図)

調査後の措置は、慎重工事である。



第125図 伊倉宮の後遺跡調査地位置図 S=1/5,000

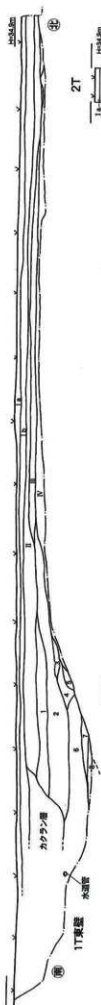


第126図 伊倉宮の後遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



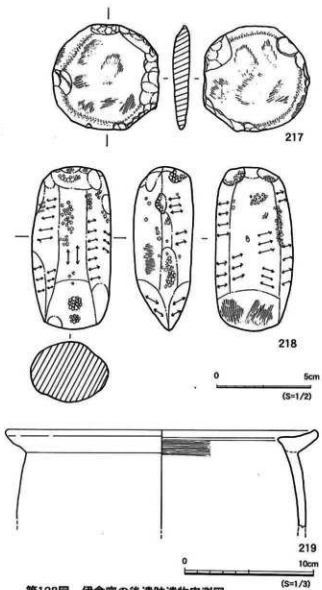
伊倉宮の後遺跡調査状況(東から)

III 平成14年度の調査

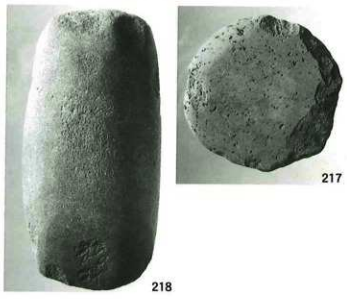


土器説明
 1 黒灰 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 2 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 3 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 4 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 5 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 6 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 7 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 8 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 9 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。
 10 黒土 土器 美土 山形、形や山の形を合わせた形。

第127図 伊倉宮の後遺跡トレンチ土層図



第128図 伊倉宮の後遺跡遺物実測図



1 1 亀甲遺跡

所在地：亀甲上エ畑187-3

対象面積：399.55㎡

調査期間：14年10月4日

担当者：大倉千寿

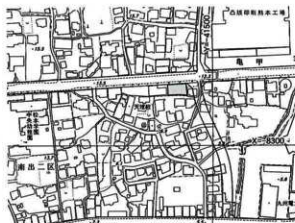
調査地は、国道208号線沿線、現玉名市街地のほぼ中央部に位置し、玉名台地第3段丘の最南端、標高12.3mの地点である。玉名平野との境界にあたる傾斜地に盛土を行い、宅地として造成されていた。

今回の工事は、事務所の新築工事で、南側部分に、設計GL（現況GL-20cm）より約1.5mの切土を行い、鉄筋コンクリートの半地下状の建物を建築する。基礎掘削は90cmである。

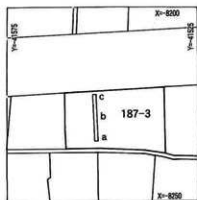
今回、届出地の1ヵ所に南北12.5mのトレンチを設定し、基礎掘削深度に合わせて、0.9～2.05mまで埋蔵文化財の確認を行ったが、全て盛土で、瓦礫やビニール等が混入していた。また、数回にわたって盛土を行っているものと考えられる。

遺物は盛土層から近・現代の陶磁器片や弥生土器片が検出された。（第131図）

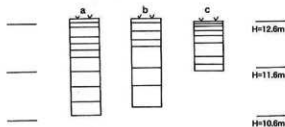
調査後の措置は、慎重工事である。



第129図 亀甲遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



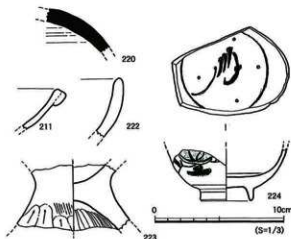
第130図 亀甲遺跡A地点調査地周辺地帯トレンチ配置図 S=1/1,000



第131図 亀甲遺跡A地点トレンチ土層図



亀甲遺跡A地点調査地(東から)



第132図 亀甲遺跡A地点遺物実測図

Ⅲ 平成14年度の調査

12 五郎丸遺跡(B地点)

所在地：山田字白石533-1

対象面積：1,156.00㎡

調査期間：14年12月25日

担当者：古閑敬士

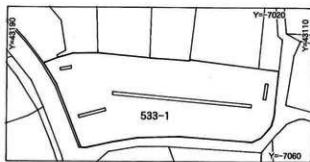
調査地は、山田の集落が所在する丘陵の西側裾部、標高15m程の地点である。敷地は、本来は西側への傾斜地であったとみられるが、既に造成されて畑として利用されていた。

調査では、敷地内に4ヶ所トレンチを設定し、重機により掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、耕作土の直下は無遺物層とみられる砂質土であり、遺構・遺物は検出されなかった。敷地内は、既に無遺物層まで削平されており、遺跡は既に消滅していると判断される

調査後の措置は、慎重工事である。



第133図 五郎丸遺跡B地点調査地位位置図 S=1/5,000



第134図 五郎丸遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



五郎丸遺跡B地点遠景(南から)



五郎丸遺跡B地点近景(西から)



五郎丸遺跡B地点近景(東から)

13 蓮華遺跡

所在地：築地字南大門2243-1

対象面積：440.46㎡

調査期間：15年1月9日

担当者：末永崇

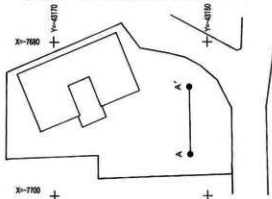
調査地は、小代山から緩やかに南に延びる低丘陵上に位置し、標高13m程の地点である。

調査区周辺は、弥生時代から中世にかけての遺跡が多く所在する。また、おおむね南北350m、東西250m程の範囲で道路が方形に巡っており、その範囲は中世に存在した浄光寺蓮華院の寺域であったと推定されている。

調査では、共同住宅建設に伴い一部駐車庫部分が掘削されていたため、その部分の土層を観察した。その結果、敷地内は宅地化に伴い削平されているようであるが、掘り込みを1ヶ所確認した。断面での幅約2m、検出面からの深さ約50cmを測る。遺物は検出されなかったが、覆土の状況からは近現代の掘り込みの可能性が考えられる。



第135図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第136図 蓮華遺跡断面位置図 (S=1/500)



蓮華遺跡調査地(南東から)



蓮華遺跡調査地土層堆積状況



第137図 蓮華遺跡土層断面図

Ⅲ 平成14年度の調査

1.4 亀甲遺跡(B地点)

所在地：亀甲字北園238-1

対象面積：746.15㎡

調査期間：15年2月19日

担当者：末永 崇

調査地は、国道208号線北側の玉名市街中心部に位置し、標高14m前後の地点である。周辺は、本来は北側に向けての傾斜地だったとみられるが、現在は造成されて宅地化されている。

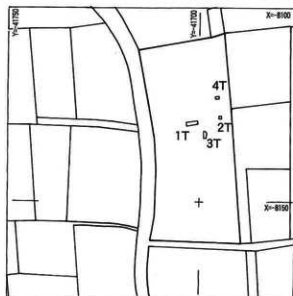
敷地内の現況は既存の建物と、駐車場、庭部分であるが、土地所有者からの聞き取りによると、現在の建物の建築時に造成を行い、地形的に低い敷地北側へ切盛りしたとのことだった。

確認調査では、建物予定範囲の掘削可能な地点を4カ所、人力により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。このうち、1、3トレンチでは表土の下から無遺物層と判断される砂や礫片を含む暗褐色土層を検出した。2、4トレンチでは、暗褐色土層を70cm程確認し、鉄滓や近世～近代の磁器片を検出した。今回確認した範囲では遺構は検出されなかった。さらにトレンチを入れていない駐車場部分も、上記のような状況であることから、造成などの影響によって遺跡の存在は低率と推察された。

調査後の措置は、慎重工事である。



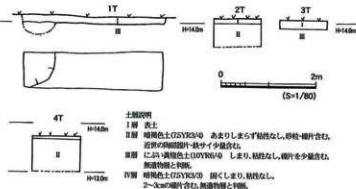
第138図 亀甲遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



第139図 亀甲遺跡B地点調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



亀甲遺跡B地点調査区西側駐車場(南から)



第140図 亀甲遺跡B地点トレンチ実測図

Ⅲ 平成14年度の調査

15 一本松遺跡

所在地：伊倉北方2231

対象面積：5.60㎡

調査期間：15年3月12日～3月13日

担当者：齋父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約53mの地点に位置する。南側隣接地では、平成12年、13年に確認調査を行い、大規模に造成されているようで、埋蔵文化財は確認されていない。

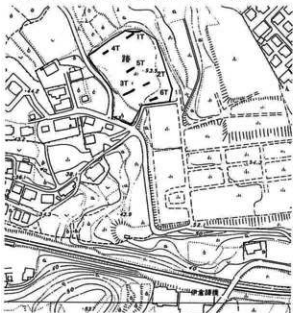
現況は、以前より切土が行われ、旧県養鶏場のグラウンドとして整地されており、その後、隣接する老人ホームの造成に際し、その排土を埋め立てた状況であった。その排土は、平成12年に確認調査を行い、埋蔵文化財は確認されなかった部分のものである。

今回、届出地に6本のトレンチを設定して、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、ほとんどが排土の埋立てによるものであり、約1.5m下に無遺物層と判断されるローム層が確認され、そこまで削平されていた。

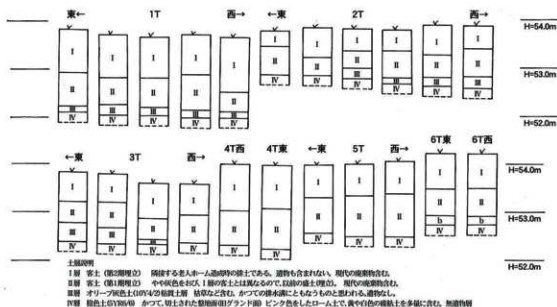
調査後の措置は、慎重工事である。



第141図 一本松遺跡調査地位置図 S=1/20,000



第142図 一本松遺跡トレンチ配置図 S=2,500



第143図 一本松遺跡トレンチ 土層図

16 保田木城跡・光蓮寺跡

所在地：高瀬83,83-6

対象面積：639.00㎡

調査期間：15年3月17日

担当者：藪父雅史

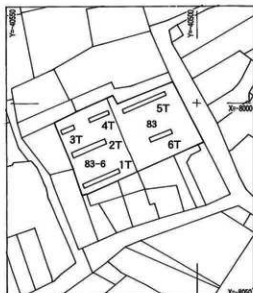
調査地は、菊池川と繁根木川に挟まれた標高約8.5mの地点に位置している。嘉永7(1854)年の高瀬町図には「光蓮寺」とあり、昭和50年代に移転し、跡地は駐車場として利用されていた。

今回、届出地に6カ所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、約60cm下に光蓮寺の礎石と思われる凝灰岩の切石が確認され、その上層は近・現代の遺物を含む寺院解体後とみられる整地層であった。礎石の下位は、暗褐色粘質土で中世～近世の遺物を含み、寺院建立以前の堆積層と考えられる。今回、1・5トレンチにおいて約1.5m下で無遺物層と判断される明褐色粘質土を確認した。しかし保田木城跡に伴う遺構等は確認できなかった。旧地形は南側へ緩やかに傾斜していると思われ、以前より盛土などの造成が繰り返されて、現況のレベルになっている。

調査後の措置は、慎重工事である。



第144図 保田木城跡・光蓮寺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第145図 保田木城跡・光蓮寺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

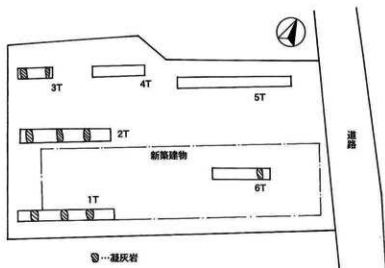


保田木城跡・光蓮寺跡周辺(工事後南から)

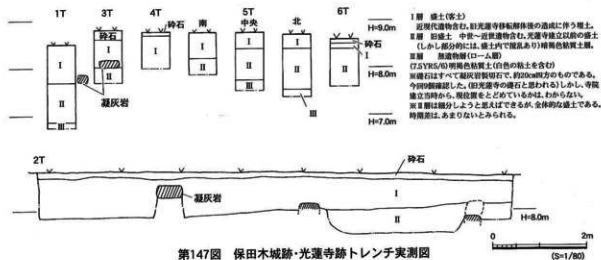


保田木城跡・光蓮寺跡調査前状況(東から)

Ⅲ 平成14年度の調査



第146図 保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ配置図 S=1/400



第147図 保田木城跡・光蓮寺跡トレンチ実測図

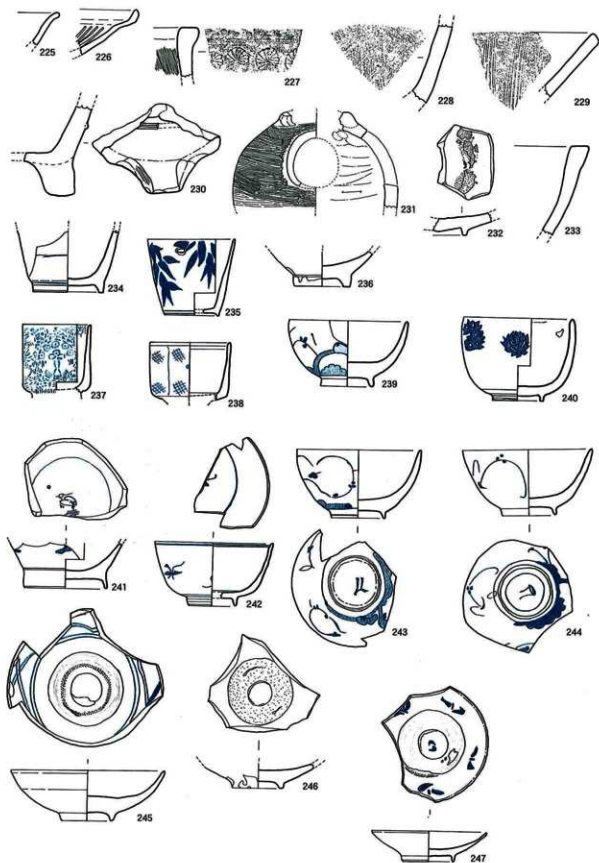


保田木城跡・光蓮寺跡 2T(東から)



保田木城跡・光蓮寺跡 2T凝灰岩出土状況

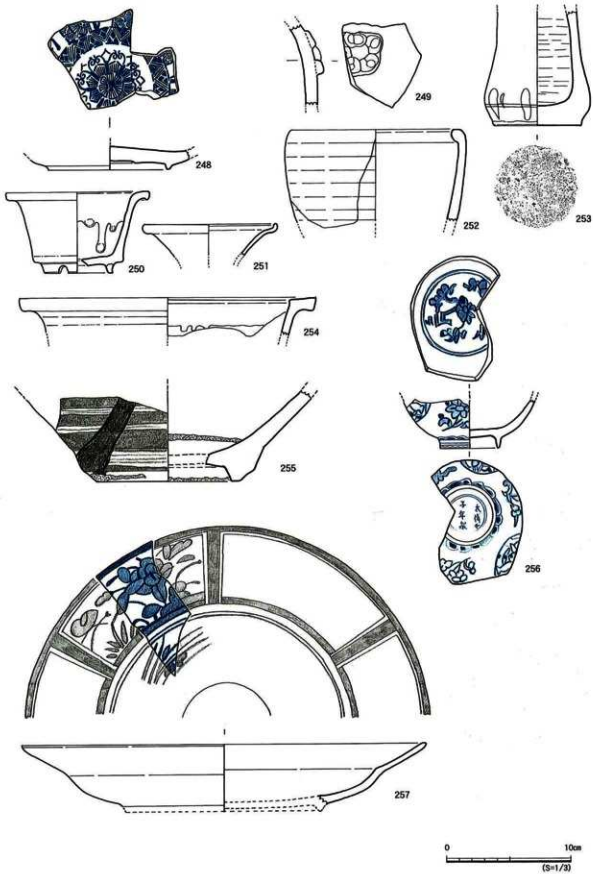
Ⅲ 平成14年度の調査



第148図 保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(1)



Ⅲ 平成14年度の調査



第149図 保田木城跡・光蓮寺跡遺物実測図(2)

Ⅲ 平成14年度の調査



237



238



240



247



248



249



250



251



252



256



256



257

保田木城跡・光蓮寺跡出土遺物

17 ふれあい広場建設予定地

所在地：立願寺境内

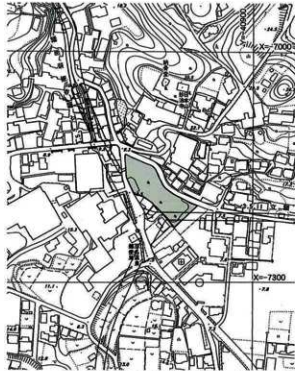
対象面積：3,000㎡

担当者：齋父雅史

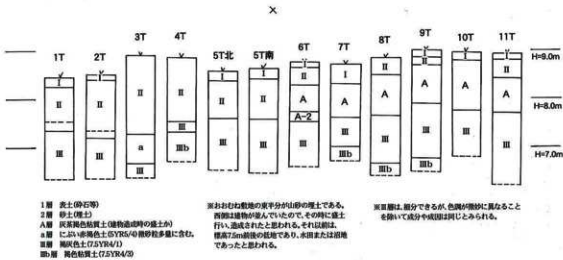
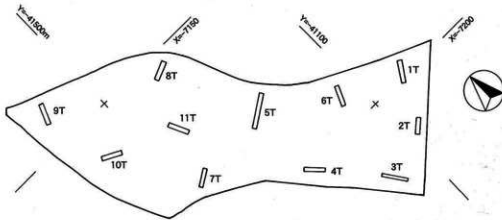
調査期間：15年3月19日～3月20日

調査地は、繁根木川右岸の平野部に位置し、標高9m程の地点である。北側から舌状に延びる丘陵から降った谷部分であり、以前は宅地として利用されていた。

調査では、敷地内に11ヵ所の試掘溝を設定して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、全体的に現在の地表面より約1～1.5m下までは山砂や現代の遺物を含む層で、近年において造成されていると思われる。さらに下層は暗灰色の泥炭層で、湧水がみられた。



第150図 ふれあい広場建設予定地調査地位図 S=1/5,000



第151図 ふれあい広場建設予定地トレンチ配置図・土層柱状図

Ⅲ 平成14年度の調査

今回の調査では、最大2.5m下まで掘り下げて調査したが、埋蔵文化財は確認されなかった。調査後の措置は、慎重工事である。



ふれあい広場建設予定地 4 T土層堆積状況



ふれあい広場建設予定地調査前状況(南東から)



ふれあい広場建設予定地 5 T土層堆積状況



ふれあい広場建設予定地調査前状況(北西から)



ふれあい広場建設予定地 8 T土層堆積状況



ふれあい広場建設予定地調査状況



ふれあい広場建設予定地 9 T土層堆積状況

18 中村館跡

所在地：中1426-1,1386-1

対象面積：600.00㎡

調査期間：15年3月25日～3月27日

担当者：齋父雅史

調査地は、境川左岸、小代山から南に緩やかに傾斜する低丘陵上に位置し、標高20m程の地点である。遺跡内は古くから宅地などに利用されているが、部分的に土塁状の遺構や溝などが残っている。道路部分についても、場所によってはかつての溝などの地割に伴う遺構であったと思われる。

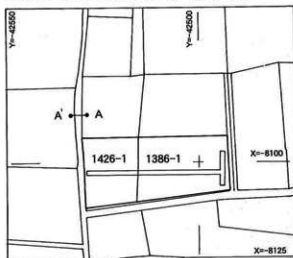
『肥後国玉名郡村誌』には、玉名郡中村の項に「中村館跡」とあり、永禄～元亀年間（1558～1572）に大野左馬介親連の従弟の大野加志麻呂・登得麻呂兄弟が居している時に、竜造寺隆信の軍勢が高岡の城と中村館を攻略し、加志麻呂・登得麻呂兄弟は討死、親連は降伏したことが里俗説として紹介されている。

また、玉名郡村図の中村の絵図では、村の中心部の宅地を山林が取り囲んでいるような状況がみられ、山林とあるのは土塁又は溝・堀の部分を示していると思われる。それら土塁などの位置と、地割や現地の状況などを検討して館の全体像を想定したのが第154図である。概観して、土塁や堀などで囲まれた区画が3ないし4つほど存在するようである。現在の明正寺や慶専寺が所在する部分で、南北に3区画ほどと、春日神社が所在する部分にも1区画があったと推察される。全体の遺跡の範囲は、南北400m、270mほどに及ぶとみられる。

調査では、遺跡の西側に南北方向に延びる溝に隣接する敷地内で、東西方向にT字形にトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、館の堀とみられる遺構を確認した。現地表面からの深さは西側の堀が3m以上、東側の堀が2m以上を測る。調査区北側にかけて現況でも確認できる土塁状遺構と、両側に掘られた堀状の遺構の



第152図 中村館跡調査地位置図 S=1/5,000

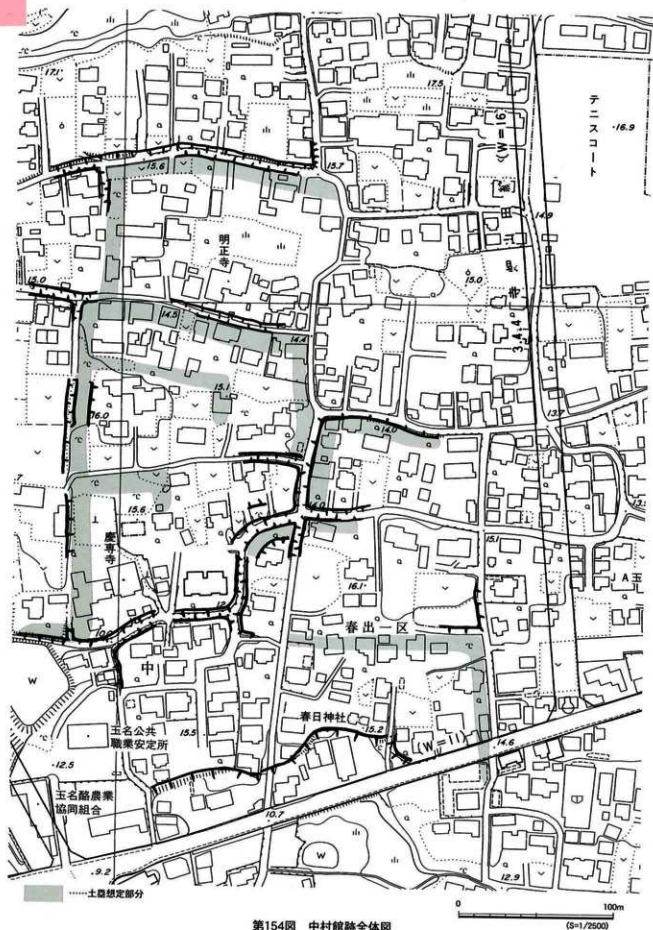


第153図 中村館跡調査地周辺区画・トレンチ配置図 S=1/1,000

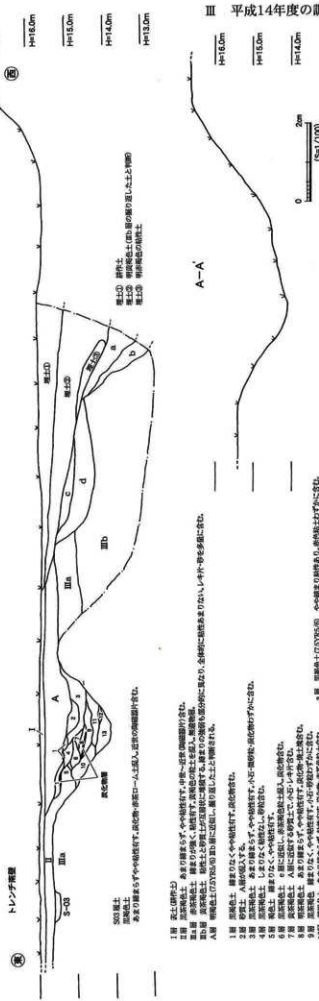
延長であるとみられる。

今回の調査の結果から、館の西側については、南北に延びる土塁とその両側に掘られた2重の堀が配置されていたと考えられる。

Ⅲ 平成14年度の調査



第154図 中村館跡全体図

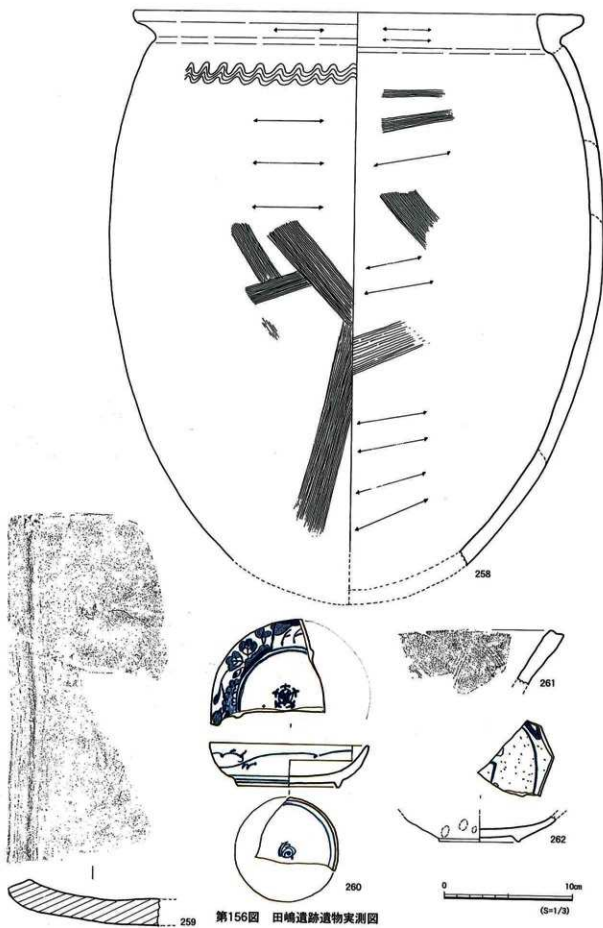


III 平成14年度の調査

- 1層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 2層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 3層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 4層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 5層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 6層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 7層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 8層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 9層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 10層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 11層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 12層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。
- 13層 腐土 腐土がほとんど、やや砂質で、中層～底層は腐植質を含む。

第155図 中村間跡トレンチ土層図

III 平成14年度の調査



第156図 田橋遺跡遺物実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



中村館跡調査地西側(北から)



中村館跡調査地西側堀状遺構(北から)



中村館跡調査状況(東から)



中村館跡調査状況(西から)



中村館跡トレンチ西側土層堆積状況



中村館跡トレンチ土層堆積状況



中村館跡トレンチ東側(北から)



中村館跡調査後(西から)

19 築地東遺跡

所在地：築地1852,1854-1,1854-3

対象面積：2,500.00㎡

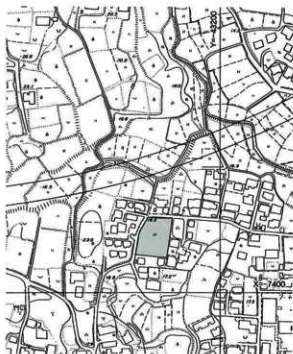
調査期間：15年3月28日

担当者：齋父雅史

調査地は、小代山から南側に延びる低丘陵上に位置し、標高19mほどの地点である。道路を挟んだ西側の敷地は、中世城館の築地館跡の推定範囲で、道路と隣接する敷地では1m程の高低差がある。

今回の調査では、遺跡周辺の宅地化が進みつつある中で、遺跡の範囲内容等の把握を目的として行った。

調査では、敷地内に7ヶ所トレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、Ⅰ～Ⅲ層を確認した。Ⅰ層は畑の耕作土、Ⅱ層は灰赤色を呈する層で、近世の陶磁器片や土師器片を含む。Ⅲ層は黄褐色を呈するローム層で無遺物層と判断される。このうち、3層上面で住居址とみられる遺構を検出した。遺構内から古墳時代前期とみられる土師器の甕が出土した。(第160図)また、道路部分は未調査であるが、隣接する築地館跡の堀又は溝である可能性も十分考えられる。



第157図 築地東遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第158図 築地東遺跡調査地トレンチ配置図 S=1/1,000

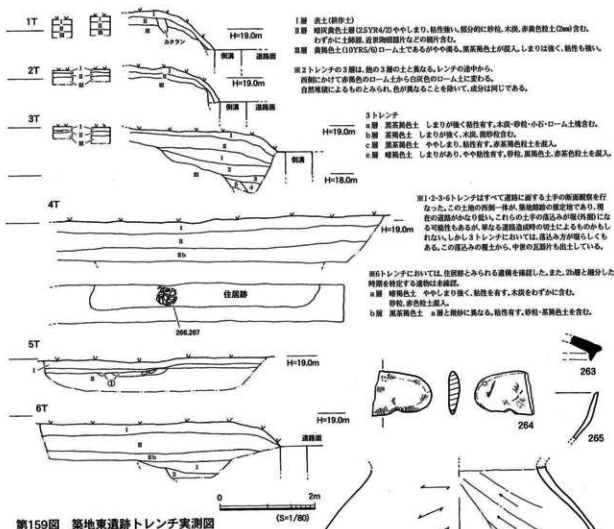


築地東遺跡調査地(北から)

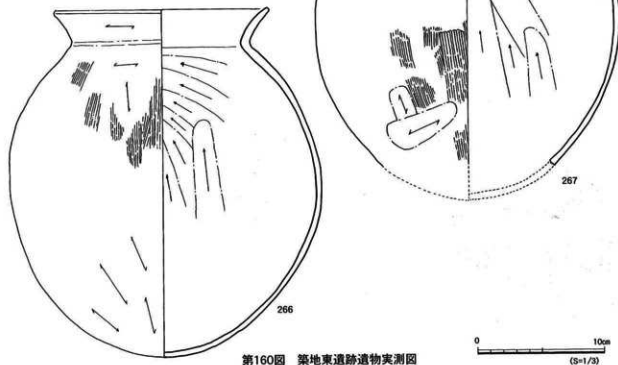


築地東遺跡調査地(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



第159図 築地東遺跡トレンチ実測図



第160図 築地東遺跡遺物実測図

III 平成14年度の調査

遺物観察表(14年度の調査)

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	特徴	部位	口径	底径	高さ	調査(外)	調査(内)	色調(外)	色調(内)	施土	焼成	発掘番号	備考
160	青森県遺跡	1丁内	陶器	皿	口~腹部	(2.6)	4.3	3.3	-	胴底ノリ	黒(10YR4/4)	明赤黒(2.5YR5/6)	0.3mm以下の白色砂粒混在含む	良好	120	
161	青森県遺跡	表保	青磁	碗	腹部	-	(1.6)	(1.3)	-	胎土付	黒(10YR4/4)	明赤黒(2.5YR5/6)	黒色砂子含む	良好	118	
162	青森県遺跡	表保	須恵焼	鉢	口	-	-	(6.9)	胎土付タナキ	黒(10YR4/4)	黒(10YR5/1)	白色砂粒少し含む	良好	116		
163	青森県遺跡	表保	須恵焼	鉢	口	-	-	(5.9)	胎土付タナキ	黒(10YR4/4)	オリ〜灰(2.5GY6/1)	黒褐色土多く含む	良好	117		
164	青森県遺跡	表保	須恵焼	碗	口	-	-	(3.0)	胎土付タナキ	黒(10YR4/4)	胎土付タナキ	胎土付タナキ	良好	119		
165	稲山古墳	神社裏	丹塗焼	底面	底面	-	(4.2)	(4.5)	ハケ目	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白粉(0.5~5mm)少量、黒粉(少量)含む	普通	198	
166	稲山古墳	神社裏	丹塗焼	胴部	胴部	-	(3.2)	-	ハケ目	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒(0.5~5mm)少量、黒粉(少量)含む	普通	199	
167	稲山古墳	神社裏	丹塗焼	胴部	胴部	-	-	6.0	ハケ目	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒(0.5~5mm)少量、黒粉(少量)含む	普通	200	
168	高田原J遺跡	Ⅰ区Ⅱ層	石製品	片断	口	(4.0)	(2.8)	(1.0)	-	不明	-	-	白色砂粒(0.5~5mm)少量、黒粉(少量)含む	普通	129	ナリカノミ
169	高田原J遺跡	Ⅰ区Ⅲ層	石製品	片断	口	(4.7)	(4.2)	(2.9)	-	不明	-	-	-	-	136	緑色土若泥
170	高田原J遺跡	Ⅰ区Ⅳ層	石製品	石片	口	(6.3)	(3.9)	(2.9)	-	不明	-	-	-	-	128	須恵焼
171	高田原J遺跡	Ⅱ区Ⅰ~Ⅱ層	石製品	すり石	口	(6.5)	(4.2)	(2.4)	-	不明	-	-	-	-	127	須恵焼
172	高田原J遺跡	Ⅰ区Ⅲ層	石製品	すり石	口	(6.8)	(4.4)	(4.2)	-	不明	-	-	-	-	135	安山岩
173	高田原J遺跡	Ⅳ区Ⅲ層	石製品	すり石	口	(9.8)	(5.2)	(3.4)	-	不明	-	-	-	-	134	安山岩
174	高田原J遺跡	Ⅲ区Ⅲ層	石製品	すり石	口	(8.4)	(6.7)	(6.1)	-	不明	-	-	-	-	137	安山岩
175	高田原J遺跡	Ⅲ区Ⅲ層	不明	高弁	高弁	-	-	(1.9)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒、赤褐色土含む	不良	130	
176	高田原J遺跡	Ⅳ区Ⅲ層	不明	不明	不明	-	-	(2.8)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	カクセシ、砂少量含む	普通	131	
177	高田原J遺跡	V区Ⅲ層	不明	不明	不明	-	-	(8.8)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	砂少量、黒粉(少量)含む	不良	132	
178	高田原J遺跡	V区Ⅲ層	不明	不明	不明	-	-	3.5	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	砂少量、黒粉(少量)含む	普通	126	
179	高田原J遺跡	V区Ⅲ層	不明	不明	不明	(3.4)	(4.5)	(3.9)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒	不良	133	
180	高田原J遺跡	Ⅰ区Ⅳ層	須恵焼	片断	口	-	-	(1.9)	胎土付タナキ	胎土付タナキ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	カクセシをむかひ含む	不良	125	
181	狐心館遺跡	S-1	弥生土器	皿	腹部	-	-	(4.3)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	石灰、白色砂粒、黒粉含む	普通	144	
182	狐心館遺跡	S-3	弥生土器	皿	腹部	-	-	(11.5)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒(0.5~3mm)、赤褐色土(1~2mm)含む	良好	149	
183	狐心館遺跡	S-2	弥生土器	皿	腹部	-	-	(11.9)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ、砂少量含む	不良	146	
184	狐心館遺跡	S-1	弥生土器	皿	腹部	-	-	(7.0)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ、砂少量含む	不良	145	
185	狐心館遺跡	S-1	弥生土器	高弁	高弁	-	-	(5.2)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	砂(1~3mm)、黒粉(少量)	普通	148	
186	狐心館遺跡	11(C)	弥生土器	高弁	高弁	-	-	(8.0)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	白色砂粒(0.5~3mm)含む	普通	145	
187	狐心館遺跡	S-2	弥生土器	皿	腹部	-	-	(6.1)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	砂少量、カクセシ少量	普通	143	
188	長埜遺跡	11-B(6F)層	弥生土器	皿	腹部	-	-	(6.1)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	砂少量、カクセシ少量	普通	147	
189	長埜遺跡	11-C	弥生土器	皿	腹部	-	-	(3.2)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	163	18号、要図
190	長埜遺跡	11-B(6F)層	陶器	片断	口	-	-	(7.9)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	170	胎土
191	長埜遺跡	11-B(6F)層	陶器	片断	口	-	-	(7.0)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	167	
192	長埜遺跡	11-B(5F)層	弥生土器	皿	腹部	-	-	(5.3)	ナリ	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	166	
193	長埜遺跡	11-A(7F)層	弥生土器	皿	口	(8.4)	-	(2.5)	-	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	157	遺跡文、18号
194	長埜遺跡	11-B(6F)層	弥生土器	皿	口	(8.7)	-	(4.5)	-	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	155	遺跡文、18号
195	長埜遺跡	11-B(6F)層	弥生土器	皿	口	(8.7)	-	(4.5)	-	ナリ	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	155	遺跡文、18号
196	長埜遺跡	11-B(6F)層	陶器	片断	口	-	-	4.8	(1.5)	-	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	169	胎土
197	長埜遺跡	11-C(7F)層	陶器	片断	口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	172	小穴(埋上層)
198	長埜遺跡	11-A(7F)層	陶器	片断	口	-	-	(5.4)	(4.8)	-	明赤黒(2.5YR5/6)	明赤黒(2.5YR5/6)	胎土付タナキ	良好	175	胎土
199	長埜遺跡	11-A(7F)層	陶器	片断	口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	153	小穴(埋上層)

Ⅲ 平成14年度の調査

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	時期	部位	口径	底径	高さ	調整(外)	調整(内)	色類(外)	色類(内)	跡土	構成	調査番号	備考
199	兵衛寺跡	IT-A	陶器	皿	口~腹部	-	-	-	-	-	-	-	-	良好	175-A	裏面・縁部
200	兵衛寺跡	兵衛	灯火皿	皿	底部	(10.1)	5.5	4.5	-	-	(陶)灰白(7.5/8.7)	-	-	良好	175-A	糸取、底
201	兵衛寺跡	IT-C	染付	皿	口~腹部	(10.1)	5.5	-	(陶)黒緑(1027/1)	(陶)灰白(7.5/8.7)	-	-	-	良好	175	二次的分布部行る
202	兵衛寺跡	IT-B(6.5)	染付	皿	口~腹部	-	(1.5)	-	(陶)黒緑(1024/4)	(陶)土黄(1.0/4.6)	-	-	-	良好	158	二股、縁部、底面
203	兵衛寺跡	IT-B(6.7)	陶器	壺	胴部	-	(3.7)	-	(陶)青灰(7.5/8.7/1)	(陶)灰白(7.5/8.7/1)	-	-	-	良好	168	二股、縁部、底面
204	兵衛寺跡	IT-B(6.7)	染付	瓶	口~腹部	(7.1)	(5.4)	-	(陶)灰白(5.0/6.7)	(陶)土黄(7.5/8.7)	-	-	-	良好	162	幅広素台
205	兵衛寺跡	IT-B(6.7)	染付	瓶	口~腹部	(5.5)	(5.8)	5.1	-	-	-	-	-	良好	159	幅広素台
206	兵衛寺跡	IT-C(6.6)	磁器	壺	口~腹部	(18.2)	-	(6.5)	-	-	(陶)灰白(10.9/7.1)	(陶)土黄(10.9/6.2)	-	良好	175-C	縁部・底面
207	兵衛寺跡	IT-A(7.8)	陶器	壺	口~腹部	(5.5)	(1.5)	-	(陶)オリーブ灰(5.0/7.1)	(陶)土黄(5.0/6.7)	-	-	-	良好	152	糸取
208	兵衛寺跡	IT-B(6.7)	染付	皿	口~腹部	(8.8)	(3.7)	5.0	(陶)青灰(7.5/8.7/1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	161	裏面・底面に糸取
209	兵衛寺跡	IT-B(6.7)	染付	皿	口~腹部	(13.2)	(3.2)	4.7	(陶)灰白(5.0/6.7)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	160	1/6~縁部~糸取
210	兵衛寺跡	IT-A(6.5)	染付	皿	口~腹部	(14.8)	(7.9)	4.3	(陶)オリーブ灰(5.0/7.1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	156	1/6、底面
211	兵衛寺跡	IT-C	染付	皿	口~腹部	(14.8)	(7.9)	4.3	(陶)オリーブ灰(5.0/7.1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	173	底面・印押
212	兵衛寺跡	IT-A(7.8)	灰土遺物	1点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	154	-
213	高瀬本町遺跡	2T(13.9)	青磁	瓶	口腹部	-	-	(3.9)	-	-	(陶)オリーブ灰(5.0/6.7)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	良好	181-A	-
214	高瀬本町遺跡	2T(9~12)	磁器	瓶	口~腹部	10.6	(4.2)	-	(陶)オリーブ灰(5.0/7.1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	普通	179	底面・底
215	高瀬本町遺跡	2T(13.9)	土師器	皿	口~腹部	-	-	1.8	糸取	ナシ	(陶)土黄(9.8/6.8)	-	-	良好	180-A	底面
216	高瀬本町遺跡	2T(13.9)	瓦葺土器	不明	口~腹部	-	-	(4.3)	縁部・外口	-	-	-	-	普通	180-B	底面
217	伊富宮の宮遺跡	跡土系保	石製品	円形石器	不明	8.2	8.0	1.3	-	-	-	-	-	普通	180-A	底面
218	伊富宮の宮遺跡	跡土系保	石製品	磨製石片	不明	12.8	6.2	4.8	-	-	-	-	-	普通	177	底面
219	伊富宮の宮遺跡	跡土系保	瓦葺土器	壺	口~腹部	(24.3)	-	(7.5)	ナシ	ナシ	(陶)土黄(9.8/6.8)	-	-	普通	176	底面
220	亀甲遺跡	盛土層	須恵器	坏蓋	口~腹部	-	(3.4)	ナシ	ナシ	ナシ	(陶)土黄(9.8/6.8)	-	-	普通	194	底面
221	亀甲遺跡	盛土層	土師器	坏蓋	口~腹部	-	(3.2)	ナシ	ナシ	ナシ	黒(7.5/9.7/8.4)	-	-	普通	195	底面
222	亀甲遺跡	盛土層	土師器	不明	口~腹部	-	(4.5)	ナシ	ナシ	ナシ	黒(7.5/9.7/8.4)	-	-	普通	196	底面
223	亀甲遺跡	盛土層	瓦葺土器	不明	口~腹部	-	(6.0)	ナシ	ナシ	ナシ	黒(7.5/9.7/8.4)	-	-	普通	193	底面
224	亀甲遺跡	盛土層	染付	瓶	口~腹部	-	(4.1)	-	ナシ	ナシ	黒(7.5/9.7/8.4)	-	-	普通	197	底面
225	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	瓦葺	皿	口~腹部	-	(2.5)	-	(陶)青灰(10627/1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	201	底面
226	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	青磁	皿	口~腹部	-	(3.5)	-	(陶)オリーブ灰(10.6/2)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	208	底面
227	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	瓦葺土器	火鉢	口~腹部	-	(3.8)	ナシ	黒(10.9/2)	黒(10.9/2)	-	-	-	普通	212	底面
228	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	瓦葺土器	火鉢	口~腹部	-	(5.5)	ナシ	黒(10.9/2)	黒(10.9/2)	-	-	-	普通	231-A	底面・スタンプ
229	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	瓦葺土器	火鉢	口~腹部	-	(5.2)	ナシ	灰白(5.7/7.1)	灰白(5.7/7.1)	-	-	-	普通	210	底面・スタンプ
230	保田本城跡-本通寺跡	1T(11.1)	瓦葺土器	火鉢	口~腹部	-	(7.1)	ナシ	黒(10.9/6.2)	黒(10.9/6.2)	-	-	-	普通	210	底面・スタンプ
231	保田本城跡-本通寺跡	2T(16.2下口)	瓦葺土器	不明	口~腹部	-	(7.3)	ナシ	黒(10.9/6.2)	黒(10.9/6.2)	-	-	-	普通	210	底面・スタンプ
232	保田本城跡-本通寺跡	2T(17.1)	陶器	皿	口~腹部	-	(1.7)	-	黒(10.9/6.2)	黒(10.9/6.2)	-	-	-	良好	217	底面
233	保田本城跡-本通寺跡	2T(17.1)	瓦葺	片口?	口~腹部	-	(7.0)	ナシ	黒(10.9/6.2)	黒(10.9/6.2)	-	-	-	良好	217	底面
234	保田本城跡-本通寺跡	4T(11.1)	磁器	瓶口	口~腹部	5.3	(5.1)	-	黒(10.9/6.2)	黒(10.9/6.2)	-	-	-	良好	231-F	底面
235	保田本城跡-本通寺跡	3T(11.1)	染付	瓶口	口~腹部	7.0	4.4	6.0	ナシ	ナシ	黒(10.9/6.2)	-	-	良好	223	底面
236	保田本城跡-本通寺跡	5T(11.1)	陶器	瓶	口~腹部	-	(4.4)	(2.7)	-	-	(陶)緑青	-	-	良好	228	底面
237	保田本城跡-本通寺跡	3T(11.1)	染付	湯呑み	口~腹部	5.3	-	5.5	(陶)灰白(10.9/6.1)	(陶)土黄(10.9/6.7)	-	-	-	良好	224	底面・底

Ⅲ 平成14年度の調査

回線番号	通 路 名	出土地点	種類	材質	部位	口径	底径	高さ	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	磁 土	焼成	調査番号	備 考
238	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	染付	陶製碗		(6.5)	-	(4.4)	-	-	(陶)灰白(1076/2)	(陶)灰白(1076/1)	-	良好	231-G	18巻、肥厚
239	扇田水越跡・光通寺跡	2T(1層)	染付	碗		(9.4)	4.1	5.2	-	-	(陶)灰白(7.507/1)	(土)灰白(7.507/1)	-	良好	214	18巻、肥厚
240	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	磁器	口一腰部		8.7	4.0	6.5	-	-	(陶)黒オリーブ灰(2.507)	(土)灰白(N7)	-	良好	204	18巻、コンニク型
241	扇田水越跡・光通寺跡	2T(1層)	磁器	底 部			5.4	(3.5)	-	-	(陶)黒オリーブ灰(2.507/1)	(土)灰白(N6)	-	良好	216	底型、肥厚
242	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	染付	碗		9.3	3.7	5.1	-	-	(陶)黒青灰(587/1)	(土)灰白(N6)	-	良好	207	底型、肥厚
243	扇田水越跡・光通寺跡	5T	染付	碗		9.8	4.2	5.4	-	-	(陶)灰白(1076/1)	(土)灰白(577/1)	-	良好	226	高台に属する
244	扇田水越跡・光通寺跡	3T(・H層)	染付	碗		10.1	4.3	5.2	-	-	(陶)灰白(1077/1)	(土)灰白(576/1)	-	良好	222	18巻、淡花巻
245	扇田水越跡・光通寺跡	2T(1層)	染付	皿	口一腰部	12.1	4.1	4.0	-	-	(陶)灰白(N7)	(土)灰白(N6)	-	良好	221	底の目録ハズ
246	扇田水越跡・光通寺跡	2T(遺下)	染付	皿		9.0	4.0	2.4	-	-	(陶)灰白(1078/1)	(土)灰白(N6)	-	良好	205	底の目録ハズ
247	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	染付	皿			4.0	(1.9)	-	-	(陶)黒青灰(587/1)	-	-	良好	206	調整型上型
248	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	染付	皿			9.5	(1.7)	-	-	(陶)灰白(1078/1)	灰白(2.507/1)	-	良好	231-C	小代遺型上型
249	扇田水越跡・光通寺跡	4T(1層)	磁器	碗				-	-	-	-	-	-	良好	215	小代遺型上型
250	扇田水越跡・光通寺跡	4T(1層)	磁器	碗		(11.6)	(5.6)	6.3	-	-	(陶)黒灰(7.576/1)	(土)赤褐色(2.576/4)	-	良好	231-B	小代遺型上型
251	扇田水越跡・光通寺跡	2T(1層)	磁器	仏花器	口 部	(10.8)	-	(2.4)	-	-	-	-	-	良好	231-D	小代遺型上型
252	扇田水越跡・光通寺跡	4T(1層)	陶器	香炉	口一腰部			-	-	-	-	-	-	良好	227	初期あり
253	扇田水越跡・光通寺跡	2T(1層)	磁器	瓶	口 部			6.8	(9.0)	-	-	-	-	良好	225	初期あり
254	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	磁器	椀	口 部			11.3	(7.0)	丸手目	(陶)赤褐色(1092/1)	(土)赤褐色(1094/3)	白色磁粒(0.5-1mm)少量	良好	203	初期あり
255	扇田水越跡・光通寺跡	1T(・H層)	磁器	椀	口 部			4.6	(3.8)	-	(陶)灰白(576/1)	(土)灰白(576/1)	-	良好	227	初期あり
256	扇田水越跡・光通寺跡	5T(・H層)	染付	碗		(6.2)	-	(4.9)	-	-	(真)黒(真)黒(2.577/2)	(土)灰黒(2.577/2)	-	普通	183	書状文
257	扇田水越跡・光通寺跡	3T(・H層)	染付	壺		(34.8)	-	(43.0)	ハケ・ナシ	ハケ・ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、わずかに砂粒(0.5mm)含む	良好	187	書状文
258	中村館跡	1T(S-1)	土器	壺					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	小粒(5mm)少量、カセシる、器底に少量含む	普通	182	五弁花文
259	中村館跡	1T(S-2)	瓦	軒平瓦					ナシ	ナシ	灰(N4)	灰(N4)	白色磁粒(0.5-1mm)わずかに含む	普通	185	
260	中村館跡	1T(S-2)	瓦	軒平瓦					ナシ	ナシ	(土)灰黒(10076/1)	(土)灰黒(10076/1)	黒褐色を帯び、少量含む	良好	188	
261	中村館跡	1T(S-2)	瓦	瓦					ナシ	ナシ	灰黒(1076/5)	灰黒(1076/5)	黒褐色を帯び、少量含む	普通	186	
262	中村館跡	1T(S-2)	染付	椀		(8.2)	(12.7)	3.4	-	-	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	普通	182	
263	扇田水越跡	3T・中層	須置鉢	須置鉢					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	普通	185	
264	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	石臼		(4.5)	(3.4)	(0.8)	-	-	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	良好	188	
265	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	鉢		(17.0)	-	27.0	ハケ目	ハケ目	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	良好	186	
266	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	鉢					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	良好	188	
267	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	壺					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	良好	191	瓦割跡?
268	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	壺					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	普通	192-B	
269	扇田水越跡	4T(S-1)	土師器	壺					ナシ	ナシ	明焼(7.576/5)	明焼(7.576/5)	黒褐色を帯び、少量含む	普通	192-A	

Ⅳ. 石橋の調査

1. 乙宮橋

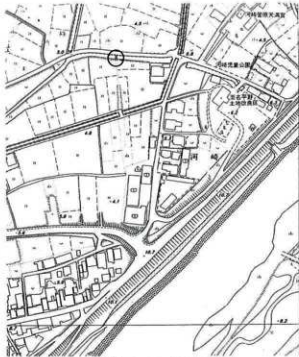
所在地：河崎地内

調査期間：平成10年5月

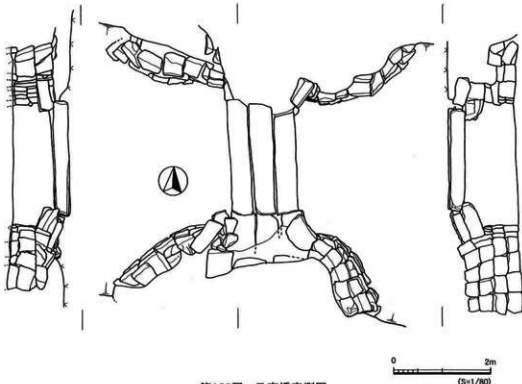
担当者：末永 崇

乙宮橋は、旧高瀬町から北東へ300m程の日出川に架かる石造列橋で、橋長約5.6m、幅約1.4m、支間約2.4mを測る。桁は4列であったとみられるが、調査時点では西側の1本は脱落しており、石材は川床からは確認されなかった。調査後に桁1本分をコンクリートで補強されている。

乙宮橋は、南に140m程の地点にある乙宮への参道として利用されていたようで、付近住民への聞き取りでは「乙宮さんの橋」「サキタ川の橋」などの呼び名があったそうである。



第161図 乙宮橋位置図 S=1/5,000



第162図 乙宮橋実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



乙宮橋近景
(西から)



乙宮橋(北から)



乙宮橋(南から)

Ⅲ 平成14年度の調査



乙宮橋修復後
(東から)



乙宮橋修復後



乙宮

2. 石造十六橋

所在地：山田地内

調査期間：平成10年5月

担当者：株式会社文化財環境整備研究所

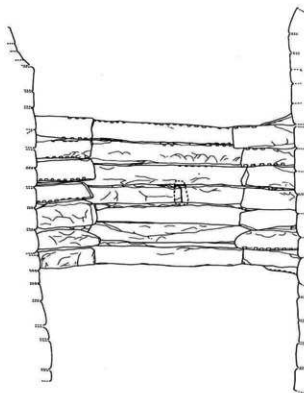
石造十六橋は、山田の集落が所在する丘陵東側の境川に架かる石造桁橋で、橋長約69m、幅約29m、支間約5.3mを測る。桁は2段7列で、中央部分に支柱が1本ある

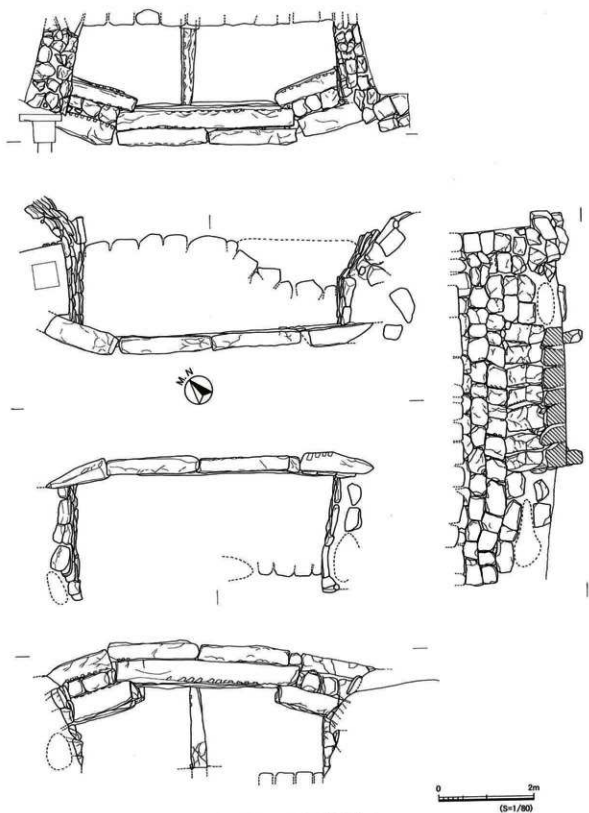
現在は、北側にコンクリート橋が新設されており、それが十六橋となっているため、石橋は旧十六橋とされていたが、玉名市保護審議会での審議の過程で石造十六橋となっている。

建築時期は、名称の由来にもなっているように明治16年とも伝えられているが、詳細は不明である。



第163図 石造十六橋位置図 S=1/5,000





第164図 石造十六橋実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



石造十六橋近景
(南西から)



石造十六橋
(西から)



石造十六橋
(南から)

3. 石貫車橋

所在地：石貫地内

調査期間：平成15年1月20日～1月24日

担当者：末永 崇

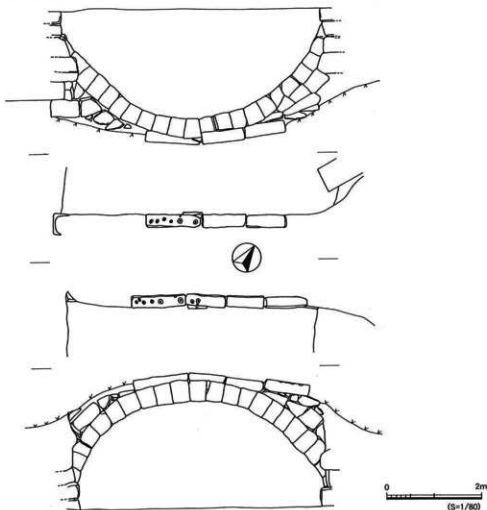
石貫車橋は、繁根木川の支流山口川に架かる、単一アーチ式の石橋で、長さ約6.0m、幅約2m、径間約5.5mを測る。

かつて石貫ナギノ横穴群が位置する丘陵上に所在した、熊野座神社への参道として利用されていた。神社は80年ほど前に焼失し、その後移転されたために現在は丘陵上には存在しない。碑文などの史料については今のところ確認されず、建造年等は不明である。

車橋は、他には南に1kmほど離れた繁根木川に架かっていた石造アーチ橋が存在したが、昭和50年代に流失しており、その後再建されて広福寺橋となっている。



第165図 石貫車橋位置図 S=1/5,000



第166図 石貫車橋実測図

Ⅲ 平成14年度の調査



石貫車橋近景
(南西から)



石貫車橋
(南西から)



石貫車橋
(南から)

付論 近世における「高瀬」の側面と出土陶磁器

—確認調査の結果から—

養父雅史

- | |
|---|
| 1. はじめに
2. 高瀬町について
3. 近世礎石建物跡の一例
4. 高瀬の近世陶磁器
(1) 陶磁器の出土遺跡
(2) 陶磁器の器種と分類
(3) 「染付VOC芙蓉手文皿」について
5. おわりに |
|---|

1. はじめに

玉田市では近年、都市計画に伴う道路などの開発が進み、確認調査の事例も増加している状況にある。今回、論題とする高瀬地区も例外ではなく、市道の拡幅や店舗の新築工事に伴い、「高瀬本町通遺跡」や「高瀬御茶屋跡」などの近世遺跡における調査で陶磁器の資料を得ることができた。

高瀬は、近世において肥後五ヶ町に数えられ、県内でも重要な貿易拠点として栄えた港町である。この高瀬から出土する近世陶磁器は、時代背景と共に意義深いものであると考える。

そこで、陶磁器を中心に出土遺物の分類を行い、時期特定などにつながる要点を整理したうえで、その流通状況を概観する。また、高瀬町の確認調査によって、近世の建物跡を検出したのでその例を報告し、ここで併せて近世における高瀬町を考察したい。

2. 高瀬町について

高瀬は、もともと菊池川と繁根木川に挟まれた中洲（砂嘴）であり、浅瀬で当初は「高洲」と呼ばれ、その後「高瀬」という地名がついたとされている（『肥後国誌』）。中世において、菊池一族の系統を引く高瀬氏が出現し、ここに保田木城（別称：高瀬城）を築き、次第に町並みが形成されていった。中世の頃から、高瀬に津（湊）が置かれ、韓半島や中国・明などの海外貿易港として発展し、多量の青磁などが輸入されている。現在でも、湊跡の川床からは12世紀以降の青・白磁の破片が採集される。^(註1) 菊池氏が、菊池川下流の高瀬に着眼したのは、何よりも菊池川を支配し、なお有明海を介する対外貿易を目的とするためだったと考えられている。

近世において高瀬は、肥後藩主・細川重賢の藩政改革により、「肥後五ヶ町」（熊本・川尻・高橋・八代・高瀬）の特別行政区として独立し奉行所が置かれ、高瀬町は大きく上・中・下の三丁（本町・

下町・八日町)に分割された。^{<注2>}

湊は国内移出の拠点へと変化し、大坂へと肥後米(いわゆる高瀬米)を輸送するために「御蔵」や「舟着場・俵転がし」といった付属施設が造営され最盛期を迎える。菊池川水運は“高瀬下り”とも呼ばれ、高瀬は、東北の穀倉地帯を代表する集積地となった。菊池川に併行して開削された「裏川」が町並みを流れ、そこに架かる多くの石橋などによって様々な物資が運搬され、玄関口として「高瀬目鏡橋」(県指定重文)が架設されている。また、三池往還筋でもあり、人と物が往来する商都が形成されていた。

しかし、高瀬は、明治10年の西南戦争で戦火にあい、2月27日の昼に横町を除く大半が焼失している。薩軍は熊本の高瀬まで北上し、ここで南下してきた官軍と対戦、西郷小兵衛(一番隊小隊長)が戦死するなど多くの死傷者が出た。そして官軍側の放火により、火の手は高瀬町に及び商家や民家をはじめ、肥後藩にとっても重要な施設であった高瀬御茶屋や御蔵などもすべて焼失した。^{<注3>}

熊本県立図書館所蔵の史料に『事変西南之役』があり、当時の高瀬の火災状況が詳細に記録されている。それによれば、高瀬の家屋188戸が焼失したとされ、今回の確認調査においては、高瀬の3地点において西南戦争時のものと考えられる焼土層が確認されている(本編参照)。

西南戦争後、藩直営の施設を失い、また鉄道開通などによって県北最大の集積港としての機能は廃れていった。しかし、今なお残る高瀬の商家や町屋は戦火を逃れ、増改築を経ながらも以後約130年の時間を越えて商店街を形成している。

ここで、本題に入る前に近世当時の高瀬町の人口をあげておきたい。町奉行であった高瀬寿平が記した「大万帳」(弘化5～嘉永元年)によると当時の人口は次のようである。

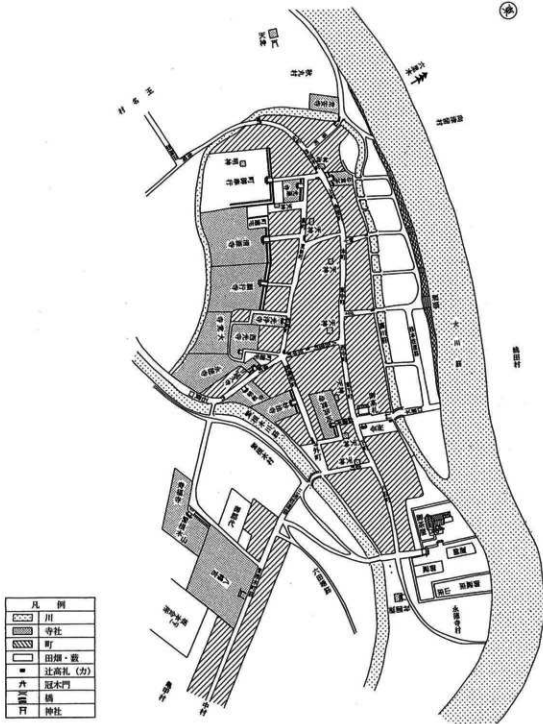
	人口(人)
町人	1539
職人	569
役人	370
僧侶	67
合計	2545

第1表 近世(幕末)における高瀬の人口(1848年当時)

この記録によると約2600人が高瀬に居住していたことになる。ちなみに明治時代(西南戦争前)の高瀬の人口は2897人(明治8年「御間合二付御届」より)で、維新後に約300人増加している。

なお、現在の玉名市の人口は、約45000人で、そのうち高瀬地区に限ると約680人であり(玉名市役所統計)、江戸時代に比べかなり減少していることになる。

※注 近世において菊池川は「高瀬川」と呼ばれていたが、本稿では菊池川で統一することにする。



第1図 近世における『高瀬町図』 <嘉永7(1854年)>
(『玉名市史/資料篇1(地図・絵図)』より転載)

3. 近世建物跡の一例

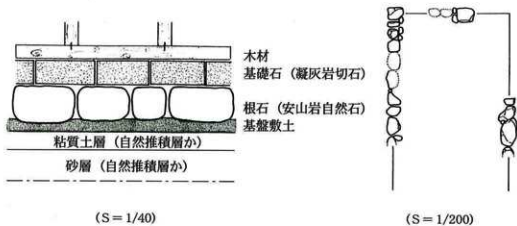
平成14年度に調査した高瀬本町通遺跡から近世の建物跡と思われる礎石が出土した。当初、確認調査によるトレンチで4個の礎石を検出するのみであったが、その後の慎重工事の過程で新たに礎石が出土して急遽、立会調査を行った。その結果、総合して17個の礎石を検出し、ほぼ間口を特定

できる建物一棟分を確認することができた。掘削していない部分も石列は、残っていると思われる。

土層を観察すると、礎石の下層は川の洪水によると考えられる灰褐色の粘土層と川砂による堆積層であり地盤は緩い。高瀬は、前に述べたように砂嘴であり、川の氾濫の度に砂が堆積している可能性があり、以前の中世・高瀬町の生活面からは約3～4m上面が現在の生活面とみられているのである。

礎石の構造をみると、まず粘質で締りの強い黄褐色粘土（おそらく周辺のローム土）を敷き、人為的に基盤の代わりとして固められている。近世の土木工事などでは地盤が緩いとき、土台木や梯子土台などの技法が用いられることがあるが、高瀬においては「裏川」の石垣で止杭と土台木の使用が認められている。^{<註4>}

この敷土の上に約40～80cm四方の安山岩自然石が天端を揃えて設置され、その直上に凝灰岩切石（約40cm四方）が並んでいた。



(S = 1/40)

(S = 1/200)

第2図 高瀬における近世礎石建物の模式図と平面図

今回、検出した礎石建物は、間口の寸法が礎石中心で約6mあり、「3間」であったと判断でき、奥行も5間程までは確認した。近世において高瀬の場合、各戸の規模は間口3間未満が約半数で平均的とされ、本通り・上町で8間が数件、本町・中町で4～5間、下町から八日町にかけては3間が多かったといわれている。^{<註5>} 今回の調査は、下町でありそれを裏付ける一例となる。また、高瀬は敷地自体も間口が狭く、奥行が長いのが特徴だが、他都市の町屋よりも長いといわれ、狭いため隣家と壁を共有する共壁が用いられた。礎石も隣家と共有する形であったのかもしれない。

県内において、城郭を除き近世建物の完全な発掘はほとんど行われていないに等しいが、参考に類例を挙げれば、長崎県の出島和蘭商館跡の発掘調査において、間口3間×奥行5間の礎石建物（一番蔵跡）の出土例がある。^{<註6>} 今後、近世における町屋との比較、及び高瀬の他地点におけるデータを蓄積し、町並みなどを文献史料と共に検証していくことが課題と考える。

(※補記) 平成15年度における高瀬下町の確認調査でも、一軒の礎石建物跡を確認した。同じように

焼土層下に安山岩の礎石列が東西方向で検出できた。

4. 高瀬の近世陶磁器

(1) 陶磁器の出土遺跡

これから本稿で紹介する陶磁器が出土した遺跡について、具体的な概要を述べたい。主に平成13～14年度にかけて行った確認調査地であり、調査内容についての詳細は本編で述べているので省略する。(調査地点については第4図参照)

①高瀬町奉行所跡

高瀬には、肥後五ヶ町として町奉行が置かれ、明治2年に廃止されるまで同地にあった。町奉行とは町の政治責任者であり、高瀬の場合、藩庁の町局に属する二百石高の平士一人が任じられていた。^{<註7>} 高瀬目鏡橋の架設に関わった高瀬寿平もその一人で、後に宮内省の天皇侍講となった元田永孚が町奉行の最後を務めている。

県の遺跡地図では「保田木城跡」と同じ範囲で、同一の複合遺跡として扱ってある地点である。確かに保田木城跡の一角に、近世になって奉行所が置かれたが、保田木城跡は中世の遺跡であるから、近世陶磁器は出土しない。基本的に中世の遺構を切って、近世の建物跡及び、陶磁器が出土するので、本稿では遺跡名を「高瀬町奉行所跡」で統一する。ちなみにこれまで本格的な発掘調査が行われていないので、奉行所跡などの具体的な遺構は未確認である。また、同じ遺跡範囲内で奉行所の南には「光蓮寺」という寺院が近世に建立されている。現在はないが、この跡地にあたる所を調査することができ、多量の近世陶磁器を採集した。

②高瀬本町通遺跡

現在の国道208号線より北側に延びる中町商店街を中心に広がる遺跡で、江戸時代に形成された町並みが今も色濃く残っている。しかし、本来は中世の高瀬町を含めた意味での複合遺跡である。

以前、下水道工事の際に多くの中世遺物(瓦器・青磁・漆器・中国貨銭など)の出土例がある。^{<註8>}

近世になって、現在のように表通りと裏川の間に沿って商家が建ち並ぶ景観となった。西南戦争での被害も本町は比較的少なかったため、当時の商家が最もよく残っている。今回、一部の近世礎石建物跡を確認している。

③長福寺跡

八日町に建立された中世寺院跡であり、大野氏が造営したともいわれる。^{<註9>} 中世の高瀬において、貿易の実務にあたったのは禅宗などの僧侶であり、早くから各宗派の寺院が数多く建てられた。その代表が宝成就寺であり、周辺は門前町の様相を呈していた。この長福寺はその後、保田木に位置を変えたともいわれ詳細なことは不明な点が多い。確認調査では、寺院に伴う直接的な遺構は検出できなかったものの、その後の近世～近代にかけての建物跡、西南戦争時の焼土層、そして陶磁器が出土した。今後、長福寺跡の明確な位置やその範囲の特定が課題である。

④高瀬御茶屋・御蔵跡

高瀬御茶屋は、細川藩主の巡検時の休泊施設であり、現在のJR鉄橋北側の永徳寺に造営された。

明治10年の西南戦争で焼失し、今は当時の井戸が2ヶ所残るのみである。永青文庫所蔵の史料に『高瀬御茶屋絵図』があり、御広間・御居間など江戸中期とされる詳細な平面構造が記録されている。

高瀬御蔵は、全国の米が大坂の堂島に集められ、米経済が成立するに至り、肥後藩直営の年貢米御蔵として造営されたものである。各藩は、米相場を見計らい輸送するようになるが、肥後藩は村方を通じて年貢を集めるという効率的な方法に変え、最大の穀倉地帯であった菊池川水系の年貢は、藩直営の大小4棟の高瀬御蔵(25万俵収容可能)に収められることとなった。実際に、大坂への輸送で肥後藩からの40万俵という量は全国一で、その中でも高瀬からは約半分が積み出されていた。²⁸⁹

御蔵は、西南戦争により焼失しているが、薩軍がこれを奪取しようと迫ったため、官軍により火が放たれたといわれている。跡地には石垣と礎石のみが残存し、以前に御米山床の一部である石積みのみ発掘調査例がある。²⁸⁴

(2) 陶磁器の器種と分類

ここで掲げる「陶磁器」とは、基本的に本編の実測図と対応するものであり、出土地や出土状況などは前で報告しているので省略し、総合的に「高瀬町出土」として一括して考えたい。

また、本編に掲載している陶磁器が調査で採集したすべてではない。遺物台帳作成における分類で、特に小片や特徴の少ないもの、他と類似するものなどは除外した。そのため、以下の分類・考察などの文中に、実測図が掲載されていないものの事項も含んでいる。

a. 陶器について

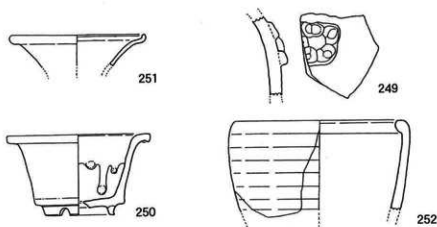
今回、高瀬における確認調査で出土した陶器を器種別に分類すると「碗・皿・鉢・壺・瓶・摺鉢・徳利・香炉・灯明具・植木鉢・水盤・土瓶・仏花器」などがある。これらの産地としての分類は、肥前の有田産の他に、唐津産、福岡産、そして地元の熊本産の陶器があった。具体的には、肥前の場合、波佐見系、嬉野系、内野山系、唐津の弓野窯系のものがあり、福岡は高田町の二川焼、大分日田の小鹿田焼、熊本は南関の小代焼と八代の高田焼の陶片が含まれていた。他に小片が多く、産地の特定が困難なものがあったが、陶器の場合、唐津系のものが多数含まれているようである。実測していないが、絵唐津葦文壺片と思われるものもあった。また、備前や萩など遠方産の特筆すべき陶器は、今回確認できなかった。

装飾技法からみると、鉄絵、二彩、刷毛目、白化粧、象嵌、陶胎染付などで表現されたものがあり、釉薬には透明釉と無釉の他に緑釉・鉛釉・鉄釉・薬灰釉・木灰釉があり、それらを地掛釉、上掛釉として二重掛けを施して仕上げたものがある。

なお、熊本の小代焼については、坂本重義氏の御教示により、南関の瀬上窯・瓶焼窯で江戸後期～幕末にかけて生産されたものを数点確認した。その器種は、甕・土瓶・仏花器・植木鉢・香炉で特に瓶焼窯の特徴である「飛鉋技法」が施されたものがある。²⁸¹⁰ 小代焼は、高瀬でも庶民に親しまれていたと思われるが、いつ頃から流通しているのかを明確にするのが今後の課題である。

瀬上窯は1836(天保7)年、他国産の陶磁器流入に対抗しようとする藩の方針によって始められた殖産窯である。今回、瀬上窯の江戸末期のものが主であったが、そのような背景のもとに多く流通

していたとも考えられる。



第3図 高瀬出土の小代焼(瀬上窯産) (S=1/3)

八代の高田焼は茶器が多いとされるが、出土したのは小皿で、見込み内に白色を呈した円と桜文の象嵌が施されており三島唐津の象嵌とは異なるものである。八代焼は、上野喜藏を祖とし、次男・徳兵衛が松尾焼を起し、その子・太郎助が第3家として象嵌手法を完成させたといわれ、当資料は、松尾焼の系統を引くものと思われる。八代も高瀬と同じ肥後五ヶ町の一つであり、それら陶磁器の流路は当然あったはずである。

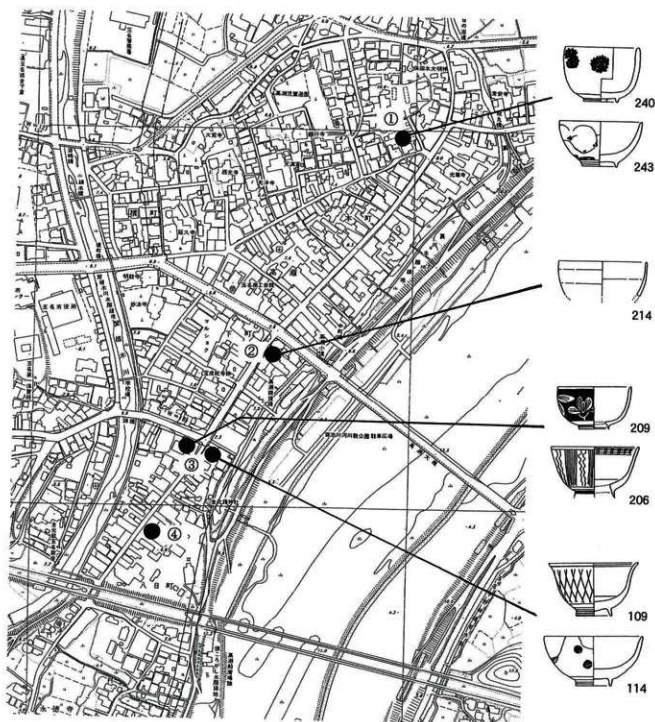
また、特筆すべきは肥前産の皿片で、初期の焼成技法の特徴である砂目痕が確実に見込み内に残るものを1点確認できたことである。おそらく1610～1630年代に生産されたもので今回、高瀬において最も古い近世の陶器資料となる。

高瀬は、中世より海外貿易港として栄え、港町また門前町としての様相をもっていた。よって、今後の調査により海外産(タイ・ベトナムなど東南アジア系)の陶器が出土する可能性もあると考えている。

b. 磁器について

出土した磁器を器種別に分類すると「碗・皿・盃・角鉢・猪口・壺・甕・瓶・銚子・段重・茶入れ・徳利・仏飯器」などがある。陶器と同様に、トレンチ調査でありながら、総括すると近世当時の庶民の日常生活に伴う一式の器種が揃っている。それらの器種をさらに細分すると「碗」の中では、丸碗・平碗・端碗・広東型碗・筒型碗(湯呑)・飯碗に分類される。また「皿」は、大皿・小皿・手塩皿・輪花皿・紅皿に分類できる。

これらの磁器の産地は、肥前の有田・嬉野・波佐見などがあり、中でも窯跡の発掘調査が行われている小樽窯・広瀬向窯・樋口窯など18世紀前半以降の遺物と類似するものが含まれる。銘款のある染付磁器としては、皿・碗・蓋の3点があり、それぞれ高台内に「富貴長春」・「太清壬子年製」・「哲」とあり、いずれも18～19世紀の特徴を備えている。「富貴長春」銘は十字ではなく二行に配したもので、明末～清の磁器から写したと推測されているものである。特に「太清壬子年製」銘



第4図 高瀬の調査地点と出土した近世磁器碗 (地図S=1/5,000)

	遺跡名 (調査地)
①	高瀬町奉行所跡
②	高瀬本町通遺跡
③	長福寺跡
④	高瀬御茶屋跡

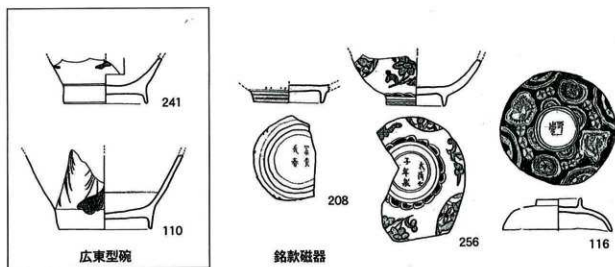
は、中国の国号と年号を転用したもので、通常は“大明成化”など、明代のものが多いが、これは清朝の影響を受けた19世紀の所産と思われる。他の類例として、「大清雍正年製」銘などが確認されている。「哲」銘は、有田の樋口窯などにみられ1780～1860年代に製造されているものに類似している。^{註11}

なお、染付以外の色絵は今回、確認できなかったが、染付と色絵が混合した磁器の皿片は1点のみ出土している。これは、後世の重ね塗りの可能性もあり、確実とはいえない。

製作技法からみると、見込み内に蛇目軸刺ぎのあるものが碗と皿で3点、また蛇目凹型高台の皿が2点あった。コンニャク印判による染付は、18世紀前半の碗が1点あり、菊花文（団鶴文か）など2パターンの文様が確認できる。18世紀に流行したとされる見込み内に五弁花文様を施す碗があったが、文様の形がかなり崩れ簡略化されたものなので、18世紀後半の所産であろう。その他、明治の型紙刷印判の染付が、皿、筒型碗、段重の3点が含まれていた。

碗の形態からみると、1780年代頃から主流となる広東型碗が2点あり、その時期と共存するとされている筒型碗も揃って確認できる。他に蓋付碗や、そば猪口なども出土したが、それらの器種は庶民の経済力の向上が背景にあるといわれているものである。^{註12}

なお、高瀬御茶屋跡において、染付の「茶入れ」が出土した。茶道具の一部なのか分からないが御茶屋との関連性など検討を要する。



第5図 高瀬出土の近世磁器 (S=1/3)

肥前産の磁器が大半を占めているが、中でも波佐見焼であるいわゆる「くらわんか」が碗と皿に多くみられ、最も庶民に親しまれた磁器として高瀬町にも普及していたようである。なお、磁器の年代は、全体的に大橋編年（1989）のIV期～V期に属し、18世紀前半以降に相当ものが主流であった。それよりも確実に先行するといえるものは今回、確認できなかった。IV期は、全国的に肥前磁器の出土例が増加する時期であり、食器における需要が増大し、機能別に器種が多様化するといわれている。^{註12} 以上のような結果から、高瀬もその傾向が窺える。高瀬近辺の遺跡では、寿福寺跡や玉東町の世尊寺跡の調査例があり、高瀬とほぼ同時期の肥前磁器の流通状況が知れる。

(3) 「染付VOC銘芙蓉手鳳凰文皿」について

平成15年3月に行った高瀬宇保田木の「高瀬町奉行所跡」における確認調査において、染付のVOC銘芙蓉手文皿（以下、VOC皿）と判断される破片が出土した。また、菊池川の近世港・高瀬船着場跡付近で以前、玉名市の松本秀藏氏により採集されていた同類のVOC皿破片をここで併せて参考資料として紹介したい。

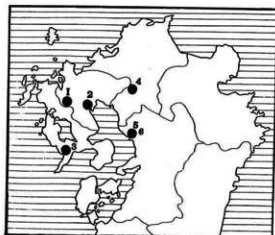
a. 「VOC銘芙蓉手鳳凰文皿」の概要

まず、この皿について概要を述べたい。「VOC」とは、「Verenigde Oost-Indische Compagnie: オランダ連合東インド会社」の略名で、1650年以降から有田焼を伊万里港から世界に輸出していた貿易会社の名称である。VOCは当初、中国の景徳鎮窯などの磁器を代表としてアジア各国に輸出していたが、中国国内の戦乱により廃れ、それに変わる磁器として「有田焼」がその対象となった。

当時、日本は鎖国政策下にあったが、出島を通してのオランダと中国以外との貿易は行われていなかったため、VOCは独占的に大量の磁器を発注し、ヨーロッパなどに輸出した。また、有田焼の生産も向上し、いわゆる「伊万里」として名声をあげた。このような背景の中で、VOCが有田の窯へ自社マークを入れ生産させた特注品がこの皿である。この皿は主に、有田町の谷窯・稗古場窯において製作されていたことがわかっている。皿の大きさは4種類に大別でき、全体的に大皿の類に入るが、直径が40cmを超えるものは少ない。また、皿としてはやや深く、文様は芙蓉手という割付の図柄が施され、二羽の鳳凰、窓絵は6分割されて牡丹と竹梅文が交互に描かれ、中央に「VOC」の社名を重ね合わせたマークが入る。¹²⁾¹³⁾

b. 他遺跡における出土例

この「VOC」銘入りの芙蓉手文皿は、その会社名を売出すため、主に輸出用として海外に運ばれたものであり、現在でもドイツなどヨーロッパ各地に残されているものがある。しかし、生産地は日本（佐賀県有田町）であり、実際に製作されていた窯跡からその陶片が出土している他、国内において数箇所によりこの皿が出土している。



	遺 跡 名	所在地	出土遺構など
1	稗古場窯跡	佐賀県有田町	※生産地
2	笹谷遺跡	# 塩田町	藩役所跡(遺構外出土)
3	出島和蘭商館跡	長崎県長崎市	商館員食器として多量出土
4	久留米城下町遺跡	福岡県久留米市	廃棄土坑より出土
5	高瀬町奉行所跡	熊本県玉名市	遺構外出土
6	高瀬船着場跡対岸	#	表採資料

第6図 国内における「VOC皿」出土地

生産地と同じ佐賀県内の笹谷遺跡は藩の役所跡とされ、ここから遺構に伴わず、径30cmの皿(約1/3残存)が出土している。なお、これには高台内にハリ支え痕がある。

長崎県の出島和蘭商館跡からは、発掘調査によって最も多く出土している。当時、出島はVOCの貿易拠点地でもあり、出土量や出土状況からも、出島商館員たちの日常食器として利用されていたと考えられている。¹³ 福岡県の久留米城下町遺跡では、近世(享保～文政年間)の火災に伴う廃棄土坑から焼土や他の陶磁器と共伴して出土している。¹⁴ 径21cm(約1/2残存)で、これも高台内にハリ支え痕がある。

そして、今回確認した熊本の高瀬町奉行所跡を含めて、以上が、現在確認できた国内における出土地である。主に生産地(佐賀)と、貿易地(長崎)を中心にした九州の範囲内に限られ、当時、国内における消費の拠点であった江戸(東京)・大坂(大阪)においても出土例はないという。¹⁴

また、注目したいのが九州における出土地をみても、通常の近世遺跡(庶民集落)よりは、藩の官衙施設などからの出土例が多いことである。

出島は、実際に貿易拠点地であるので出土する理由は考えられるとして、佐賀の藩役所跡や高瀬の町奉行所跡、及び久留米城下町など藩の役人が勤務あるいは居住する地点からの出土例が多い。やはり「くらわんか」のように庶民的に流通した皿ではないことが窺われる。生産地である有田から粗悪品などが数点出回り、藩を通して極一部の中で使用され、破損すれば通常のように廃棄されていたようである。本来、輸出用であるため、国内では流通していないし、特別珍重というわけでもなかったであろう。ただ、それがVOCの皿としてどれだけ認識されていたかは疑問である。

c. 高瀬における出土品

①高瀬町奉行所跡資料(第7図-①)

平成14年の確認調査によって、トレンチ内から出土したものである。調査敷地に対するトレンチ数とその面積の割合には多量の近世陶磁器が出土した。

これは、口縁部の破片であるが、おそらく全面発掘すれば他の接合部位があったものと思われる。復元口径は32cmで、口縁の窓絵には芙蓉手文の一部である牡丹と、見込みに鳳凰の尾先が一部確認できる。この図柄の配置構成は、破片ながら「染付芙蓉手鳳凰文皿」であると考えられる。しかし、中央の「VOC」マークまでは残存していないため、断定はできないが、別タイプとしてVOC銘が入らない芙蓉手文皿もある。他の染付磁器をみても、文様構成としての芙蓉手文は多種類あるが、この種の図柄は、他にみられない。全体的な呉須発色の濃淡具合に対しての口縁端部のだみの濃さ、見込み段下の円の空白部、透明釉の貫入、皿の断面をみてもVOC皿の特徴と近似する。

しかし、出島から出土している資料の中で、図柄構成は同じながら、窓絵の枠線や文様全体に丸みがあり、呉須発色が濃い藍色のタイプ(仮にA類とする)のものとはやや異なる。これは、呉須発色が薄く、全体の線が細いタイプ(仮にB類とする)で、久留米城下町遺跡のものと同様に見える。この差異は、生産窯の違いか、絵付師の違いか判断できないが、A類のタイプがより緻密なデザインなので輸出用なのかも知れない。いずれにしても、これは輸出されずに国内に残されたものということになる。



①高瀬町奉行所跡 (推定復元・九州陶磁文化館資料等参考)

②高瀬船着場跡付近

第7図 高瀬出土の「VOC皿」片 (S=1/3)

②高瀬船着場跡付近採集品 (参考資料・第7図-②)

この遺物は、菊池川の川床にて玉名市在住の松本秀蔵氏(元・市文化財保護委員)によって採集されたものである。¹⁵ 菊池川は従来より、土器などの遺物が採集される川として知られ、縄文土器から弥生・土師器・須恵器・瓦器・青白磁・近世陶磁器など年代も幅広く、実に多くの遺物が採集されており、周辺は「高瀬菊池川河床遺跡」として県遺跡地図にも登記されている。これらは、近年における上流のダム建設や堤防工事、砂取業によって水流に微妙な変化が生じ、川床の埋藏遺物が出土していると考えられるが、特に青磁は中世からの海外貿易港であった高瀬の痕跡から、国内では最も多く採集されている。近世になると、港は別章で述べたように積出港として発展し、肥後を代表する船着場となった。この皿片は、船着場跡と高瀬目鏡橋の中間にあたる川床で採集されたものであるが、他にも近辺から明や安南の青花(染付)皿、唐津系緑釉碗、天目碗、伊万里系青磁など輸入品を含め近世陶磁器が多量に採集されている地点である。¹⁶

遺物を観察すると、見込み中央部のみの破片で、「VOC」銘が確認できるが、Vの左上とOの字が部分的に欠損している。他に、それを囲む円文と周囲に花卉と葉の一部が確認でき、線が細く、呉須発色の薄いB類で、高瀬町奉行所跡で出土した資料(以下、①資料)と同タイプであると思われる。なお、高台内にハリ支え痕が2ヶ所残り、見込み内には一見、砂目にも見える癒着痕が残っている。①資料に比べ、同じ透明釉であるが貫入はみられない。川床の採集品でありながら、ハリ支え痕などから贗物とは考え難い。

d. 考察

熊本では、肥後五ヶ町の一つである高瀬において、いわゆるVOC皿が2点出土している。この皿片が同一固体である可能性もないわけではないが、出土地点も離れているし確実な接点もないので無理がある。2点の相違点を挙げるならば胎土で、①資料がやや灰褐色を呈し、不純物が混入しているのに対して、②資料は白色で不純物の混入がほとんどない。おそらく陶石の違いと思われるが、それを除いて、この2点は破片ながら呉須色・釉調・文様線の太さなどの特徴が共通する。い

ずれもB類で、久留米城下町遺跡の資料と同類品と考えられる。また、留意点としては出島・笹谷遺跡・久留米城下町遺跡、及び高瀬船着場跡の採集品には、いずれも高台内にハリ支え痕が残っていることである。通常、焼成技法として砂目積みの方が初期(1600～1650)で、ハリ支え技法は17世紀中頃以降からみられるので、砂目痕とハリ支え痕が同時に残ることはない。よって、②資料の見込みに残るものは、砂目痕よりは癒着痕(フリモノ)とみた方が妥当である。以上のようなことから、これらは同じ技法によって製造されたといえる。また、これらが製造された実年代は断定できないが、胎土からして②資料よりも、不純物の多い①資料の方がやや先行するものと考えられる。

なお、この皿は、主に1650～1730年代を中心に生産されているので、その間かあるいは、その後伊万里港から船で陸揚げされたか、佐賀～福岡(久留米)方面に陸伝いで高瀬に出回ったものと想定される。

菊池川の採集品については、例として高瀬湊(港)の川床から青磁が多量に出土する理由を挙げると、貿易船が輸出品として青磁を運搬してきて、途中で割れたものは選別し、港に荷揚げする前に船上から投棄していたためとの見方がある。¹⁷ また多くの近世陶磁器が同じ川床から出土するのも、そこに近世に繁栄した船着場があったからといえるのかも知れない。当時の交通手段は、街道を除くと海や川の水運が主流であり、特に高瀬町は多くの物資が港から陸揚げされた。

久留米城下町遺跡出土の皿について、園井正隆氏(久留米市教委)は、「久留米藩は、出島の情報を収集するために、長崎に出張所を設けており、貿易品が久留米藩に流れる窓口があった可能性はある。」と述べている。

このように、高瀬の場合も肥後藩、あるいは高瀬町奉行所を通じて搬入されたものと考えられる。

なお、高瀬には「信牌」という幕府発行の長崎通商照票が残存している。これは、長崎との貿易許可書であり、交易があったのは事実といえる。しかし、問題はいずれの資料も破片であり、全国的に出土例が少ないだけに検討するに少々の危険を伴うので、今後の調査に期待することにしたい。

5. おわりに

高瀬は玉名にとって、歴史的にも重要な位置を占めている。近世遺跡の発掘は、絵図・文献史料と併せた考察が不可欠とされているが、それに準ずる対象データ及び、考古資料の蓄積が必要となる。しかし、まだ高瀬町の数%しか調査しておらず、完全に検証資料が揃っているとはいえないので不明な点が多いのが現実である。

これで高瀬における出土陶磁器の年代幅を提示するのも無理があるが、概観すれば、今回、1610～1630年代(大橋編年Ⅱ-I期)を上限として、以降幕末まで流通し、明治の印判磁器が流入するに至っている。全体的に、中世末から近世初頭の様相を追及するに至らなかったことは不十分であり、また、長崎(出島)との交易、関係がどのようなものであったのか、埋蔵文化財の面からは限界があるので今後の課題とし御指導を承りたい。

最後に、出土した小代焼をはじめ各陶磁器について御教示いただいた南関町教育委員会の坂本重義氏、また採集資料を御提供していただき掲載を承諾して下さった松本秀蔵氏と玉名市立歴史博物館の方々には厚くお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 注1 田邊哲夫 「菊池川口の港の変遷について(私案)上」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(一)』1987
- 注2 吉田荘一郎 「軒並系図書における高瀬町南部の町の性格について」同上 1987
- 注3 田邊哲夫 『戦場そして基地高瀬』玉名市立歴史博物館企画展図録 1997
- 注4 西田道彦 『御山床発掘調査』『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(一)』玉名市 1987
 ※補記 肥後五ヶ町の一つ川尻においては、御蔵の建物が一部現存しており参考にてできる。
- 注5 北野 隆 「高瀬の町屋」『玉名市史・資料編3(自然・民俗)』玉名市役所 1993
 秋元一秀 玉名市歴史博物館講演会における崇城大学工学部の発表記録による 2004
- 注6 高田美由紀 『出島和蘭館跡』復元事業に伴う発掘調査報告書 長崎市教育委員会 2000
- 注7 田添夏喜 『保田木城跡』『玉名の文化財・総集編』玉名市教育委員会 1974
- 注8 田添夏喜 「高瀬本町通り遺跡」『文化財めぐり・82』玉名市史編集委員会 1985
- 注9 田邊哲夫 「菊池川水運・港の歴史」『川と港展』玉名市立歴史博物館企画展図録 1997
- 注10 坂本重義 『小代焼瀬上窯跡・瓶焼窯跡』南関町文化財調査報告書 南関町教育委員会 1995
- 注11 大橋康二 「肥前・有田磁器にみる紀年銘について」『研究報告第89集』国立歴史民俗博物館 2001
- 注12 大橋康二 「近世における肥前陶磁の流通」『研究報告第46集』国立歴史民俗博物館 1992
- 注13 大八木雄二 「稗古場の芙蓉花」『皿山雑話4』
- 注14 園井正隆 「VOC銘入り染付芙蓉手鳳凰文皿について」『福岡考古』福岡考古懇話会 2002
- 注15 松本秀蔵 「陶片は語る」を顧りみて『歴史玉名・第29号』玉名歴史研究会 1997
- 注16 田邊哲夫 「陶片は語る」展示目録 玉名市立博物館 1996
- 注17 桑原憲彰 「熊本県出土の中国陶磁一覧表」『中国陶磁の美』熊本県立美術館 1980
- 森本一端 「肥後国誌(高瀬町長福寺の項など)後藤は山編・青潮社 1972
- 田邊哲夫 「菊池川口の港の変遷について(私案)下」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(二)』1988
- 田邊哲夫 「(伝)世尊寺跡」玉東町文化財調査報告書第3号 玉東町教育委員会 1995
- 森山恒雄 「高瀬町・高瀬津の研究史」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(二)』1988
- 西田道彦 「高瀬湊の地理的位置」『高瀬湊関係歴史資料調査報告書(一)』玉名市役所 1987
- 門岡 久 「近世(三、高瀬町)」『岱明町地方史』岱明町役場 1969
- 大橋康二 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社 1989
- 大橋康二 「肥前陶磁の変遷図」『古伊万里』大橋康二・西田宏子監修 平凡社 1992
- 佐賀県立九州陶磁文化館編 『九州陶磁の歴史的展開』佐賀県立九州陶磁文化館 1996
- 亀井明徳 「熊本県出土の中国陶磁」『中国陶磁の美』熊本県立美術館 1980
- 園井正隆 『久留米城下町遺跡』久留米市文化財調査報告書第169集 久留米市教育委員会 2001
- 吉岡康揚ほか 「近世窯業遺跡データ集成」『研究報告第73集』国立歴史民俗博物館 1997
- 成瀬見司 「江戸の武家屋敷と町屋の発掘」『考古学がわかる』朝日新聞社 1997
- 槐原慎二 『不動山窯跡群・吉田1号窯跡』嬉野町文化財調査報告書8集 嬉野町教育委員会 1998
- 槐原慎二 『嬉野町の古陶磁窯跡』嬉野町文化財調査報告書8集 嬉野町教育委員会 1998
- 東中川忠美 『内野山北窯跡』佐賀県文化財調査報告書第129集 佐賀県教育委員会 1996

IV 付論



高瀬下町線周辺
(南から)



高瀬本町通遺跡
周辺(北から)



高瀬出土
VOC皿片

報告書抄録

ふりがな		たまなしいいせきちょうさほうこくしょに										
書名	玉名市内遺跡調査報告書II											
副書名	平成13・14年度の調査											
巻次												
シリーズ名	玉名市文化財調査報告											
シリーズ番号	第13集											
編著者名	永末崇 鹽父雅史 竹田宏司 田中康雄 古閑敏士 大倉千寿											
編集機関	玉名市教育委員会											
所在地	〒865-0051 熊本県玉名市繁根木88-1											
発行年月日	平成16年3月31日											
ふりがな	所在地	コ		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因				
		市	町村						遺跡番号			
岩崎城跡	玉名市岩崎	43206	221	32°55'46"	130°33'34"	平成13年4月1日 }		個人住宅、 共同住宅、 道路・店舗 等各種開発				
岩崎原遺跡	玉名市岩崎	43206	219	32°55'57"	130°33'24"							
古閑遺跡	玉名市築地	43206	163	32°55'47"	130°32'17"							
高瀬御茶屋跡	玉名市高瀬	43206	208	32°55'24"	130°33'50"							
一本松遺跡	玉名市伊倉北方	43206	276	32°54'39"	130°35'37"							
高岡原遺跡	玉名市山田	43206	277	32°56'03"	130°32'53"							
保田木貝塚	玉名市高瀬	43206	278	32°55'40"	130°34'02"							
保田木城跡	玉名市高瀬	43206	279	32°55'40"	130°34'02"							
福岡山古墳	玉名市繁根木	43206	280	32°55'28"	130°33'40"							
玉名平野奈星跡	玉名市松木	43206	281	32°55'10"	130°33'03"							
永安寺跡永安寺古墳群	玉名市玉名	43206	282	32°56'49"	130°34'37"							
鎌峯遺跡	玉名市立願寺	43206	284	32°56'08"	130°33'03"							
山田松尾平遺跡	玉名市山田	43206	285	32°56'24"	130°32'47"				平成15年3月31日			
長福寺跡	玉名市高瀬	43206	286	32°55'25"	130°33'50"							
築地市場遺跡	玉名市築地	43206	287	32°55'34"	130°33'43"							
菊尾遺跡	玉名市築地	43206	288	32°55'14"	130°31'21"							
伊倉古宮原遺跡	玉名市伊倉	43206	336	32°53'17"	130°35'05"							
田嶋遺跡	玉名市中	43206	181	32°55'37"	130°32'04"							
大塚・惣伏遺跡	玉名市立願寺	43206	103	32°55'22"	130°33'24"							
上小田宮の前遺跡	玉名市上小田	43206	050	32°57'09"	130°35'48"							
上小田古屋敷遺跡	玉名市上小田	43206	126	32°56'53"	130°35'48"							
青野原遺跡	玉名市青野	43206	351	32°53'17"	130°35'49"							
高岡原遺跡	玉名市山田	43206	412	32°56'03"	130°33'36"							
五郎丸遺跡	玉名市山田	43206	063	32°56'10"	130°32'19"							
狐人路遺跡	玉名市岩崎	43206	170	32°55'47"	130°33'43"							
西の山古墳群	玉名市築地	43206	057	32°56'14"	130°31'44"							
高瀬本町遺跡	玉名市岩崎高瀬	43206	211	32°55'31"	130°33'53"							
伊倉宮の後遺跡	玉名市伊倉	43206	344	32°53'12"	130°35'01"							
亀甲遺跡	玉名市亀甲	43206	190	32°55'34"	130°33'26"							
蓬葦遺跡	玉名市築地	43206	161	32°55'46"	130°32'16"							
光蓮寺跡	玉名市高瀬	43206	-	32°55'40"	130°34'02"							
中村館跡	玉名市中	43206	-	32°55'37"	130°32'04"							
築地東遺跡	玉名市築地	43206	164	32°55'52"	130°32'11"							
所収遺跡名	種	別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項						
岩崎城跡	城館		中世	土器、甕状遺構	瓦器、瓦質土器、土師器							
高岡原遺跡	集落		弥生時代後期	住居跡、土坑、溝	弥生土器							
福岡山古墳	古墳		弥生時代後期	住居跡	弥生土器							
鎌峯遺跡	包蔵地・塚墓		古墳時代	—	円筒埴輪							
菊尾遺跡	包蔵地・塚墓		古代弥生・縄文	溝状遺構・塚墓	須恵器、弥生土器、石製品							
伊倉古宮原遺跡	集落		古墳時代	住居跡	土師器							
田嶋遺跡	包蔵地		弥生時代	ピット	弥生土器							
高岡原遺跡	集落		古代古墳時代・弥生時代	住居跡	瓦、土師器、須恵器、弥生土器							
狐人路遺跡	包蔵地		古代・縄文時代	溝状遺構・土坑	土師器、石製品							
高瀬本町遺跡	集落		弥生時代	住居跡	弥生土器							
中村館跡	城館		中世近世	—	陶磁器							
築地東遺跡	集落		中世近世	溝状遺構	土師器、陶磁器							

玉名市文化財調査報告 第13集
玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ
平成13・14年度の調査

平成16年3月29日印刷

平成16年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒865-0051 玉名市繁根木88-1

印刷 株式会社 有明印刷
〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1
TEL0968-73-2055

